

Veritas NetBackup™ インストールガイド

UNIX と Windows

リリース 8.1.2

Veritas NetBackup™ インストールガイド

最終更新日: 2018-10-18

マニュアルバージョン: NetBackup 8.1.2

法的通知と登録商標

Copyright © 2018 Veritas Technologies LLC. All rights reserved.

Veritas、Veritas ロゴ、NetBackup は Veritas Technologies LLC または同社の米国とその他の国における関連会社の商標または登録商標です。その他の会社名、製品名は各社の登録商標または商標です。

この製品には、サードパーティの所有物であることをベリタスが示す必要のあるサードパーティソフトウェア（「サードパーティプログラム」）が含まれている場合があります。サードパーティプログラムの一部は、オープンソースまたはフリーソフトウェアライセンスで提供されます。本ソフトウェアに含まれる本使用許諾契約は、オープンソースまたはフリーソフトウェアライセンスでお客様が有する権利または義務を変更しないものとします。このベリタス製品に付属するサードパーティの法的通知文書は次の場所から入手できます。

<https://www.veritas.com/about/legal/license-agreements>

本書に記載されている製品は、その使用、コピー、頒布、逆コンパイルおよびリバースエンジニアリングを制限するライセンスに基づいて頒布されます。Veritas Technologies LLC からの書面による許可なく本書を複製することはできません。

本書は、現状のままで提供されるものであり、その商品性、特定目的への適合性、または不侵害の暗黙的な保証を含む、明示的あるいは暗黙的な条件、表明、および保証はすべて免責されるものとします。ただし、これらの免責が法的に無効であるとされる場合を除きます。Veritas Technologies LLC は、本書の提供、内容の実施、また本書の利用によって偶発的あるいは必然的に生じる損害については責任を負わないものとします。本書に記載の情報は、予告なく変更される場合があります。

ライセンス対象ソフトウェアおよび資料は、FAR 12.212 の規定によって商業用コンピュータソフトウェアと見なされ、場合に応じて、FAR 52.227-19「Commercial Computer Software - Restricted Rights」、DFARS 227.7202、「Commercial Computer Software and Commercial Computer Software Documentation」、その後継規制の規定により制限された権利の対象となります。業務用またはホスト対象サービスとしてベリタスによって提供されている場合でも同様です。米国政府によるライセンス対象ソフトウェアおよび資料の使用、修正、複製のリリース、実演、表示または開示は、本使用許諾契約の条項に従ってのみ行われるものとします。

Veritas Technologies LLC
500 E Middlefield Road
Mountain View, CA 94043

<http://www.veritas.com>

テクニカルサポート

テクニカルサポートは世界中にサポートセンターを設けています。すべてのサポートサービスは、お客様のサポート契約およびその時点でのエンタープライズテクニカルサポートポリシーに従って提供されます。サポートサービスとテクニカルサポートへの問い合わせ方法については、次の弊社の **Web** サイトにアクセスしてください。

https://www.veritas.com/support/ja_JP.html

次の URL で Veritas Account の情報を管理できます。

<https://my.veritas.com>

既存のサポート契約に関する質問については、次に示す地域のサポート契約管理チームに電子メールでお問い合わせください。

世界全域 (日本を除く)

CustomerCare@veritas.com

Japan (日本)

CustomerCare_Japan@veritas.com

マニュアル

マニュアルの最新バージョンがあることを確認してください。各マニュアルには、2 ページに最終更新日付が記載されています。最新のマニュアルは、次のベリタス **Web** サイトで入手できます。

<https://sort.veritas.com/documents>

マニュアルに対するご意見

お客様のご意見は弊社の財産です。改善点のご指摘やマニュアルの誤謬脱漏などの報告をお願いします。その際には、マニュアルのタイトル、バージョン、章タイトル、セクションタイトルも合わせてご報告ください。ご意見は次のアドレスに送信してください。

NB.docs@veritas.com

次のベリタスコミュニティサイトでマニュアルの情報を参照したり、質問することもできます。

<http://www.veritas.com/community/ja>

ベリタスの Service and Operations Readiness Tools (SORT) の表示

ベリタスの Service and Operations Readiness Tools (SORT) は、時間がかかる管理タスクを自動化および簡素化するための情報とツールを提供する **Web** サイトです。製品によって異なりますが、SORT はインストールとアップグレードの準備、データセンターにおけるリスクの識別、および運用効率の向上を支援します。SORT がお客様の製品に提供できるサービスとツールについては、次のデータシートを参照してください。

https://sort.veritas.com/data/support/SORT_Data_Sheet.pdf

目次

第 1 章	インストールの準備	8
	Veritas Smart Meter について	9
	Veritas Smart Meter のベストプラクティス	9
	NetBackup インストールディレクトリの制限事項	10
	NetBackup Web サーバーをサポートするユーザーアカウントの作成、	11
	利用可能な NetBackup のインストール方法	12
	NetBackup のバージョン間の互換性について	14
	Veritas Services and Operations Readiness Tools について	15
	SORT の新規インストールのための推奨手順	16
	SORT のアップグレードのための推奨手順	20
	NetBackup ソフトウェアの入手について	22
	ストレージデバイスの構成について	22
	サポートされているロボット形式の検索	23
	NetBackup をインストールする方法	23
	NetBackup プリインストールチェッカーについて	24
	NetBackup Product Improvement Program について	25
	NetBackup ホスト用のセキュリティ証明書について	25
	SCCM と Chef の配備ツールとマニュアルが利用可能になりました	26
	マスターサーバーのプッシュインストールのサポートは廃止されました	26
	8.1 のメディアサーバーまたはデュアルスタック構成のクライアントホストに インストールするときにホスト ID ベースの証明書が配備されない	26
第 2 章	NetBackup ライセンス	27
	NetBackup のライセンスの要件について	27
	ライセンスキーエントリについて	28
	ライセンスキーについてよく寄せられる質問	29
第 3 章	UNIX システムでのサーバーソフトウェアのインス トール	33
	UNIX および Linux のインストールおよびアップグレード要件	33
	マスターサーバーとメディアサーバーが NetBackup アブライアンスで ないかぎり、Windows と UNIX プラットフォームの英語以外の バージョンを混在させない	37

異なるバージョンの UNIX ベースオペレーティングシステムを実行する環境での NetBackup のインストール	37
Solaris システムの特別なインストールガイドライン	37
UNIX クラスタ環境の特別なインストールガイドライン	38
インストールスクリプトの動作	38
NetBackup マスターサーバーソフトウェアの UNIX へのインストール	39
NetBackup ソフトウェアのインストール	45
NetBackup メディアサーバーソフトウェアの UNIX へのインストール	46
マスターサーバーからクライアントへのクライアントソフトウェアのプッシュインストールについて	51
マスターサーバーへのクライアント形式のソフトウェアのインストール	52

第 4 章

Windows システムでのサーバーソフトウェアのインストール	54
Windows および Windows クラスタのインストールおよびアップグレード要件	54
Windows クラスタのインストールとアップグレードの要件	61
Windows システムでのローカル、リモート、またはクラスタ化されたサーバーインストールの実行	62
NetBackup クラスタ環境のインストール後の作業	77
Windows クラスタのインストールまたはアップグレードの確認	78
Windows システムでの NetBackup サーバーのサイレントインストール	79

第 5 章

管理インターフェースについて	82
NetBackup Web ユーザーインターフェースについて	82
NetBackup Web UI からの NetBackup マスターサーバーへの初回サインイン	83
NetBackup Web UI からのサインアウト	84
NetBackup 管理コンソールについて	84
NetBackup 管理コンソールのインストール	84
Windows での複数バージョンの NetBackup 管理コンソールのインストール	85
Windows 上の旧バージョンの NetBackup 管理コンソールの削除	86
NetBackup のリモート管理コンソールについて	86
NetBackup リモート管理コンソールのインストール	87

第 6 章	NetBackup クライアントソフトウェアのインストール	89
	NetBackup クライアントのインストールについて	89
	Windows での NetBackup クライアントのインストールについて	90
	Windows クライアントのインストール方法と必要条件について	91
	NetBackup Windows クライアントのローカルまたはリモートでのイン ストール	94
	NetBackup Windows クライアントのサイレントインストール	103
	NetBackup クライアントの構成方法	103
	UNIX/Linux での NetBackup クライアントのインストールについて	104
	UNIX/Linux クライアントのインストール方式について	106
	UNIX クライアントのローカルインストール	107
	ネイティブインストーラによる UNIX と Linux のクライアントバイナリの インストールとアップグレード	110
	UNIX または Linux クライアントのリモートインストール方式について	121
	サーバーの初期インストール後の UNIX または Linux クライアントの 追加	126
	サーバーのアップグレード後のクライアントのアップグレード	128
第 7 章	NetBackup の構成	133
	NetBackup の起動と停止のスクリプトについて	133
	NetBackup Server の構成について	135
	NetBackup 管理コンソールの起動	136
	デバイスの構成ウィザードについて	138
	ボリュームの構成ウィザードについて	140
	カタログバックアップウィザードについて	141
	バックアップポリシーの構成ウィザードについて	142
	インストール後すぐにマスターサーバー上のクラウド構成ファイルを更新す るかまたは NetBackup 8.1.2 にアップグレードする	144
第 8 章	NetBackup ソフトウェアのアップグレード	145
	NetBackup のアップグレードについて	145
	NetBackup 8.x アップグレードポータルについて	145

第 9 章	NetBackup サーバーおよびクライアントソフトウェアの削除	147
	UNIX システムでの NetBackup サーバーソフトウェアの削除について	148
	UNIX および Linux システムでの NetBackup クライアントソフトウェアの削除について	148
	UNIX および Linux のサーバーおよびクライアントからの NetBackup の削除	149
	Windows システムでの NetBackup サーバーソフトウェアの削除について	160
	Windows サーバー、クラスタ、およびクライアントからの NetBackup サーバーおよびクライアントソフトウェアの削除	161
	Windows システムからの NetBackup LiveUpdate の削除	164
	Windows サーバーおよび Windows クライアントからの Java コンソールの状態データの削除について	164
	新しいメディアサーバーに全データを移行してクラスタ化されたメディアサーバーを削除する	165
第 10 章	参照先	166
	クラスタ化されたマスターサーバーの非アクティブノードで証明書を生成する	166
	NetBackup 応答ファイルについて	167
	NetBackup マスターサーバー Web サーバーのユーザーとグループの作成	169
	NetBackup Java Runtime Environment について	171
	レプリケーションディレクトリを使用した NetApp ディスクアレイの使用	173
	NetBackup データベースに対するセキュリティ強化	177
	Veritas NetBackup マスターサーバーとドメインのサイズについてのガイドンス	177
索引		179

インストールの準備

この章では以下の項目について説明しています。

- [Veritas Smart Meter](#) について
- [Veritas Smart Meter](#) のベストプラクティス
- [NetBackup](#) インストールディレクトリの制限事項
- [NetBackup Web](#) サーバーをサポートするユーザーアカウントの作成、
- 利用可能な [NetBackup](#) のインストール方法
- [NetBackup](#) のバージョン間の互換性について
- [Veritas Services and Operations Readiness Tools](#) について
- [SORT](#) の新規インストールのための推奨手順
- [SORT](#) のアップグレードのための推奨手順
- [NetBackup](#) ソフトウェアの入手について
- ストレージデバイスの構成について
- [NetBackup](#) をインストールする方法
- [NetBackup](#) ホスト用のセキュリティ証明書について
- [SCCM](#) と [Chef](#) の配備ツールとマニュアルが利用可能になりました
- マスターサーバーのプッシュインストールのサポートは廃止されました
- [8.1](#) のメディアサーバーまたはデュアルスタック構成のクライアントホストにインストールするときにホスト ID ベースの証明書が配備されない

Veritas Smart Meter について

Veritas Smart Meter は、NetBackup の配備の効率的な管理、傾向の認識、今後の計画の作成に役立ちます。正確なほぼリアルタイムのレポートで、バックアップされるデータの合計量を確認できます。Smart Meter は、ライセンスされている容量の制限を超過しそうになると警告します。Smart Meter には Veritas NetBackup 8.1.2 以降が必要です。

Smart Meter では、次のものが提供されます。

- 保護対象テラバイトの正確でほぼリアルタイムのレポート
- グラフィカルに表示される使用傾向
- ライセンス済み容量が超過する前の使用量評価の警告
- 簡単な容量計画と予算策定
- 適用の急増または潜在的なギャップの識別

キャパシティライセンス (NDMP、限定版、または完全) を使用しているお客様の場合、Smart Meter を使用することで、容量の使用状況を正確に測定できます。この測定により、保護対象の各作業負荷のストレージ使用状況を包括的に把握でき、効率的な容量計画が可能になります。さらに、Smart Meter は必要な遠隔測定データを自動的に提供するため、これらのお客様は遠隔測定データを手動でベリタスにアップロードする必要がありません。

次の URL で、よく寄せられる質問への追加の回答を確認できます。

https://help.veritas.com/Welcoming?context=veritas_smart_meter&token=vsm_nbu_faqs

Smart Meter に接続するには、次の URL を使用します。

<https://taas.veritas.com/>

p.9 の「[Veritas Smart Meter のベストプラクティス](#)」を参照してください。

Veritas Smart Meter のベストプラクティス

ベリタスでは、Smart Meter ツールに特定のベストプラクティスを推奨しています。

- 対象となるサイトで、安全な Web トラフィックを伝送できることを確認します。
Smart Meter では、HTTPS を使用して関連する情報を送信します。自動アップロード機能を活用するために、マスターサーバーが、アウトバウンド HTTPS トラフィックを許可する必要があります。手動アップロードには、アップロード場所からの HTTPS トラフィックが必要です。
- 顧客登録キーはライセンスキーではありません。
Smart Meter が機能するためには登録キーが必要ですが、これは NetBackup ライセンスキーではありません。顧客登録キーは、Smart Meter の Web サイトからダウンロードできる、Smart Meter に固有のものです。

- 複数のライセンスキーがある場合、顧客登録キーをダウンロードするときに、登録キーが集計されることがあります。この集計された登録キーには、すべてのマスターサーバーが含まれます。すべてのマスターサーバーの集計されたキーを使用できますが、後で、特定のマスターサーバーの特定のキーを割り当てるように求めるメッセージが表示されます。必要な場合は、すべてのマスターサーバーに対して、この集計されたキーを使用できます。
- よく寄せられる質問への回答について詳しくは、次の URL に移動してください。
https://help.veritas.com/Welcome?context=veritas_smart_meter&token=vsm_nbu_faqs

顧客登録キーをダウンロードするには

- 1 Veritas Smart Meter にログインします。
<https://taas.veritas.com/>
- 2 [顧客登録キー (Customer Registration Keys)] ページに移動します。
- 3 マスターサーバーの適切な顧客登録キーをダウンロードします。

NetBackup インストールディレクトリの制限事項

NetBackup によってサポートされる各ファイルシステムで、インストールフォルダのファイル名とフォルダ名の制限が定義されています。ファイルシステムのベンダーが提供するマニュアルで、ファイル名とフォルダ名に関する制限事項の詳細を確認してください。さらに、NetBackup では、インストールフォルダの名前で特定の文字のみがサポートされます。サポート外の文字を使うと予期しない結果になり、データが失われる可能性があります。NetBackup がインストールフォルダでサポートする文字は次のとおりです。

- UNIX または Linux
POSIX の完全にポータブルなファイル名の文字 (A-Z a-z 0-9 . _ -)
- Windows
ASCII 7 ビット範囲内の印字可能文字

メモ: Windows の繁体字中国語と韓国語バージョンでは、NetBackup クライアントをスペースが含まれるパスにインストールすると、リストア操作が失敗する場合があります。スペースを含むパスの例には C:\¥Program Files があります。これらの Windows バージョンでは、スペースをとみなわないパスに NetBackup のクライアントソフトウェアをインストールするようにしてください。

NetBackup Web サーバーをサポートするユーザーアカウントの作成、

NetBackup 8.0 より、NetBackup マスターサーバーには、重要なバックアップ操作をサポートするための構成済み Web サーバーが含まれます。この Web サーバーは、権限が制限されているユーザーアカウント要素の下で動作します。これらのユーザーアカウント要素は、各マスターサーバー（またはクラスタ化されたマスターサーバーの各ノード）で使用できる必要があります。

多数の手順を実行すると、オペレーティングシステムでユーザーとグループを作成できます。特定のいくつかの方法を示していますが、他の方法でも同じ目標を達成できる可能性があります。ホームディレクトリのパス、ユーザー名、およびグループ名はハードコードされていないため、変更することができます。デフォルトのローカルユーザー名は nbwebsvc、デフォルトのローカルグループ名は nbwebgrp です。

メモ: UNIX および Linux プラットフォームの場合、UID はクラスタ環境の各ローカルアカウントと同じである必要があります。すべてのクラスタノードでローカルアカウントが一貫して定義されていることを確認します。

UNIX または Linux でユーザーアカウントとユーザーグループを作成する方法

- 1 次のコマンドでローカルグループを作成します。

```
コマンド: # groupadd group_name
```

```
例: # groupadd nbwebgrp
```

- 2 次のコマンドでローカルユーザーアカウントを作成します。

```
コマンド: # useradd -g group_name -c comment -d /usr/opensv/wmc  
user_name
```

```
例: # useradd -g nbwebgrp -c 'NetBackup Web Services application  
account' -d /usr/opensv/wmc nbwebsvc
```

Windows でユーザーアカウントとユーザーグループを作成する方法

メモ: Windows 上のクラスタ環境のドメインアカウントを使う必要があります。

メモ: Web サービスのユーザーアカウント名は 20 文字に制限されます。

- 1 次のコマンドでローカルユーザーアカウントを作成します。

コマンド: `C:¥>net user user_name StrongPassword /add` (*StrongPassword* はアカウントに関連付ける強いパスワードです)

例: `C:¥>net user nbwebsvc 1U*s7lQ# /add`

- 2 次のコマンドでローカルグループを作成します。

コマンド: `C:¥>net localgroup group_name /add`

例: `C:¥>net localgroup nbwebgrp /add`

- 3 次のコマンドで新しいユーザーを新しいグループのメンバーにします。

コマンド: `C:¥>net localgroup group_name user_name /add`

例: `C:¥>net localgroup nbwebgrp nbwebsvc /add`

- 4 次のように、新しいユーザーに[サービスとしてログオン]の権限を付与します。

- [コントロールパネル]、[管理ツール]、[ローカルセキュリティポリシー]の順に進みます。
- 次に[セキュリティの設定]で、[ローカルポリシー]から[ユーザー権利の割り当て]をクリックします。
- [サービスとしてログオン]を右クリックして[プロパティ]を選択します。
- ローカルユーザーを追加します。
- 変更を保存して[サービスとしてログオン]のプロパティのダイアログボックスを閉じます。

これらの要件のいずれかが満たされていない場合、NetBackup マスターサーバーのインストールは失敗します。Windows では、インストールプロセスの一部として、ユーザーアカウントのパスワードを指定するように求められます。

利用可能な NetBackup のインストール方法

次の表では、NetBackup をインストールするさまざまな方法について説明します。

表 1-1 インストールオプション

インストールの種類とオペレーティングシステム	サーバー	クライアント
UNIX および Linux の対話型	マスターサーバー p.39 の「NetBackup マスターサーバーソフトウェアの UNIX へのインストール」を参照してください。 メディアサーバー p.46 の「NetBackup メディアサーバーソフトウェアの UNIX へのインストール」を参照してください。	p.107 の「 UNIX クライアントのローカルインストール 」を参照してください。
Windows の対話型	マスターサーバーとメディアサーバー p.62 の「Windows システムでのローカル、リモート、またはクラスタ化されたサーバーインストールの実行」を参照してください。	p.94 の「 NetBackup Windows クライアントのローカルまたはリモートでのインストール 」を参照してください。
UNIX および Linux のサイレント	有効なインストール方式ではありません。	p.110 の「 ネイティブインストーラによる UNIX と Linux のクライアントバイナリのインストールとアップグレード 」を参照してください。
Windows のサイレント	マスターサーバーとメディアサーバー p.79 の「Windows システムでの NetBackup サーバーのサイレントインストール」を参照してください。	p.103 の「 NetBackup Windows クライアントのサイレントインストール 」を参照してください。

インストールの種類とオペレーティングシステム	サーバー	クライアント
UNIX および Linux のリモート	有効なインストール方式ではありません。	SSH p.122 の「 ssh の方法を使用したクライアントソフトウェアのインストール 」を参照してください。 SFTP p.123 の「 sftp の方法を使用したクライアントソフトウェアのインストール 」を参照してください。 パスワードなしの ssh p.124 の「 パスワードなしの ssh の方法を使用する UNIX クライアントでのクライアントソフトウェアのインストール 」を参照してください。
Windows のリモート	マスターサーバーとメディアサーバー p.62 の「 Windows システムでのローカル、リモート、またはクラスタ化されたサーバーインストールの実行 」を参照してください。	p.94 の「 NetBackup Windows クライアントのローカルまたはリモートでのインストール 」を参照してください。

NetBackup のバージョン間の互換性について

マスターサーバー、メディアサーバー、およびクライアントの間で、バージョンが異なる NetBackup を実行できます。この旧バージョンのサポートによって、NetBackup サーバーを 1 つずつアップグレードして、全体的なシステムパフォーマンスに与える影響を最小限に抑えることができます。サーバーとクライアントの特定の組み合わせのみがサポートされています。NetBackup カタログは NetBackup マスターサーバー上に存在します。したがって、マスターサーバーはカタログバックアップのクライアントであると見なされます。NetBackup 構成にメディアサーバーが含まれている場合は、マスターサーバーと同じ NetBackup バージョンを使ってカタログバックアップを実行する必要があります。

NetBackup 8.1 でも、マスターサーバーを最初にアップグレードするという従来の必要条件に従うことが重要です。その後、8.1 クライアントをサポートするために必要なすべてのメディアサーバーをアップグレードします。クライアントをアップグレードする前に、すべてのメディアサーバーをアップグレードすることをお勧めします。すべてのマスターサーバーとすべてのメディアサーバーを NetBackup 8.1 にアップグレードしたら、クライアントを 8.1 にアップグレードします。8.1 より前のメディアサーバーは、NetBackup 8.1 クライアントをバックアップまたはリストアできません。

NetBackup バージョン間の互換性について詳しくは、ベリタスの SORT の Web サイトを参照してください。

<https://sort.veritas.com/>

ベリタスは EOSL 情報をオンラインで確認することをお勧めします。

<https://sort.veritas.com/eosl>

p.22 の「NetBackup ソフトウェアの入手について」を参照してください。

Veritas Services and Operations Readiness Tools について

Veritas Services and Operations Readiness Tools (SORT) は、ベリタスエンタープライズ製品をサポートするスタンドアロンと Web ベースの強力なツールセットです。

NetBackup では、SORT によって、複数の UNIX/Linux または Windows 環境にまたがってホストの設定を収集、分析、報告する機能が提供されます。このデータは、システムで NetBackup の最初のインストールまたはアップグレードを行う準備ができていかどうかを評価するのに役立ちます。

次の Web ページから SORT にアクセスします。

<https://sort.veritas.com/netbackup>

SORT ページに移動すると、次のように多くの情報を利用可能です。

- インストールとアップグレードのチェックリスト
このツールを使うと、システムで NetBackup のインストールまたはアップグレードを行う準備ができていかどうかを確認するためのチェックリストを作成できます。このレポートには、指定した情報に固有のソフトウェアとハードウェアの互換性の情報がすべて含まれています。さらに、製品のインストールまたはアップグレードに関する手順とその他の参照先へのリンクも含まれています。
- Hotfix と EEB Release Auditor
このツールを使うと、インストールする予定のリリースに必要な Hotfix が含まれているかどうかを調べることができます。
- カスタムレポート
このツールを使うと、システムとベリタスエンタープライズ製品に関する推奨事項を取得できます。
- NetBackup のプラットフォームと機能の今後の予定
このツールを使用すると、今後新しい機能や改善された機能と置き換える項目に関する情報を入手できます。さらに、今後置き換えられることなく廃止される項目に関する情報を入手することもできます。これらの項目のいくつかには NetBackup の特定の機能、他社製品の統合、ベリタス製品の統合、アプリケーション、データベースおよび OS のプラットフォームが含まれます。

SORT ツールのヘルプが利用可能です。SORT ホームページの右上隅にある[ヘルプ (Help)]をクリックします。次のオプションがあります。

- 実際の本のようにページをめくってヘルプの内容を閲覧する
- 索引でトピックを探す
- 検索オプションを使ってヘルプを検索する

SORT の新規インストールのための推奨手順

ベリタスは新規の NetBackup ユーザーに対して、SORT の最初の導入時にリストされる 3 つの手順を実行することをお勧めします。このツールには他にも多くの機能が備わっていますが、これらの手順は SORT の概要を知る上で役立ちます。さらに、これらの手順を実行することで、その他の SORT 機能に関する有用で基本的な知識が備わります。

表 1-2

手順	詳細
SORT Web ページに Veritas Account を作成します。	p.16 の「 SORT ページに Veritas Account を作成する方法 」を参照してください。
汎用インストールレポートを作成します。	p.17 の「 汎用インストールチェックリストを作成する方法 」を参照してください。
システム固有のインストールレポートを作成します。	p.18 の「 システム固有のインストールレポートを作成する方法 (Windows の場合) 」を参照してください。 p.19 の「 システム固有のインストールレポートを作成する方法 (UNIX または Linux の場合) 」を参照してください。

SORT ページに Veritas Account を作成する方法

- 1 Web ブラウザで、次の場所に移動します:
<https://sort.veritas.com/netbackup>
- 2 右上で[ログイン (Login)]をクリックしてから、[今すぐ登録 (Register now)]をクリックします。

3 要求された次のログインおよび連絡先情報を入力します:

電子メールアドレス (Email address) 電子メールアドレスを入力し、検証してください

パスワード (Password) パスワードを入力し、検証してください

名 (First name) 名を入力してください

姓 (Last name) 姓を入力してください

会社名 (Company name) 会社名を入力してください

国 (Country) 国を入力してください

優先言語 (Preferred language) 優先言語を選択してください

CAPTCHA テキスト (CAPTCHA text) 表示される CAPTCHA テキストを入力してください。必要に応じて、イメージを更新してください。

4 [送信 (Submit)]をクリックします。

5 ログイン情報の受信時に SORT にログインしてカスタマイズした情報のアップロードを開始できます。

汎用インストールチェックリストを作成する方法

1 Web ブラウザで、次の場所に移動します:

<https://sort.veritas.com/netbackup>

2 [インストールとアップグレードのチェックリスト (Installation and Upgrade Checklist)] ウィジェットを見つけて選択します。

3 要求された情報を指定します

製品 (Product)	ドロップダウンメニューから適切な製品を選択してください。 NetBackup の場合は NetBackup Enterprise Server または NetBackup Server を選択してください。
インストールするまたはアップグレード後の製品バージョン (Product version you are installing or upgraded to)	NetBackup の適切なバージョンを選択してください。最新バージョンは常にリストの一番上に示されます。
プラットフォーム (Platform)	生成するチェックリストに対応するオペレーティングシステムを選択してください。
プロセッサ (Processor)	チェックリストに対して適切なプロセッサの種類を選択してください。
アップグレード前の製品バージョン (任意) (Product version you are upgrading from (optional))	新規インストールの場合は、何も選択しないでください。アップグレードの場合は、現在インストールされている NetBackup のバージョンを選択できます。

4 [チェックリストの生成 (Generate Checklist)]をクリックします。

5 選択内容に対応するチェックリストが作成されます。この画面で選択内容を変更できます。[チェックリストの生成 (Generate Checklist)]をクリックすると、新しいチェックリストが作成されます。

結果の情報は PDF として保存できます。**NetBackup** では多数のオプションを利用可能で、それらの多くは生成されたチェックリストに示されます。各セクションを十分に確認して、環境に適用するかどうかを判断してください。

システム固有のインストールレポートを作成する方法 (Windows の場合)

1 SORT の Web サイトに移動します。

<https://sort.veritas.com/netbackup>

2 [インストールとアップグレード (Installation and Upgrade)]セクションで、[SORT データコレクタによるインストールとアップグレードのカスタムレポート (Installation and Upgrade custom reports by SORT data collectors)]を選択します。

3 [データコレクタ (Data Collectors)]タブを選択します

- 4 [グラフィカルユーザーインターフェース (Graphical User Interface)]のラジオボタンを選択して、プラットフォームに対して適切なデータコレクタをダウンロードします。

データコレクタは OS 固有です。Windows コンピュータに関する情報を収集するには、Windows データコレクタが必要です。UNIX コンピュータに関する情報を収集するには、UNIX データコレクタが必要です。
- 5 ダウンロードが終わったら、データコレクタを起動します。
- 6 [ようこそ (Welcome)]画面の[製品ファミリー (product family)]セクションで NetBackup を選択して、[次へ (Next)]をクリックします。
- 7 [システムの選択 (System Selection)]画面で、分析するすべてのコンピュータを追加します。[参照 (Browse)]をクリックすると、分析に追加可能なコンピュータのリストを確認できます。管理者アカウントまたは root アカウントでツールを起動することをお勧めします。
- 8 すべてのシステムを選択したら、[システム名 (System names)]セクションを確認して[次へ (Next)]をクリックします。
- 9 [検証オプション (Validation Options)]画面の[検証オプション (Validation options)]下で、アップグレード後のバージョンを選択します。
- 10 [次へ (Next)]をクリックして続行します。
- 11 ユーティリティによって要求されたチェックが実行され、結果が表示されます。レポートをマイ SORT にアップロードできます。また結果を印刷したり保存できます。分析を一元管理しやすくするために、結果はマイ SORT Web サイトにアップロードすることをお勧めします。[アップロード (Upload)]をクリックして、マイ SORT のログイン情報を入力すると、データがマイ SORT にアップロードされます。
- 12 終了したら、[完了 (Finish)]をクリックしてユーティリティを閉じます。

システム固有のインストールレポートを作成する方法 (UNIX または Linux の場合)

- 1 SORT の Web サイトに移動します。

<https://sort.veritas.com/netbackup>
- 2 [インストールとアップグレード (Installation and Upgrade)]セクションで、[SORT データコレクタによるインストールとアップグレードのカスタムレポート (Installation and Upgrade custom reports by SORT data collectors)]を選択します。
- 3 [データコレクタ (Data Collector)]タブを選択します。
- 4 プラットフォームに対して適切なデータコレクタをダウンロードします。

データコレクタは OS 固有です。Windows コンピュータに関する情報を収集するには、Windows データコレクタが必要です。UNIX コンピュータに関する情報を収集するには、UNIX データコレクタが必要です。
- 5 ダウンロード済みのユーティリティを含むディレクトリに変更します。

6 実行 (Run). /sortdc

ユーティリティによって、最新バージョンのユーティリティがインストールされていることを確認するためのチェックが実行されます。さらに、ユーティリティによって、最新のデータが含まれているかどうかチェックされます。この処理の後、ユーティリティによって、このセッションのログファイルの場所がリストされます。

7 要求されたら、Enter キーを押して続行します。

8 メインメニューで[NetBackup ファミリー (NetBackup Family)]を選択します。

9 [何をしますか? (What task do you want to accomplish?)]というプロンプトが表示されたら、[インストールレポートのアップグレード (Installation/Upgrade report)]を選択します。

カンマで項目を区切ることで、複数のオプションを選択できます。

10 レポートに含めるシステムを指定します (複数可)。

指定したシステムで以前にレポートを実行していた場合は、そのレポートを再び実行するようプロンプトが表示されます。[はい (Yes)]を選択すると、レポートが再実行されます。

ユーティリティによって、セッションのログファイルの場所が再びリストされます。

ユーティリティの進捗状況が画面に表示されます。

11 インストールまたはレポートをアップグレードする製品に関するプロンプトが表示されたら、NetBackup を指定します。

12 インストールする NetBackup のバージョンに対応する数字を入力します。

ユーティリティによって、セッションのログファイルの場所が再びリストされます。

ユーティリティの進捗状況が画面に表示されます。

13 ユーティリティによって、レポートをオンラインで確認する場合には SORT Web サイトにアップロードするよう促すプロンプトが表示されます。オンラインレポートを利用すると、システム上のテキストベースのレポートよりも詳細な情報を入手できます。

14 タスクが完了したら、ユーティリティを終了できます。オプションでツールに関するフィードバックを提供できます。ベリタスはフィードバックを基にツールの改良を実施しています。

SORT のアップグレードのための推奨手順

ベリタスは現在の NetBackup ユーザーに対して、SORT の最初の導入時にリストされる 3 つの手順を実行することをお勧めします。このツールには他にも多くの機能が備わっていますが、これらの手順はすでに NetBackup を使っているユーザーにとって SORT の概要を知る上で役立ちます。さらに、これらの手順を実行することで、その他の SORT 機能に関する有用で基本的な知識が備わります。

表 1-3

手順	詳細
SORT Web ページに Veritas Account を作成します。	p.16 の「 SORT ページに Veritas Account を作成する方法 」を参照してください。
システム固有のアップグレードレポートを作成します。	p.18 の「 システム固有のインストールレポートを作成する方法 (Windows の場合) 」を参照してください。 p.19 の「 システム固有のインストールレポートを作成する方法 (UNIX または Linux の場合) 」を参照してください。
今後のプラットフォームと機能の予定を確認します。	p.21 の「 今後のプラットフォームの変更と機能の予定を確認する方法 」を参照してください。
Hotfix と EEB Release Auditor の情報を確認します。	p.21 の「 Hotfix と EEB の情報を確認する方法 」を参照してください。

今後のプラットフォームの変更と機能の予定を確認する方法

- 1 Web ブラウザで、次の場所に移動します:
<https://sort.veritas.com/netbackup>
- 2 [NetBackup のプラットフォームと機能の今後の予定 (NetBackup Future Platform and Feature Plans)]ウィジェットを見つけて選択します。
- 3 [情報の表示 (Display Information)]を選択します。
- 4 表示される情報を確認します
- 5 任意 - サインインによる通知の作成 - [サインインによる通知の作成 (Sign in and create notification)]をクリックします。

Hotfix と EEB の情報を確認する方法

- 1 Web ブラウザで、次の場所に移動します:
<https://sort.veritas.com/netbackup>
- 2 [NetBackup Hotfix と EEB Release Auditor (NetBackup Hot Fix and EEB Release Auditor)]ウィジェットを見つけて選択します。
- 3 Hotfix または緊急エンジニアリングバイナリ (EEB) の情報を入力します。

- 4 [検索 (Search)]をクリックします。
- 5 新しいページに、以下の列が含まれた表が表示されます。

EEB 識別子の Hotfix (Hot fix of EEB Identifier)	前の画面で入力した Hotfix または EEB 番号が表示されます。
説明 (Description)	Hotfix または EEB に関連付けられた問題の説明が表示されます。
解決済みのバージョン (Resolved in Versions)	この問題が解決された NetBackup のバージョンが示されます。

NetBackup ソフトウェアの入手について

NetBackup 8.1.2 は、MyVeritas の Web ページからダウンロード用 ESD イメージとして利用できます。イメージは 1.8G のサイズ制限に従っています。

ESD のダウンロードを正しく行うために、一部の製品イメージがより小さく管理しやすいファイルに分割されています。ファイルを解凍する前に、1 of 2、2 of 2 として識別できる分割されたイメージファイルを最初に結合する必要があります。MyVeritas 上の Download Readme.txt ファイルには、ファイルを結合する方法が記述されています。

ストレージデバイスの構成について

NetBackup の信頼性は、ストレージデバイスの構成に依存します。信頼性の高いバックアップおよびリストアを確実に行うには、オペレーティングシステムで動作するように最初にデバイスをインストールおよび構成する必要があります。

NetBackup をインストールする前に、次のガイドラインを使ってオペレーティングシステムで動作するようにストレージデバイスを構成します。

新しいインストール	NetBackup をインストールする前に、最新バージョンのドライバでデバイスをインストールして構成することを推奨します。
接続と設定	新しいデバイスを準備し、接続するために、次のタスクを実行します。 ■ SCSI ID (ターゲット) を設定します。利用可能な SCSI ID に設定されていることを確認してください。 ■ この SCSI ID によって利用可能な互換性のあるホストバスアダプタに、デバイスを物理的に接続します。 互換性とは、デバイスとホストバスアダプタの両方が同じ形式であることを意味します。たとえば、シングルエンド、HVD、LVD、ファイバーチャネルなどの形式があります。

構成	オペレーティングシステムで動作するようにストレージデバイスを構成するには、次のマニュアルを参照してください。 ■ デバイスとオペレーティングシステムのベンダーからの指示。 ■ 『NetBackup デバイス構成ガイド UNIX、Windows および Linux』。ご使用のオペレーティングシステムに該当する章を参照してください。 http://www.veritas.com/docs/DOC5332
NetBackup のインストール	オペレーティングシステムで動作するようにすべてのストレージデバイスがインストール、構成、および検証された後、NetBackup をインストールできます。

警告: デバイスが適切に構成されていないと、バックアップが失敗したり、データが損失する場合があります。

p.33 の「UNIX および Linux のインストールおよびアップグレード要件」を参照してください。

p.54 の「Windows および Windows クラスタのインストールおよびアップグレード要件」を参照してください。

サポートされているロボット形式の検索

サポートされているロボット形式のリストについては、『NetBackup ハードウェアおよびクラウドストレージ互換性リスト (HCCL)』を参照してください。

ベリタス社はこのマニュアルの更新版を定期的にベリタス社のサポート Web サイトに掲載しています。

このリリースでサポートされている最新のロボット形式を検索する方法

- ◆ 次のリンクをクリックして『NetBackup ハードウェアおよびクラウドストレージ互換性リスト (HCCL)』にアクセスします。

<http://www.netbackup.com/compatibility>

NetBackup をインストールする方法

NetBackup を新規にインストールするには、次の順序でソフトウェアをインストールします。

手順 1	マスターサーバーソフトウェアをインストールします。
手順 2	メディアサーバーソフトウェア (NetBackup Enterprise のみ) をインストールします。

- 手順 3 NetBackup リモート管理コンソールをインストールします (省略可能)。
- 手順 4 クライアントソフトウェアをインストールします。
- 手順 5 NetBackup のすべてのアドオン製品 (言語パッケージなど) をインストールします。

インストール手順に進む前に、インストール要件を確認してください。

p.33 の「[UNIX および Linux のインストールおよびアップグレード要件](#)」を参照してください。

p.54 の「[Windows および Windows クラスタのインストールおよびアップグレード要件](#)」を参照してください。

NetBackup プリインストールチェッカーについて

UNIX/Linux プラットフォーム用と Windows プラットフォーム用のサーバーインストーラの両方にプリインストールチェッカーが含まれています。この機能を使用すると、サーバーの正常なインストールまたはアップグレードの準備ができていないか判断しやすくなります。

この検査は、マスターまたはメディアサーバーでインストールを開始する際に自動的に実行されます。検査の結果は次のポイントで示されます。

- UNIX/Linux のアップグレードスクリプト
「このホストはマスターサーバーですか」の質問に回答した後。
- Windows のインストールウィザード
[Installation Summary]が表示される[Ready to Install the Program]画面

実行されるテストの 1 つは、ローカルにインストールされた EEB (Emergency Engineering Binary の略で、緊急エンジニアリングバイナリの意味) の更新とインストール中の NetBackup のバージョンに含まれている修正の比較です。プリインストールテストのうちいずれかが失敗すると、必要な操作の種類を示すメッセージが表示されます。

一部のテスト失敗は軽微なものとなされ、アップグレードの続行が許可されます。重要なテスト失敗があると、インストールまたはアップグレードの実行が妨げられます。この出力は、インストールまたはアップグレードを安全に続行する前に他の処置を講じる必要があることが通知されます。

プリインストール検査の結果は次の場所に格納されます。

- UNIX の場合
次のパスにあるインストールトレースファイル
`/usr/opensv/tmp`
- Windows の場合
`bpimage` コマンドは次のディレクトリにファイルを作成します。
`%ALLUSERSPROFILE%\Veritas\NetBackup\InstallSummary`

p.15 の「[Veritas Services and Operations Readiness Tools について](#)」を参照してください。

NetBackup Product Improvement Program について

NetBackup Product Improvement Program で、インストール配置とプログラムの使用状況の情報を取得します。

NetBackup のインストール時に NetBackup Product Improvement Program に参加して、この情報を自動的にセキュリティを考慮してベリタスに送信するように設定できます。ベリタスが受信した情報は、継続的な品質向上プログラムの一部に組み込まれます。ベリタスはこの情報を参考に、お客様が NetBackup 製品をどのように構成、配置、使用しているかを理解します。この情報はその後、製品の機能、テスト、テクニカルサポート、今後の要件の改善点をベリタス社が識別するのを助けるのに使われます。

NetBackup Product Improvement Program について詳しくは、NetBackup のライセンス契約書の「17.18 Data Collection; Data Protection Regulations」を参照してください。使用許諾契約は次の場所にあります。

- UNIX
MyVeritas からダウンロードしたメディアイメージで、LICENSE ファイルを参照します。
- Windows
MyVeritas からダウンロードしたメディアイメージから、インストールウィザード (Browser.exe) を開始します。[Home] ページで、[Installation] をクリックします。[Installation] ページで、[Server Software Installation] または [Client Software Installation] を選択します。[ようこそ (Welcome)] ページで、[次へ (Next)] をクリックして [使用許諾契約 (License Agreement)] のページに進みます。

https://www.veritas.com/support/ja_JP/article.000112586

NetBackup ホスト用のセキュリティ証明書について

NetBackup では、NetBackup ホストの認証にセキュリティ証明書が使用されます。NetBackup セキュリティ証明書は、X.509 公開鍵インフラストラクチャ (PKI) 標準に適合しています。マスターサーバーは、認証局 (CA) として動作し、ホストにセキュリティ証明書を発行します。

NetBackup は、ホスト ID ベースとホスト名ベースの 2 種類の NetBackup ホストセキュリティ証明書を提供します。ホスト ID ベース証明書は、各 NetBackup ホストに割り当てられる UUID (Universal Unique Identifier) に基づいています。NetBackup マスターサーバーは、これらの識別子をホストに割り当てます。

NetBackup 8.0 以前に生成されたすべてのセキュリティ証明書は、現在ホスト名ベースの証明書と呼ばれます。NetBackup は、これらの古い証明書を新しいホスト ID ベースの証明書に置き換える移行を進めています。この移行は今後のリリースで完了し、ホスト

名ベース証明書は使用されなくなる予定です。ただし移行はその途上にあり、特定の処理では最新の NetBackup バージョンに引き続き過去のホスト名ベース証明書が必要です。

SCCM と Chef の配備ツールとマニュアルが利用可能になりました

NetBackup 8.1 リリースでは、NetBackup の配備に System Center Configuration Manager (SCCM) と Chef の使用がサポートされるようになりました。ベリタスでは、さまざまな配備パスをテストし、検証を行っています。SCCM と Chef の両方のマニュアルとテンプレートが入手できます。SCCM と Chef のサポートおよび使用について詳しくは、[SORT](#) を参照してください。

マスターサーバーのプッシュインストールのサポートは廃止されました

この NetBackup リリース以降、マスターサーバーのプッシュインストールまたはサイレントインストールのサポートは廃止されます。

8.1 のメディアサーバーまたはデュアルスタック構成のクライアントホストにインストールするときにホスト ID ベースの証明書が配備されない

次の環境では、ホスト ID ベースの証明書が配備されません。

- NetBackup マスターサーバーが 8.1 以降で IPv6 のみの構成である。
- NetBackup 8.1 ソフトウェアがメディアサーバーまたはデュアルスタック構成のクライアントホストにインストールされている。

ホストとマスターサーバー間の Web サービス接続が確立されなかったために、ホスト ID ベースの証明書が配備されません。

回避策: インストール後に、8.1 のホストにホスト ID ベースの証明書を手動で配備します。次の記事を参照してください。

https://www.veritas.com/support/en_US/article.000127129

NetBackup ライセンス

この章では以下の項目について説明しています。

- [NetBackup のライセンスの要件について](#)
- [ライセンスキーエントリについて](#)
- [ライセンスキーについてよく寄せられる質問](#)

NetBackup のライセンスの要件について

NetBackup マスターサーバーまたはメディアサーバーのソフトウェアをインストールするには、NetBackup 製品のライセンスを入力する必要があります。

ライセンスを入手するには、NetBackup 製品を発注するときにライセンスの SKU を発注する必要があります。

発注後、ベリタス社は次の情報を含むライセンス証明書を添付した電子メールを送信します。

購入済みの NetBackup のライセンスのリスト このリストは発注した製品のライセンスすべてを含んでいます。

安全な場所にこのリストを保管してください。テクニカルサポートに問い合わせる場合に、製品のライセンスが必要になることがあります。

NetBackup 製品をダウンロードするためのアクセス用のシリアル番号

NetBackup 製品インストール用の電子ソフトウェア配布 (ESD) イメージをダウンロードするためにこのシリアル番号を使うことができます。

次の Web サイトに移動し、システムに ESD イメージをダウンロードするためにこのシリアル番号を入力します。

<http://my.veritas.com>

NetBackup をインストールするときには、メッセージが表示されたらマスターサーバーで他のすべての製品ライセンスを入力することを推奨します。これらのライセンスを後で追加することもできますが、マスターサーバーのソフトウェアをインストールするときにそれらを入力の方が簡単です。

NetBackup のライセンスの管理方法について詳しくは、『NetBackup 管理者ガイド Vol. 1』を参照してください。

<http://www.veritas.com/docs/DOC5332>

ライセンスキーエントリについて

すべての NetBackup SKU のライセンスはマスターサーバーで入力する必要があります。メディアサーバーで必要となる機能によって、一部の SKU のライセンスをメディアサーバーでも入力する必要があります。

表 2-1 に各サーバーで入力する必要があるライセンスを記述します。

表 2-1 NetBackup メディアサーバーで必要なライセンス

メディアサーバー形式	必要なライセンス (メディアサーバーの機能に基づく)
Enterprise メディアサーバー	■ NetBackup Enterprise Server 8.1.2 UNX ■ NetBackup Enterprise Server 8.1.2 WIN/LNX/SOLX64 ■ NetBackup Standard Infrastructure 8.1.2 XPLAT1 Front End TBYTE ■ NetBackup Enterprise Infrastructure 8.1.2 XPLAT1 Front End TBYTE ■ NetBackup Platform Base ■ NetBackup Option Library Based Tape Drive 8.1.2 XPLAT ■ NetBackup Option Shared Storage Option 8.1.2 XPLAT ■ NetBackup Option NDMP 8.1.2 XPLAT
SAN メディアサーバー	■ NetBackup Enterprise Client, UNIX ■ NetBackup Enterprise Client, Windows/Linux

次の方法のいずれかを使用してライセンスを入力します。

- **NetBackup マスターサーバーとメディアサーバーのインストール時 (推奨)**
インストールスクリプトはインストールすることを計画するすべての NetBackup 製品のライセンスを入力するように求めるメッセージを表示します。
- **NetBackup 管理コンソール**
NetBackup マスターサーバーまたはメディアサーバーのインストールの後で、コンソールを開き、[ヘルプ (Help)]>[ライセンスキー (License Keys)]をクリックします。
- **コマンドラインインターフェース (CLI) (UNIX のみ)**

NetBackup マスターサーバーまたはメディアサーバーのインストールの後で、次のコマンドを使います。

```
/usr/opensv/netbackup/bin/admincmd/get_license_key
```

メモ: システム内のほぼすべてのサーバーから NetBackup サーバーにログインして、ライセンスの表示、入力および管理を行うことができます。ライセンスをリモート管理する場合は、変更対象のシステムのライセンスを確実に表示します。間違ったサーバーにライセンスを追加または変更しないように注意してください。

ライセンスキーについてよく寄せられる質問

次に、ライセンスキーの管理方法について頻繁に寄せられる質問事項を示します。

表 2-2

質問	回答
NetBackup のライセンスシステムは、他のベリタス製品のライセンスシステムと同じですか。	NetBackup では、他のベリタス製品でも使用される共通のライセンスシステムを使用しています。ただし、共通のライセンスシステムによって、各製品のライセンス機能の採用方法が柔軟になっています。たとえば、NetBackup ではノードロックライセンスシステムを採用していませんが、他のいくつかの製品ではノードロックライセンスシステムを採用しています。
ライセンスキーはどのような形式ですか。また、ライセンスキーにはどのような情報が含まれていますか。	キーは、シリアル番号です (例: xxxxx-xxxxx-xxxxx-xxxxx-xxxxx-xxx)。ライセンスキーには次の情報が含まれています。 ■ NetBackup サーバーまたは NetBackup Enterprise サーバーのいずれのキーであるか ■ サーバー、クライアント、エージェントまたは別ライセンス製品のいずれのキーであるか ■ 正規または評価版のいずれのキーであるか ■ キーの生成方法および生成場所に関する情報
ライセンスキーにはシリアル番号が割り当てられていますか。	はい。シリアル番号情報がキーに埋め込まれています。

質問	回答
所有しているライセンスキーに関するレポートを表示できますか。	はい。ライセンスキーに関する情報はマスターサーバーに格納されています。 情報にアクセスするには、NetBackup 管理コンソールを開き、[ヘルプ (Help)]、[ライセンスキー (License Keys)]の順に選択します。 UNIX サーバーでは、次のコマンドを実行することもできます。 <pre>/usr/opensv/netbackup/bin/admincmd/get_license_key</pre> レポートの表示方法について詳しくは、『NetBackup 管理者ガイド Vol. 1』を参照してください。 http://www.veritas.com/docs/DOC5332
別ライセンス製品およびエージェントを使用可能にする方法を教えてください。	NetBackup のインストール時に、すべての別ライセンス製品およびエージェントのライセンスキーを入力するように求められます。 エージェントまたは他のアドオン製品を後から購入した場合は、ライセンスキーを手動で入力できます。NetBackup 管理コンソールを開き、[ヘルプ (Help)]>[ライセンスキー (License Keys)]を選択します。 UNIX サーバーでは、次のコマンドを実行することもできます。 <pre>/usr/opensv/netbackup/bin/admincmd/get_license_key</pre>
ライセンスキーは入力後も保管する必要がありますか。	はい。ライセンスキーのコピーは安全な場所に保管しておいてください。
ライセンスキーを紛失した場合、どうすればよいですか。	ベリタス社では、ユーザーに発行したすべてのライセンスキーを記録しています。ライセンスキーを紛失した場合は、ご購入先にお問い合わせいただくと、キーのコピーを入手できます。 Veritasの提携会社から NetBackup を購入した場合は、キーに関する情報はその提携会社にお問い合わせください。
大量注文の場合のライセンスキーにはどのように対応していますか。	NetBackup のインストールの多くは非常に大規模で、長いライセンスキーが使用されます。ライセンスキーを何度も入力することは時間のかかる作業です。購入する NetBackup コンポーネントの種類ごとに 1 つのライセンスキーを要求できます。たとえば、50 の Oracle エージェントを使用するために、1 つのライセンスキーを入手できます。サイトライセンスでは、特定の NetBackup エージェントまたは別ライセンス製品を無制限に使用できます。 ただし、購入する NetBackup コンポーネントの種類ごとに固有のライセンスキーが必要になります。個別のライセンスキーは NetBackup サーバー、Lotus Notes エージェント、または NDMP オプションのようなコンポーネントに必要になります。

質問	回答
サイトライセンスの場合のライセンスキーにはどのように対応していますか。	サイトライセンスは大量注文の場合と同様の対応になります。サイトライセンスの証明書には、無制限の数に対して有効なライセンスキーであることが明記されます。
NetBackup リモート管理コンソールを使用可能にするにはライセンスキーが必要ですか。	いいえ。NetBackup リモート管理コンソールには、特別なライセンスキーは必要ありません。NetBackup リモート管理コンソールは、マスターサーバーにアクセス可能な任意のコンピュータにインストールできます。
ライセンスキーは何回でも使用できますか。	はい。ライセンスキーは何回でも使用できます。ただし、購入したライセンス数を超える NetBackup サーバー、クライアント、エージェント、別ライセンス製品をインストールしたり使うことは法的に認められていません。
既存のユーザーの場合、ライセンスキーを入手する方法を教えてください。	ベリタス社と現行の保守契約を締結しているすべての NetBackup ユーザーは、最新バージョンの NetBackup を自動的に入手できます。NetBackup メディアキットを受け取り、ライセンスを購入したコンポーネントごとのライセンスキーを受け取ります。 ベリタス社の提携会社と保守契約を締結している場合は、提携会社を介してアップグレードを行います。詳しくは、提携会社にお問い合わせください。
正しいライセンスキーを入手していない場合の対処方法を教えてください。	正しいライセンスキーを受け取っていない場合は、ライセンスキーの証明書に記載されている注文管理部門の電話番号にお問い合わせください。テクニカルサポートでは、正規のライセンスキーは発行できません。ライセンスキーは、注文管理部門からのみ受け取ることができます。テクニカルサポートでは、正規のライセンスキーに関する問題が解決するまで、1 か月間有効の一時ライセンスキーを発行できます。
評価版のライセンスでは何が有効になりますか。	評価版のライセンスを使用すると、事前に決定されている期間は、NetBackup と、そのエージェントおよび別ライセンス製品を無制限に使用できます。
評価版の期限切れが近づいたら通知されますか。	ライセンスキーの有効期限を調べるには、NetBackup 管理コンソールを開き、[ヘルプ (Help)]>[ライセンスキー (License Keys)]を選択します。 UNIX サーバーでは、次のコマンドを実行することもできます。 <code>/usr/opensv/netbackup/bin/admincmd/get_license_key</code>
評価版のライセンスの期限が切れるとどうなりますか。	NetBackup サービスまたはデーモンが停止されます。製品を使用しようとすると評価期間が終了したことが通知されます。

質問	回答
評価版のライセンスの期限が切れた場合、バックアップ構成とカタログ情報は保存されますか。	はい。NetBackup の評価版に正規のライセンスを追加すると、すぐにカタログ情報および構成情報にアクセスできるようになります。
評価版のライセンスを正規のライセンスにアップグレードする方法を教えてください。	とても簡単です。正規のライセンスを購入して NetBackup に追加します。評価版の構成情報とカタログデータはすべて保持されています。 正規のライセンスキーを入力するには、NetBackup 管理コンソールを開き、[ヘルプ (Help)]>[ライセンスキー (License Keys)]を選択します。 UNIX サーバーでは、次のコマンドを実行することもできます。 <pre>/usr/openv/netbackup/bin/admincmd/get_license_key</pre>

UNIX システムでのサーバーソフトウェアのインストール

この章では以下の項目について説明しています。

- [UNIX および Linux のインストールおよびアップグレード要件](#)
- [インストールスクリプトの動作](#)
- [NetBackup マスターサーバーソフトウェアの UNIX へのインストール](#)
- [NetBackup メディアサーバーソフトウェアの UNIX へのインストール](#)
- [マスターサーバーからクライアントへのクライアントソフトウェアのプッシュインストールについて](#)

UNIX および Linux のインストールおよびアップグレード要件

[表 3-1](#) は NetBackup のインストールのために UNIX と Linux システムを準備するための要件を記述します。各項目に対応するためにチェックリストとしてこの表を使ってください。

インストールの必要条件に関する最新情報について詳しくは [SORT Web](#) サイトを参照してください。SORT に関する詳しい情報を参照できます。

[p.15 の「Veritas Services and Operations Readiness Tools について」](#)を参照してください。

メモ: NetBackup バージョン 8.1.2 は、HP-UX または AIX プラットフォームで、マスターサーバーまたはメディアサーバーのインストールをサポートしません。

表 3-1 UNIX および Linux での NetBackup のインストールおよびアップグレード要件

チェック	要件	詳細
オペレーティングシステム		■ UNIX と Linux の互換性のあるオペレーティングシステムの完全なリストについては、次の Web サイトで『Software Compatibility List (SCL)』を参照してください。 http://www.netbackup.com/compatibility https://sort.veritas.com/netbackup
メモリ		■ 複数のデータベースエージェントが有効になっている本番環境のマスターサーバーごとに、最低 16 GB のメモリと 4 つのコアを搭載する必要があります。 ■ 複数のデータベースエージェントが有効になっている本番環境のメディアサーバーごとに、最低 4 GB のメモリを搭載する必要があります。
ディスク領域		■ 必要となる正確な空き領域はハードウェアプラットフォームによって決まります。このトピックに関する詳細情報を参照できます。 8.1.2 の NetBackup リリースノート http://www.veritas.com/docs/DOC5332 ■ NetBackup カタログには、バックアップについての情報が含まれているため、製品の使用に伴ってサイズが大きくなります。カタログに必要なディスク領域は、主に、次のバックアップ構成によって異なります。 ■ バックアップ対象のファイル数。 ■ バックアップの間隔。 ■ バックアップデータの保持期間。 空き容量など、領域に問題がある場合は、NetBackup を代替のファイルシステムにインストールすることができます。インストールの際に、代替のインストール場所を選択して、<code>/usr/openv</code> からの適切なリンクを作成することができます。 メモ: ディスク領域の値は初回インストール用です。NetBackup カタログはマスターサーバーが本番環境になっているときにかなり多くの領域を必要とします。

チェック	要件	詳細
	一般要件	■ gzip および gunzip コマンドがローカルシステムにインストールされていることを確認してください。これらのコマンドがインストールされているディレクトリは、root ユーザーの PATH 環境変数設定に含まれている必要があります。 ■ すべてのサーバーに対する、すべての NetBackup インストール ESD イメージ、有効なライセンス、および root ユーザーのパスワード。 ■ サポートされているハードウェアでサポートされているバージョンのオペレーティングシステム (パッチを適用済みであること) を稼働しているサーバー、十分なディスク領域、およびサポートされている周辺装置。これらの要件について詳しくは、『NetBackup リリースノート UNIX、Windows および Linux』を参照してください。 http://www.veritas.com/docs/DOC5332 ■ すべての NetBackup サーバーがクライアントシステムを認識し、またクライアントシステムから認識されている必要があります。一部の環境では、それぞれの /etc/hosts ファイルに対して、もう一方の定義を行う必要があります。また、他の環境の場合は、ネットワーク情報サービス (NIS) またはドメインネームサービス (DNS) を使用することになります。 ■ 画面解像度には 1024 x 768、256 色以上が必要です。
	クラスタシステム	■ NetBackup クラスタ内の各ノードで ssh コマンドまたは同等のコマンドを実行できることを確認します。root ユーザーとして、パスワードを入力せずにクラスタ内の各ノードにリモートログオンできる必要があります。このリモートログオンは、NetBackup サーバー、NetBackup エージェントおよび別ライセンス製品のインストールと構成を行うときに必要です。インストールおよび構成を完了した後は不要になります。 ■ NetBackup をインストールする前に、クラスタフレームワークをインストールして構成し、起動しておく必要があります。 ■ DNS、NIS、/etc/hosts ファイルを使って、仮想名を定義しておく必要があります。IP アドレスも同時に定義します。(仮想名は IP アドレスのラベルです。) ■ アクティブノードからアップグレードを開始し、それから非アクティブノードをアップグレードします。 クラスタ要件に関する詳細情報を参照できます。 『Veritas NetBackup マスターサーバーのクラスタ化管理者ガイド』 http://www.veritas.com/docs/DOC5332
	NFS の互換性	NFS マウントされたディレクトリへの NetBackup のインストールはサポートされていません。NFS マウントしたファイルシステムのファイルロックは確実にない場合があります。
	カーネルの再構成	一部の周辺機器およびプラットフォームでは、カーネルの再構成が必要です。 詳しくは、『NetBackup デバイス構成ガイド UNIX、Windows および Linux』を参照してください。 http://www.veritas.com/docs/DOC5332
	Red Hat Linux	Red Hat Linux の場合、サーバー用のネットワーク構成にする必要があります。

チェック	要件	詳細
	他のバックアップソフトウェア	この製品をインストールする前に、現在システムに構成されている他のベンダーのバックアップソフトウェアをすべて削除することをお勧めします。他のベンダーのバックアップソフトウェアによって、NetBackup のインストールおよび機能に悪影響が及ぼされる場合があります。
	Web サービス	NetBackup 8.0 より、NetBackup マスターサーバーには、重要なバックアップ操作をサポートするための構成済み Tomcat Web サーバーが含まれます。この Web サーバーは、権限が制限されているユーザーアカウント要素の下で動作します。これらのユーザーアカウント要素は、各マスターサーバー（またはクラスタ化されたマスターサーバーの各ノード）で使用できる必要があります。これらの必須アカウント要素は、インストールの前に作成しておく必要があります。詳細情報を参照できます。 p.169 の「NetBackup マスターサーバー Web サーバーのユーザーとグループの作成」を参照してください。 メモ: ベリタスは、NetBackup Web サービスに使用するユーザーアカウントの詳細を保存することを推奨します。マスターサーバーのリカバリでは、NetBackup カタログのバックアップが作成されたときに使われたものと同じ NetBackup Web サービスのユーザーアカウントとクレデンシャルが必要です。 メモ: セキュアモードで NetBackup PBX を実行する場合は、Web サービスユーザーを PBX の権限を持つユーザーとして追加します。PBX モードの判別と、正しくユーザーを追加する方法について詳しくは、次をご覧ください。 https://www.veritas.com/support/ja_JP/article.000115774 デフォルトでは、UNIX インストールスクリプトは、Web サーバーをユーザーアカウント <code>nbwebsvc</code> およびグループアカウント <code>nbwebgrp</code> に関連付けようとします。これらのデフォルト値は、NetBackup インストール応答ファイルに上書きできます。UNIX のインストールスクリプトを開始する前に、ターゲットホストに NetBackup インストール応答ファイルを設定する必要があります。NetBackup インストール応答ファイルにカスタム Web サーバーアカウント名を次に示すように設定します。 1 <code>root</code> ユーザーとしてサーバーにログインします。 2 任意のテキストエディタでファイル <code>/tmp/NBInstallAnswer.conf</code> を開きます。ファイルが存在しない場合はファイルを作成します。 3 次に示す行を追加して、デフォルトの Web サーバーユーザーアカウント名を上書きします。 <pre>WEBSVC_USER=custom_user_account_name</pre> 4 次に示す行を追加して、デフォルトの Web サーバークラスタグループアカウント名を上書きします。 <pre>WEBSVC_GROUP=custom_group_account_name</pre> 5 ファイルを保存して閉じます。

チェック	要件	詳細
	Veritas Smart Meter の顧客登録キー	NetBackup 8.1.2 以降、Veritas Smart Meter の顧客登録キーを指定する必要があります。 Veritas Smart Meter に関する詳しい情報を参照できます。 p.9 の「 Veritas Smart Meter について 」を参照してください。

マスターサーバーとメディアサーバーが NetBackup アプライアンスでないかぎり、Windows と UNIX プラットフォームの英語以外のバージョンを混在させない

マスターサーバーとメディアサーバーが NetBackup アプライアンスでないかぎり、Windows と UNIX プラットフォームの英語以外のバージョンを混合しないでください。英語版以外の Windows と UNIX プラットフォームを混在させると、オペレーティングシステムアーキテクチャとエンコードの相違により、非 ASCII のファイル名とフォルダ名がユーザーインターフェースに正しく表示されなくなる可能性があります。この問題により正常に動作しなくなることがあります。

異なるバージョンの UNIX ベースオペレーティングシステムを実行する環境での NetBackup のインストール

NetBackup は、システムロケールが同一であるかぎり、異なるバージョンの UNIX ベースのオペレーティングシステムを実行している環境にインストールできます。複数の UNIX プラットフォームで異なるロケールを使用すると、ユーザーインターフェースで非 ASCII のファイル名やフォルダ名が正しく表示されない原因になります。この問題により正常に動作しなくなることがあります。

Solaris システムの特別なインストールガイドライン

カーネルパラメータには、メッセージキュー、セマフォ、共有メモリのパラメータなど、NetBackup のパフォーマンスに影響を与える可能性のあるパラメータがあります。これらの値を調整することによって、システムパフォーマンスが低下したり、デッドロックの状態になることを回避できる場合があります。

チューニング可能なパラメータについて詳しくはオンラインで参照してください。

- NetBackup *NIX セマフォのチューニング推奨値 (Linux、Solaris)
https://www.veritas.com/support/ja_JP/article.000081309
- NetBackup 用 Solaris 10 の調整
https://www.veritas.com/support/ja_JP/article.000035120
- NetBackup メディアサーバープロセス (bptm / bpdm) 用 Solaris 10 共有メモリの調整
https://www.veritas.com/support/ja_JP/article.000034846

このリンクは **NetBackup 6.x** について言及していますが、**NetBackup 7.x** および **NetBackup 8.x** にも引き続き有効です。**x** からアップグレードするユーザーのみの検討事項です。

UNIX クラスタ環境の特別なインストールガイドライン

クラスタシステムに **NetBackup** をインストールする場合は、次のガイドラインを使用してください。

- **NetBackup** クラスタ内の各ノードで `ssh` コマンドを実行できることを確認します。**root** ユーザーとして、パスワードを入力せずにクラスタ内の各ノードにリモートログインする必要があります。このリモートログインは、**NetBackup** サーバーとすべての **NetBackup** 別ライセンス製品のインストールと構成を行うときに必要です。インストールおよび構成を完了した後は不要になります。
- **NetBackup** をインストールする前に、クラスタフレームワークをインストールして構成し、起動しておく必要があります。インストールに関する追加の前提条件および注意事項については、『**NetBackup** マスターサーバーのクラスタ化 管理者ガイド』を参照してください。
<http://www.veritas.com/docs/DOC5332>
- DNS、NIS または `/etc/hosts` を使用して、仮想名を定義しておく必要があります。IP アドレスも同時に定義します。(仮想名は IP アドレスのラベルです。) この仮想名および IP アドレスは、**NetBackup** のリソースにだけ使用します。

インストールスクリプトの動作

NetBackup サーバーソフトウェアをインストールすると、クライアントソフトウェアもインストールされます。

NetBackup 8.1.2 をインストールすると、次の別ライセンス製品もインストールされます(プラットフォームでサポートされている場合)。

- BMR マスターサーバー
- NDMP
- Veritas Product Authentication and Authorization (**NetBackup** アクセス制御)
- Vault
- BMR ブートサーバー
- DB2
- 暗号化
- Informix
- VxUpdate エージェント

- Lotus Notes
- Oracle
- SAP
- Snapshot Client
- Sybase

インストールの完了後、これらの機能を有効にするには、各別ライセンス製品の有効なライセンスキーを入力する必要があります。各別ライセンス製品も必要に応じて構成する必要があります。

サーバーソフトウェアと別ライセンス製品に加えて、インストールスクリプトは次のタスクを実行します。

ホスト名	サーバーの <code>/usr/openv/netbackup/bp.conf</code> ファイルに、ホスト名を書き込みます。 クラスタ環境では、スクリプトはサーバーの <code>/usr/openv/netbackup/bp.conf</code> ファイルに仮想ホスト名を書き込みます。
自動起動スクリプトと自動停止スクリプト	サポートされているプラットフォームの適切なディレクトリに、自動起動および停止スクリプトを追加します。
PBX	NetBackup をインストールするコンピュータにまだ PBX がインストールされておらず、プラットフォームで PBX がサポートされている場合は、インストールスクリプトによって PBX がインストールされます。 PBX がコンピュータにすでにあれば、インストールスクリプトは次のタスクの 1 つを実行します。 ■ 8.1.2 に含まれているバージョンより古ければ既存のバージョンを更新します。 ■ 既存のバージョンが 8.1.2 に含まれているバージョンと同じかまたはそれ以降なら PBX を更新しません。

NetBackup マスターサーバーソフトウェアの UNIX へのインストール

マスターサーバーでは、バックアップ、アーカイブおよびリストアが管理されます。マスターサーバーには、NetBackup カタログが格納されます。NetBackup カタログには、NetBackup 構成およびバックアップについての情報を持つ内部データベースが含まれます。

新規にマスターサーバーをインストールする場合は、次のガイドラインを使用してください。

マスターサーバーの指定	マスターサーバーにするコンピュータを指定し、最初に、そのコンピュータにマスターサーバーソフトウェアをインストールします。
EMM サーバー	マスターサーバーに EMM を構成する必要があります。すべてのマスターサーバーには、それぞれの EMM 構成が必要です。リモート EMM または共用 EMM は、サポートされなくなりました。
ライセンス	マスターサーバーのインストール時に、NetBackup 基本製品のライセンスを入力する必要があります。サーバーまたはクライアントで使用する NetBackup の別ライセンス製品またはエージェントを追加するたびに、ライセンスを入力する必要があります。これらの追加のライセンスは、マスターサーバーで入力する必要があります。 NetBackup-Java 管理コンソールでライセンスを追加または更新して保存を行った場合、コンソールを再起動する必要があります。 NetBackup のライセンスの管理については、『NetBackup 管理者ガイド Vol. 1』を参照してください。 http://www.veritas.com/docs/DOC5332
Veritas Smart Meter の顧客登録キー	NetBackup 8.1.2 以降、Veritas Smart Meter の顧客登録キーを指定する必要があります。Veritas Smart Meter に関する詳しい情報を参照できます。 p.9 の「Veritas Smart Meter について」を参照してください。

NetBackup マスターサーバーソフトウェアをインストールする方法

- 1 root ユーザーとしてサーバーにログインします。
- 2 ESD イメージ (ダウンロード済みファイル) がある場所に移動し、次のコマンドを入力します。

```
./install
```


- 3** 次のメッセージが表示されたら、Enter キーを押して続行します。

```
Veritas Installation Script
Copyright 1993 - 2016 Veritas Corporation, All Rights Reserved.
```

```
Installing NetBackup Server Software
```

```
Please review the VERITAS SOFTWARE LICENSE AGREEMENT located on
the installation media before proceeding. The agreement includes
details on the NetBackup Product Improvement Program.
```

```
For NetBackup installation and upgrade information specific to
your
platform and to find out if your installed EEBs or hot fixes are
contained in this release, check out the Veritas Services and
Operations Readiness Tools (SORT) Installation and Upgrade
Checklist
and Hot fix and EEB Release Auditor, respectively, at
https://sort.veritas.com/netbackup.
```

```
ATTENTION! To help ensure a successful upgrade to NetBackup
8.1.1.2,
please visit the NetBackup 8.x Upgrade Portal:
http://www.veritas.com/docs/000115678.
```

```
Do you wish to continue? [y,n] (y)
```

- 4** 次のメッセージが表示されたら、Enter キーを押して続行します。

```
Is this host a master server? [y/n] (y)
```

- 5** マスターサーバーのディザスタリカバリを実行する必要がある場合は、メッセージが表示されたら Y を選択します。デフォルトの N の場合は Enter キーを押します。

```
Do you want to do a disaster recovery on this master server? [y/n]
(n)
```

ディザスタリカバリの操作には、その他の手順とこのマニュアルで説明されていない情報が必要です。詳細情報を参照できます。

Veritas NetBackup トラブルシューティングガイド

- 6 次の質問が表示されたら、顧客登録キーが含まれる完全修飾パスを入力します。

```
Please enter the fully qualified path containing your customer
registration key file, or enter q to quit the install script.
```

- 7 **NetBackup** のインストール場所について、適切なプラットフォーム情報を次のように入力します。

- 次の質問が表示されたら、Enter キーを押してデフォルト (y) を受け入れます。

```
The NetBackup and Media Manager software is built
for use on <platform> hardware. Do you want to install
NetBackup and Media Manager files? [y,n] (y)
```

- 次の質問が表示されたら、**NetBackup** と **Media Manager** ソフトウェアをインストールする場所を選択します。

```
NetBackup and Media Manager are normally
installed in /usr/opensv.
Is it OK to install in /usr/opensv? [y,n] (y)
```

Solarisのために表示されるパスは/opt/opensvです。

デフォルト (y) を受け入れるためには、Enter キーを押します。

インストール場所を変更するには、n と入力し、Enter キーを押します。それから適切な宛先を入力します。

インストールフォルダの制限事項についての追加情報を参照できます。

p.10 の「[NetBackup インストールディレクトリの制限事項](#)」を参照してください。

- 8 **NetBackup** サーバーまたは **Enterprise Server** のライセンスを入力します。

- 9 y を入力し、次に、プロンプトに従って **NetBackup** の他の別ライセンス製品およびエージェントのライセンスキーを追加します。

ライセンスは後で追加できますが、ここで入力することをお勧めします。**NetBackup** 管理コンソールを使用してライセンスを後で追加する場合は、コンソールを再起動する必要があります。

- 10 すべてのライセンスの入力後、q を入力して **License Key** ユーティリティを終了し、サーバーソフトウェアのインストールを完了します。

- 11 次のメッセージが表示されたら、正しいコンピュータ名を確認または入力します。

```
Installing NetBackup Enterprise Server version: 8.1.2
If this machine will be using a different network interface than

the default (name), the name of the preferred interface
should be used as the configured server name. If this machine
will be part of a cluster, the virtual name should be used as the
```

```
configured server name.
The domainname of your server appears to be "domain". You
may choose to use this domainname in your configured NetBackup
server name, or simply use "name" as the configured
NetBackup server name.
Would you like to use "name.domain" as the configured NetBackup
server
name of this machine? [y, n] (y)
```

メモ: ドメイン名の情報を間違えると、認証ブローカーと NetBackup アクセス制御を設定できません。この問題を解決するには、`bpbaz -configureauth` コマンドを使って、認証ブローカーを構成してください。`bpbaz -configureauth` コマンドについての詳細情報を参照できます。

Veritas NetBackup コマンドリファレンスガイド

<http://www.veritas.com/docs/DOC5332>

- 表示された (デフォルトの) 名前を受け入れるには、Enter キーを押します。
- 表示された (デフォルトの) 名前を変更するには、n を入力して、名前を入力します。
- クラスタ化された NetBackup サーバーの場合、NetBackup サーバーの実際のローカルホスト名ではなく仮想名を入力します。

- 12** 次の質問が表示された場合は、質問に答えてマスターサーバーを指定または確認します。

```
Is <name> the master server? [y, n] (y)
```

- Enter キーを押して、表示された名前 (前の手順で指定したマシン名) を受け入れます。
- 前の手順でサーバーの仮想名を入力した場合、インストールスクリプトは次の質問を示します。

```
Is this server part of a cluster installation?
```

答えが「はい」である場合は、y を押し、表示される一連のクラスタ構成の質問に答えます。

答えが「いいえ」である場合は、n を押します。

- 13** 次の質問が表示された場合は、質問に答えてこのマスターサーバーにメディアサーバーを使用しているかどうかを指定します。

```
Do you want to add any media servers now? [y, n] (n)
```

- このマスターサーバーにメディアサーバーを使用していない場合は、Enter キーを押して、次の手順に進みます。
- このマスターサーバーにメディアサーバーを使用している場合は、y を入力し、各メディアサーバーの名前を入力します。
 メディアサーバー名を入力する場合は、コンピュータ名とドメイン名を入力する必要があります。次に例を示します。

alpha.domain.com

alpha はコンピュータ名で、domain.com はドメイン名です。

ここに入力するメディアサーバー名は、マスターサーバーの bp.conf ファイルに自動的に追加されます。メディアサーバーのソフトウェアを後でインストールすると、マスターサーバーはメディアサーバーとすぐに通信できます。

- 既存の NetBackup 運用環境にメディアサーバーを追加する場合は、このマニュアルの手順を使うことができません。既存の NetBackup 運用環境にメディアサーバーを追加する方法の詳細については、『NetBackup 管理者ガイド Vol. 2』を参照してください。

<http://www.veritas.com/docs/DOC5332>

- 14** 次のメッセージが表示されたら、Enter キーを押し、EMM サーバーのデフォルト名を受け入れます。マスターサーバーに EMM を構成する必要があります。すべてのマスターサーバーには、それぞれの EMM 構成が必要です。リモート EMM または共用 EMM は、サポートされなくなりました。

NetBackup maintains a centralized catalog (separate from the image catalog) for data related to media and device configuration, device management, storage units, hosts and host aliases, media server status, NDMP credentials, and other information. This is managed by the Enterprise Media Manager server.

Enter the name of the Enterprise Media Manager (default: <name>)

- 15** 次の質問が表示されたら、質問に答えます。

Do you want to start the NetBackup job-related processes so backups and restores can be initiated? [y, n] (y)

- クラスタ化された NetBackup サーバーがある(または導入を予定している)場合は、n を入力します。
- 非クラスタインストールの場合は、Enter キーを押してデフォルトの答えの y を受け入れ、NetBackup プロセスと EMM サーバーを起動します。

メディアサーバーを後でインストールする場合、EMM サーバーが実行されている必要があるため、これらのプロセスをすぐに起動する必要があります。

- 16 クラスタ化された NetBackup マスターサーバーの場合、NetBackup を実行するすべてのノードでこれらの手順を繰り返します。
- 17 (該当する場合のみ) クラスタ化された NetBackup マスターサーバーで、非アクティブノードごとに認証局の証明書とホスト証明書を取得する必要があります。詳細情報を参照できます。
p.166 の「[クラスタ化されたマスターサーバーの非アクティブノードで証明書を生成する](#)」を参照してください。
- 18 (該当する場合) NetBackup 環境でクラウドストレージを使用する場合は、クラウド構成ファイルを更新する必要があります。詳細情報を参照できます。
p.144 の「[インストール後すぐにマスターサーバー上のクラウド構成ファイルを更新するかまたは NetBackup 8.1.2 にアップグレードする](#)」を参照してください。
- 19 初期インストールが完了したら、他の NetBackup アドオン製品 (言語パッケージなど) をインストールできます。

NetBackup ソフトウェアのインストール

マスターサーバーソフトウェアをインストールした後、ご使用の環境に応じて、メディアサーバーソフトウェアまたはクライアントソフトウェアをインストールできます。

- システムにメディアサーバーがあれば、メディアサーバーソフトウェアをインストールする準備ができています。
p.46 の「[NetBackup メディアサーバーソフトウェアの UNIX へのインストール](#)」を参照してください。
- ご使用の環境にメディアサーバーが存在しない場合、クライアントコンピュータにクライアントソフトウェアをインストールできます。
 - p.107 の「[UNIX クライアントのローカルインストール](#)」を参照してください。
 - マスターサーバーからクライアントにクライアントソフトウェアをインストールするには (推奨)、クライアント形式のソフトウェアを最初にマスターサーバーにインストールする必要があります。
p.52 の「[マスターサーバーへのクライアント形式のソフトウェアのインストール](#)」を参照してください。

NetBackup メディアサーバーソフトウェアの UNIX へのインストール

この項では、新しい NetBackup メディアサーバーをインストールする方法を記述します。NetBackup の既存のバージョンがないコンピュータにサーバーソフトウェアをインストールするためにこの情報を使ってください。

メディアサーバーソフトウェアを使用すると、NetBackup 環境内のロボットおよびストレージデバイスを管理できます。

マスターサーバーおよび EMM サーバーソフトウェアをインストールした後、メディアサーバーコンピュータにメディアサーバーソフトウェアをインストールできます。

新しいメディアサーバーをインストールする場合は、次のガイドラインを使用してください。

メディアサーバーの指定 メディアサーバーにするコンピュータを指定し、それらにメディアサーバーソフトウェアをインストールします。

クラスタ 新規か最初の NetBackup メディアサーバーは、クラスタとしてインストールできません。

EMM サーバー EMM サーバーは、メディアサーバーソフトウェアをインストールする前にインストールして実行しておく必要があります。

ライセンスキー NetBackup メディアサーバーソフトウェアをインストールするときに、NetBackup 製品のライセンスを入力する必要があります。サーバーまたはクライアントで使用する NetBackup の別ライセンス製品またはエージェントを追加するたびに、ライセンスを入力する必要があります。これらの追加ライセンスは、メディアサーバーごとに入力する必要があります。

NetBackup のライセンスの管理について詳しくは『NetBackup 管理者ガイド Vol. 1』を参照してください。

<http://www.veritas.com/docs/DOC5332>

メモ: NetBackup 管理コンソールでライセンスを変更して保存する場合は、コンソールを再起動する必要があります。

IBMzSeries RedHat と IBMzSeries SUSE これらのプラットフォームはメディアサーバーとしての使用のみサポートされるようになりました。

CA 証明書の指紋 インストール時に、マスターサーバーの CA 証明書の指紋を把握している必要があります。CA 証明書の指紋と、セキュリティ証明書の生成時のこの指紋の役割について詳しくは、次を参照してください。

https://www.veritas.com/support/en_US/article.000127129

認証トークン

場合によっては、セキュリティ証明書を正常に配備するために、インストーラの実行時に認証トークンが必要です。認証トークンと、セキュリティ証明書の生成時のこのトークンの役割について詳しくは、次を参照してください。

https://www.veritas.com/support/en_US/article.000127129

NetBackup メディアサーバーソフトウェアをインストールする方法

- 1 root ユーザーとしてサーバーにログインします。
- 2 ESD イメージ (ダウンロード済みファイル) がある場所に移動し、次のコマンドを入力します。

```
./install
```

- 3 次のメッセージが表示されたら、Enter キーを押して続行します。

```
Veritas Installation Script
Copyright 1993 - 2016 Veritas Corporation, All Rights Reserved.
```

```
Installing NetBackup Server Software
```

```
Please review the VERITAS SOFTWARE LICENSE AGREEMENT located on
the installation media before proceeding. The agreement includes
details on the NetBackup Product Improvement Program.
```

```
For NetBackup installation and upgrade information specific to
your
platform and to find out if your installed EEBs or hot fixes are
contained in this release, check out the Veritas Services and
Operations Readiness Tools (SORT) Installation and Upgrade
Checklist
and Hot fix and EEB Release Auditor, respectively, at
https://sort.veritas.com/netbackup.
```

```
ATTENTION! To help ensure a successful upgrade to NetBackup
8.1.2,
please visit the NetBackup 8.x Upgrade Portal:
http://www.veritas.com/docs/000115678.
```

```
Do you wish to continue? [y,n] (y)
```

- 4 次の質問が表示された場合は、質問に答えて現在のコンピュータがマスターサーバーかどうかを示します。

Is this host the master server? [y,n]

- 5 次のメッセージが表示されたら、正しいコンピュータ名を確認または入力します。

Installing NetBackup Enterprise Server version: 8.1.2
 If this machine will be using a different network interface than

 the default (name), the name of the preferred interface
 should be used as the configured server name. If this machine
 will be part of a cluster, the virtual name should be used as the

 configured server name.
 The domainname of your server appears to be "domain". You
 may choose to use this domainname in your configured NetBackup
 server name, or simply use "name" as the configured
 NetBackup server name.
 Would you like to use "name" as the configured NetBackup server
 name of this machine? [y, n] (y)

メモ: ドメイン名の情報を間違えると、認証ブローカーと NetBackup アクセス制御を設定できません。この問題を解決するには、bpnbaz -configureauth コマンドを使って、認証ブローカーを構成してください。bpnbaz -configureauth コマンドについての詳細情報を参照できます。

Veritas NetBackup コマンドリファレンスガイド

<http://www.veritas.com/docs/DOC5332>

- 表示された(デフォルトの)メディアサーバーの名前が正しかったら、Enter キーを押します。
- 表示された(デフォルトの)メディアサーバーの名前が正しくなかったら、n を入力し、正しい名前を入力します。

- 6 次の質問が表示されたら、マスターサーバーの名前を指定します。

What is the fully qualified name of the master server?

マスターサーバーがクラスタ化されている場合は、マスターサーバーの仮想名を入力します。

- 7 NetBackup のインストール場所について、適切なプラットフォーム情報を次のように入力します。

- 次の質問が表示されたら、Enter キーを押してデフォルト (y) を受け入れます。

```
The NetBackup and Media Manager software is built
for use on <platform> hardware. Do you want to install
NetBackup and Media Manager files? [y,n] (y)
```

- 次の質問が表示されたら、**NetBackup** と **Media Manager** ソフトウェアをインストールする場所を選択します。

```
NetBackup and Media Manager are normally
installed in /usr/opensv.
Is it OK to install in /usr/opensv? [y,n] (y)
```

Solarisのために表示されるパスは/opt/opensvです。

デフォルト (y) を受け入れるためには、Enter キーを押します。

インストール場所を変更するには、n と入力し、Enter キーを押します。それから適切な宛先を入力します。

インストールフォルダの制限事項についての追加情報を参照できます。

p.10 の「**NetBackup インストールディレクトリの制限事項**」を参照してください。

- 8 バイナリのインストール場所を承認すると、インストーラは認証局の証明書の詳細をフェッチします。

```
Getting CA certificate details.
Depending on the network, this action may take a few minutes. To
continue without setting up secure communication, press Ctrl+C.
```

Ctrl+C を押す場合は、インストールを再実行するか、必要なセキュリティコンポーネントを使用せずにインストールを続行する必要があります。必要なセキュリティコンポーネントが存在しない場合はバックアップとリストアが失敗します。

- 9 メッセージが表示されたら、指紋情報を確認し、正確であることを承認します。

```
Master server [master_name] reports CA Certificate fingerprint
[fingerprint]. Is this correct? [y/n] (y)
```

指紋情報を承認すると、インストーラは認証局の証明書の詳細を保存します。

```
Storing CA certificate.
```

```
Depending on the network, this action may take a few minutes. To
```

```
continue without setting up secure communication, press Ctrl+C.
```

Ctrl+Cを押す場合は、インストールを再実行するか、必要なセキュリティコンポーネントを使用せずにインストールを続行する必要があります。必要なセキュリティコンポーネントが存在しない場合はバックアップとリストアが失敗します。

- 10 インストーラは認証局の証明書の保存後にホスト証明書をフェッチします。

```
Getting host certificate.
```

```
Depending on the network, this action may take a few minutes. To
```

```
continue without setting up secure communication, press Ctrl+C.
```

Ctrl+Cを押す場合は、インストールを再実行するか、必要なセキュリティコンポーネントを使用せずにインストールを続行する必要があります。必要なセキュリティコンポーネントが存在しない場合はバックアップとリストアが失敗します。

- 11 (該当する場合) 認証トークンを求めるメッセージが表示されたら、トークンを入力してください。

```
An authorization token is required in order to get the host
certificate for this host. At the prompt, enter the authorization
token or q to skip the question. NOTE: The answer entered will
not be displayed to the terminal.
```

```
Enter the authorization token for master_server_FQDN or q to skip:
```

- 12 NetBackup サーバーまたは NetBackup Enterprise Server のライセンスキーを入力します。

- 13 y を入力し、次に、プロンプトに従って NetBackup の他の別ライセンス製品およびエージェントのライセンスキーを追加します。

ライセンスキーは後で追加できますが、ここで入力することをお勧めします。

NetBackup-Java 管理コンソールを使用してライセンスキーを後で追加する場合は、コンソールを再起動する必要があります。

- 14 すべてのライセンスキーの入力後、q を入力して License Key ユーティリティを終了し、サーバーソフトウェアのインストールを完了します。

- 15** 次のメッセージが表示されたら、**Enter** キーを押し、**EMM** サーバーのデフォルト名を受け入れます。マスターサーバーに **EMM** を構成する必要があります。すべてのマスターサーバーには、それぞれの **EMM** 構成が必要です。リモート **EMM** または共用 **EMM** は、サポートされなくなりました。

Enter the name of the Enterprise Media Manager (default: <name>)

マスターサーバー名は、デフォルトで表示されます。

- 16** 残りのメディアサーバーにメディアサーバーソフトウェアをインストールするには、手順 **1** から **15** を繰り返します。

マスターサーバーからクライアントへのクライアントソフトウェアのプッシュインストールについて

マスターサーバーからクライアントにソフトウェアをプッシュインストールすることによって、クライアントのインストールを迅速に実行できます。この方式を使用すると、各クライアントでローカルインストールする必要がなくなります。

次に、マスターサーバーからクライアントソフトウェアをインストールするための **NetBackup** 環境の準備方法について説明します。

- マスターサーバーにクライアント形式のソフトウェアをインストールします。**NetBackup** 構成に關係するすべてのクライアント形式をインストールしてください。

p.52 の「**マスターサーバーへのクライアント形式のソフトウェアのインストール**」を参照してください。

- マスターサーバーからクライアントソフトウェアをプッシュインストールするには、各クライアント名を **NetBackup** ポリシーに割り当てておく必要があります。ポリシーは、マスターサーバー上に作成されます。

ポリシーを作成する場合、ポリシー形式を指定して、そのポリシーに割り当てられるクライアントのオペレーティングシステムを示す必要があります。ポリシーが存在しない場合、マスターサーバーによってクライアントのオペレーティングシステムが認識されないため、リモートインストール (またはプッシュインストール) は失敗します。

NetBackup ポリシーの作成方法については、『**NetBackup 管理者ガイド Vol. 1**』を参照してください。

<http://www.veritas.com/docs/DOC5332>

- 必要なポリシーが作成された後に、マスターサーバーからクライアントにクライアントソフトウェアをプッシュインストールできます。

p.121 の「**UNIX または Linux クライアントのリモートインストール方式について**」を参照してください。

マスターサーバーへのクライアント形式のソフトウェアのインストール

次の操作を行うには、クライアント形式のソフトウェアをマスターサーバーにインストールする必要があります。

- **NetBackup** ポリシーにクライアントを割り当て、クライアントをバックアップできるようにする
- マスターサーバーからクライアントにクライアントソフトウェアをインストールする (またはプッシュインストールする)

UNIX クライアント形式では、クライアントインストールスクリプトによって、クライアントソフトウェアをマスターサーバーにインストールできます。その後、マスターサーバーからクライアントにクライアントソフトウェアをインストール (またはプッシュインストール) できます。

マスターサーバーにクライアント形式のソフトウェアをインストールする方法

- 1 **root** ユーザーとしてサーバーにログインします。
- 2 **ESD** イメージ (ダウンロード済みファイル) がある場所に移動し、次のコマンドを入力します。

```
./install
```

- 3** 次のメッセージが表示されたら、**Enter** キーを押して続行します。

```
Veritas Installation Script  
Copyright 1993 - 2016 Veritas Corporation, All Rights Reserved.
```

```
Installing NetBackup Client Software
```

```
Please review the VERITAS SOFTWARE LICENSE AGREEMENT located on  
the installation media before proceeding. The agreement includes  
details on the NetBackup Product Improvement Program.
```

```
For NetBackup installation and upgrade information specific to  
your  
platform and to find out if your installed EEBs or hot fixes are  
contained in this release, check out the Veritas Services and  
Operations Readiness Tools (SORT) Installation and Upgrade  
Checklist  
and Hot fix and EEB Release Auditor, respectively, at  
https://sort.veritas.com/netbackup.
```

```
Do you wish to continue? [y,n] (y)
```

- 4** インストールしたいすべてのクライアント形式を選択し、インストールのプロンプトに従います。

Windows システムでのサーバーソフトウェアのインストール

この章では以下の項目について説明しています。

- [Windows](#) および [Windows クラスタ](#) のインストールおよびアップグレード要件
- [Windows クラスタ](#) のインストールとアップグレードの要件
- [Windows](#) システムでのローカル、リモート、またはクラスタ化されたサーバーインストールの実行
- [NetBackup クラスタ環境](#) のインストール後の作業
- [Windows クラスタ](#) のインストールまたはアップグレードの確認
- [Windows システム](#) での [NetBackup](#) サーバーのサイレントインストール

Windows および Windows クラスタのインストールおよびアップグレード要件

[表 4-1](#) は [NetBackup](#) のインストールのために [Windows](#) システムを準備するための要件を記述します。各項目に対応するためにチェックリストとしてこの表を使ってください。

インストールの必要条件に関する最新情報について詳しくは [SORT Web](#) サイトを参照してください。SORT に関する詳しい情報を参照できます。

p.15 の「[Veritas Services and Operations Readiness Tools](#) について」を参照してください。

注意: ベリタスでは、インストールまたはアップグレードの後、Windows クラスタ上のデフォルト以外の場所に NetBackup カタログを移動することがサポートされます。ただし、アップグレードを成功させるためには、アップグレードの前に NetBackup カタログをデフォルトの場所に戻す必要があります。カタログがデフォルトの場所でない場合、NetBackup のアップグレードは行わないでください。アップグレードの前にデータベースをデフォルトの場所に移動しなかった場合、マスターサーバーが使用できなくなります。詳細情報を参照できます。

https://www.veritas.com/support/en_US/article.000118358

表 4-1 Windows および Windows クラスタでの NetBackup のインストールおよびアップグレード要件

チェック	要件	詳細
	オペレーティングシステム	■ 最新のオペレーティングシステムパッチと更新を適用したことを確認します。オペレーティングシステムが最新のものかどうか不明な場合は、ご購入先にお問い合わせのうえ、最新のパッチおよび更新版を入手してください。 ■ Windows の互換性のあるオペレーティングシステムの完全なリストについては、次の Web サイトで『Software Compatibility List (SCL) 』を参照してください。 http://www.netbackup.com/compatibility
	メモリ	■ 複数のデータベースエージェントが有効になっている本番環境のマスターサーバーごとに、最低 32 GB のメモリと 4 つのコアを搭載する必要があります。 ■ 複数のデータベースエージェントが有効になっている本番環境のメディアサーバーごとに、最低 4 GB のメモリを搭載する必要があります。

チェック	要件	詳細
	ディスク領域	■ NTFS パーティション。 ■ サーバーソフトウェアおよび NetBackup カタログに対応するために必要となる正確な空き領域は、ハードウェアプラットフォームによって決まります。このトピックに関する詳細情報を参照できます。 8.1.2 の NetBackup リリースノート http://www.veritas.com/docs/DOC5332 ■ アップグレードの場合は、Windows がインストールされているドライブに、さらに 500 MB のディスク領域が必要になります。アップグレードの完了後は、この領域は不要です。 ■ NetBackup カタログには、バックアップについての情報が含まれているため、製品の使用に伴ってサイズが大きくなります。カタログに必要なディスク領域は、主に、次のバックアップ構成によって異なります。 ■ バックアップ対象のファイル数。 ■ バックアップの間隔。 ■ バックアップデータの保持期間。 ■ ディスクストレージユニットボリュームまたはファイルシステムで 5% 以上の利用可能なディスク容量を確保することを推奨します。 メモ: ディスク領域の値は初回インストール用です。NetBackup カタログはマスターサーバーが本番環境になっているときにかなり多くの領域を必要とします。
	一般要件	以下の項目すべてがあることを確認します。 ■ NetBackup インストール ESD イメージ ■ 適切なライセンスキー ■ すべてのサーバーの管理者アカウントとパスワード ■ 画面解像度は 1024 x 768、256 色以上に設定してください。 メモ: Windows 2008 Server、Windows 2008 R2 Server、Windows 2012 R2、Windows 2012 (UAC 有効化)、Windows Server 2016 環境で NetBackup をインストールするには、正規の管理者としてログオンする必要があります。管理者グループに割り当て済みであり、正規の管理者ではないユーザーは、UAC が有効な環境で NetBackup をインストールできません。管理者グループのユーザーが NetBackup をインストールできるようにするには、UAC を無効化します。

チェック	要件	詳細
	リモートインストールおよびクラスタインストール	

チェック	要件	詳細
		リモートインストールおよびクラスタインストールには、前述のすべてのインストール要件に加えて、次のガイドラインが適用されます。 ■ クラスタ内のすべてのノードで、同じバージョンのオペレーティングシステム、Service Pack および NetBackup を実行している必要があります。サーバーのオペレーティングシステムに異なるバージョンを混在させることはできません。 ■ インストールのアカウントには、すべてのリモートシステムまたはクラスタ内のすべてのノードの管理者権限が必要です。 ■ インストール元のシステム (またはプライマリノード) では、Windows 2008/2008 R2 Server/Windows 2012/2012 R2/Windows 2016 のいずれかを実行している必要があります。 Windows 2008 R2 の場合、クラスタは Enterprise と Data Center エディションでのみサポートされ、Standard エディションではサポートされません。 ■ インストール先のコンピュータ (またはクラスタノード) に Windows 2008/2008 R2/Windows 2012/2012 R2/Windows 2016 のいずれかがインストールされている必要があります。 ■ Remote Registry サービスはリモートシステムで開始する必要があります。 NetBackup のインストーラはリモートシステムの Remote Registry サービスを有効にし、開始できます。Remote Registry サービスが開始されない場合、インストールは次のエラーメッセージを受信します。 <code>Attempting to connect to server server_name failed with the following error: Unable to connect to the remote system. One possible cause for this is the absence of the Remote Registry service. Please ensure this service is started on the remote host and try again.</code> ■ NetBackup の仮想名と IP アドレス NetBackup で利用可能な仮想名および IP アドレスを用意します。インストール中に、この情報を入力する必要があります。 ■ メディアサーバーのクラスタのサポートの変更 クラスタ化されたメディアサーバーの新しいインストールを実行することはできません。 ■ Windows Server Failover Clustering (WSFC) ■ NetBackup グループによって使用される共有ディスクがクラスタ内で構成され、アクティブノードでオンラインになっている必要があります。 ■ NetBackup を共有ディスクが存在するノード (アクティブノード) からインストールします。 ■ コンピュータ名またはホスト名は 15 文字より長い名前には設定できません。 ■ Cluster Server (VCS) のクラスタ: NetBackup をインストールする前に、すべての NetBackup ディスクリソースを、Veritas Enterprise Administrator (VEA) で構成しておく必要があります。 ■ クラスタノードのデバイス構成とアップグレード クラスタをアップグレードする場合、ltid およびロボットデーモンは、特定のクラスタノードのデバイス構成を EMM データベースから取得します。EMM データベースでのデバイス構成の格納または取得は、クラスタノード名 (gethostname を使用して表示) によって行われます。クラスタノード名は、デバイス構成の更新時 (ltid によるドライブ状態の更新時など) に使われます。クラスタノード名は、デバイスの接続先を示す場合にのみ使用されま

チェック	要件	詳細
		す。NetBackup の仮想名は、ロボット制御ホストなど、他の目的にも使用されます。 クラスタ要件に関する詳細情報を参照できます。 『Veritas NetBackup マスターサーバーのクラスタ化管理者ガイド』 http://www.veritas.com/docs/DOC5332
	リモート管理コンソールのホスト名	マスターサーバーのインストール中に、リモート管理コンソールホストの名前を入力する必要があります。
	NetBackup 通信	ネットワークがすべてのサーバーおよびクライアントから認識され、相互に通信できるように構成されていることを確認します。 通常は、ping コマンドを実行してサーバーからクライアントにアクセスできるように設定されている場合、NetBackup でも正しく動作します。 ■ NetBackup サービスおよびポート番号は、ネットワーク全体で同じである必要があります。 ■ デフォルトのポート設定を NetBackup サービスとインターネットサービスのポートに使うことを推奨します。ポート番号を変更する場合は、すべてのマスターサーバー、メディアサーバーおよびクライアントに対して同じ値を設定する必要があります。ポートエントリは、次のファイルに格納されています。 %SYSTEMROOT%\system32\drivers\etc\services。デフォルト設定を変更するには、NetBackup のカスタムインストールを行うか、services ファイルを手動で編集する必要があります。
	CIFS マウントされたファイルシステム	CIFS マウントされたディレクトリへの NetBackup のインストールはサポートされていません。 CIFS マウントしたファイルシステムのファイルロックは確実にない場合があります。
	ストレージデバイス	ロボットおよびスタンドアロンテープドライブなどのデバイスが製造元の指示どおりに取り付けられ、Windows ソフトウェアから認識されている必要があります。
	サーバー名	サーバー名の入力を求められたら、適切なホスト名を常に入力してください。IP アドレスを入力しないでください。
	バージョンの混在	使用を計画しているクライアントの最新バージョンと同じかそれ以上のリリースレベルの NetBackup サーバーをインストールしてください。サーバーソフトウェアのバージョンが古い場合、新しいバージョンのクライアントソフトウェアとともに使用すると、問題が発生する可能性があります。 p.14 の「NetBackup のバージョン間の互換性について」を参照してください。

チェック	要件	詳細
	Windows 2008/2008 R2 Server Core、2012/2012 R2 Server Core でのインストール/Windows 2016	NetBackup はこれらのコンピュータにサイレントインストール方式でのみインストールできます。 p.79 の「Windows システムでの NetBackup サーバーのサイレントインストール」を参照してください。
	他のバックアップソフトウェア	現在システムに構成されている他のベンダーのバックアップソフトウェアをすべて削除します。 他のベンダーのバックアップソフトウェアによって、NetBackup のインストールおよび機能に悪影響が及ぼされる場合があります。
	Web サービス	NetBackup 8.0 より、NetBackup マスターサーバーには、重要なバックアップ操作をサポートするための構成済み Tomcat Web サーバーが含まれます。この Web サーバーは、権限が制限されているユーザーアカウント要素の下で動作します。これらのユーザーアカウント要素は、各マスターサーバー（またはクラスタ化されたマスターサーバーの各ノード）で使用できる必要があります。詳細情報を参照できます。 p.169 の「NetBackup マスターサーバー Web サーバーのユーザーとグループの作成」を参照してください。 メモ: ベリタスは、NetBackup Web サービスに使用するユーザーアカウントの詳細を保存することを推奨します。マスターサーバーのリカバリでは、NetBackup カタログのバックアップが作成されたときに使われたものと同じ NetBackup Web サービスのユーザーアカウントとクレデンシャルが必要です。 メモ: セキュアモードで NetBackup PBX を実行する場合は、Web サービスユーザーを PBX の権限を持つユーザーとして追加します。PBX モードの判別と、正しくユーザーを追加する方法について詳しくは、次をご覧ください。 https://www.veritas.com/support/ja_JP/article.000115774
	CA 証明書の指紋	(該当する場合) メディアサーバーとクライアントのみの場合： インストール時に、マスターサーバーの CA 証明書の指紋を把握している必要があります。CA 証明書の指紋と、セキュリティ証明書の生成時のこの指紋の役割について詳しくは、次を参照してください。 https://www.veritas.com/support/en_US/article.000127129
	認証トークン	(該当する場合) メディアサーバーとクライアントのみの場合： 場合によっては、セキュリティ証明書を正常に配備するために、インストーラの実行時に認証トークンが必要です。認証トークンと、セキュリティ証明書の生成時のこのトークンの役割について詳しくは、次を参照してください。 https://www.veritas.com/support/en_US/article.000127129

チェック	要件	詳細
	Veritas Smart Meter の顧客登録キー	NetBackup 8.1.2 以降、Veritas Smart Meter の顧客登録キーを指定する必要があります。 Veritas Smart Meter に関する詳しい情報を参照できます。 p.9 の「 Veritas Smart Meter について 」を参照してください。

p.33 の「[UNIX および Linux のインストールおよびアップグレード要件](#)」を参照してください。

Windows クラスタのインストールとアップグレードの要件

通常のサーバー要件に加えて、NetBackup のクラスタインストールは特別な配慮を必要とします。

次に、Windows システムで NetBackup のクラスタインストールおよびアップグレードを行う場合のガイドラインを記述します。

表 4-2 インストールとアップグレードに関する Windows クラスタの要件

項目	要件
サーバーのオペレーティングシステム	
権限	クラスタインストールを実行するには、クラスタ内のすべてのリモートノードの管理者権限を持っている必要があります。クラスタ内のすべてのノードと各ノードの既存のソフトウェアを記録しておくことをお勧めします。
NetBackup の仮想名と IP アドレス	NetBackup で利用可能な仮想名および IP アドレスを用意します。インストール中に、この情報を入力する必要があります。
ノードのオペレーティングシステム	すべてのクラスタノードで、同じバージョンのオペレーティングシステム、同じ Service Pack レベル、および同じバージョンの NetBackup を使用する必要があります。クラスタ環境では、異なるバージョンのサーバーは実行できません。
メディアサーバーのクラスタのサポートの変更	クラスタ化されたメディアサーバーはサポートされません。
Windows Server Failover Clustering (WSFC)	

項目	要件
Cluster Server (VCS) のクラス タ	■ NetBackup をインストールする前に、すべての NetBackup ディスクリソースを、Veritas Enterprise Administrator (VEA) で構成しておく必要があります。
クラスタノードのデバイス構成と アップグレード	クラスタをアップグレードする場合、ltid およびロボットデーモンは、特定のクラスタノードのデバイス構成を EMM データベースから取得します。 EMM データベースでのデバイス構成の格納または取得は、クラスタノード名 (gethostname を使用して表示) によって行われます。クラスタノード名は、デバイス構成の更新時 (ltid によるドライブ状態の更新時など) に使われます。クラスタノード名は、デバイスの接続先を示す場合にのみ使用されます。 NetBackup の仮想名は、ロボット制御ホストなど、他の目的にも使用されます。

Windows システムでのローカル、リモート、またはクラスタ化されたサーバーインストールの実行

次の手順を使って、Windows コンピュータで **NetBackup** のローカル、リモート、クラスタ化されたインストールを実行します。

NetBackup 8.1.2 サーバーソフトウェアをローカル、リモート、クラスタ化された Windows サーバーにインストールする方法

- 1 システムにログオンします。管理者権限でログオンしてください。
 - ローカルインストールの場合、**NetBackup** をインストールするシステムにログオンします。
 - リモートインストールの場合、**NetBackup** をインストールするホストすべてへのネットワークアクセスを持つシステムにログオンします。
 - クラスタインストールの場合、アクティブノード (共有ディスクが存在するノード) にログオンします。
- 2 イメージが保存されているディレクトリに移動して、`Browser.exe` を実行して **NetBackup** インストールウィザードを起動します。
- 3 ブラウザの初期画面 ([Home]) で、[Installation] をクリックします。
- 4 [Installation] 画面で、[NetBackup Server Software Installation] をクリックします。
- 5 [ようこそ (Welcome)] 画面で内容を確認して [次へ (Next)] をクリックします。
- 6 (該当する場合) 以前にこのホストに **NetBackup 8.1.2** をインストールしている場合、[プログラムのメンテナンス (Program Maintenance)] ダイアログが表示されます。

- [変更 (Modify)]を選択してローカルホストのインストール設定を変更するか、またはローカルホストをリモートホストへのプッシュインストールを実行するためのプラットフォームとして使用します。
- [修復 (Repair)]を選択して、NetBackup 8.1.2 をローカルホストで元の状態にリストアします。
- NetBackup 8.1.2 をローカルホストから削除するには、[削除 (Remove)]を選択します。

7 [使用許諾契約 (License Agreement)]画面で、次の処理をして[次へ (Next)]をクリックします。

[I agree to and accept the terms of the license agreement]にチェックマークを付けます。

ソフトウェアをインストールするにはこの項目を選択する必要があります。

8 [Veritas NetBackup Installation Type]画面で以下の情報を入力します。

Where to install	■ ローカルインストールの場合、[Install to this computer only]を選択します。 ■ リモートインストールの場合、[Ins all to multiple computers on your network]を選択します。 ■ クラスタインストールの場合は、[Install a clustered Master Server]を選択します。 このオプションは、システムが Windows Server Failover Cluster (WSFC) または VCS クラスタ環境用に構成されていることがインストール処理で判断された場合にのみ表示されます。
Typical	デフォルト設定の NetBackup をインストールするには、このオプションを選択します。
Custom	任意の設定の NetBackup をインストールするには、このオプションを選択します。

[次へ (Next)]をクリックします。

9 [NetBackup のライセンスキーとサーバーの種類 (NetBackup License Key and Server Type)]画面で、次の情報を指定します。

License Key

製品購入時に提供された製品のライセンスを入力します。

指定するライセンスによって選択可能なコンポーネントが決まります。たとえば、マスターサーバーのライセンスを入力した場合にのみ、[**NetBackup マスターサーバー (NetBackup Master Server)**]の隣にあるアイコンをクリックできます。

リモートインストールやクラスタインストールの場合:

メモ: ここに入力するライセンスは、他のノードに送信されません。ライセンスによってアドオン製品を使用できるようになります。アドオン製品がすでにインストールされているノードに **NetBackup** をプッシュインストールした場合、ライセンスはアドオン製品に対して機能します。

インストール処理中、ユーザーが、リモートインストールを実行するための適切なクレデンシャルを所有していることを確認するために、次の操作が実行されます。

- インストール先のクラスタシステムを選択すると、クラスタのすべてのノードに対する適切な管理クレデンシャルを所有しているかどうかを確認されます。適切なクレデンシャルを所有していない場合は、そのシステムはリストに追加されません。
- 適切なクレデンシャルを所有している場合は、ライセンスが必要かどうか **NetBackup** によって再度確認されます。必要なライセンスが入力されなかった場合は、そのシステムはリストに追加できません。そのノードにインストールするために、有効なライセンスを入力する必要があります。無効なライセンスを入力すると、この画面は有効なライセンスを入力するまで表示されたままになります。

NetBackup Master Server

マスターサーバーソフトウェアをインストールするには、このアイコンをクリックします。

NetBackup Media Server

ローカルインストールまたはリモートインストールの場合は、このアイコンをクリックしてメディアサーバーソフトウェアをインストールします。

Disaster Recovery Master Server

マスターサーバーのディザスタリカバリを実行するには、このオプションを選択します。ディザスタリカバリの操作には、その他の手順とこのマニュアルで説明されていない情報が必要です。詳細情報を参照できます。

Veritas NetBackup トラブルシューティングガイド

- 10 「顧客登録キー (Customer Registration Key)」画面で、顧客登録キーの場所を入力します。このファイルを Veritas Smart Meter サイトからダウンロードし、適切なマスターサーバーに配置します。Veritas Smart Meter に関する詳しい情報を参照できます。

p.9 の「[Veritas Smart Meter について](#)」を参照してください。

- 11 「NetBackup Web サービス (NetBackup Web Services)」画面で、アカウントの種類とアカウントの詳細を指定します。

どの種類のアカウントを使用する必要がありますか? (What types of accounts should we use?)

[ローカル (Local)]または[ドメイン (Active Directory) (Domain (Active Directory))]を選択します。

Web サーバーを、ローカルホストに存在するユーザーおよびグループアカウントに関連付ける場合は[ローカル (Local)]を選択します。

Web サーバーを、信頼済みの Windows ドメインに存在するユーザーおよびグループアカウントに関連付ける場合は[ドメイン (Active Directory) (Domain (Active Directory))]を選択します。

既存のアカウントの詳細とは何ですか (What are the existing account details)

次に示すように、情報を指定します。

- [ドメイン (Domain)]: アカウントの種類の選択を[ドメイン (Active Directory) (Domain (Active Directory))]にする場合は、ユーザーおよびグループアカウントが属するドメインの名前を指定します。
- [グループ (Group)]: Web サーバーに関連付けるグループアカウントの名前を指定します。
- [ユーザー (User)]: Web サーバーに関連付けるユーザーアカウントの名前を指定します。セキュリティ上の理由により、ホストの管理者権限を持つユーザーアカウントを指定しないでください。
- [パスワード (Password)]: [ユーザー (User)]フィールドでユーザーアカウントのパスワードを指定します。

メモ: インストール後は、NetBackup Web サーバーのユーザーアカウントを変更することはできません。インストール後に Web サーバーのアカウントを再構成することはできないため、このアカウントは削除しないでください。

詳細情報を参照できます。

p.54 の「[Windows および Windows クラスターのインストールおよびアップグレード要件](#)」を参照してください。

- 12 (該当する場合のみ) この手順は[Custom]であるローカルインストールにのみ適用されます。[Typical]インストールの場合は、次の手順へスキップします。

この手順では、[NetBackup インストールフォルダ (NetBackup Installation Folder)]、[NetBackup ポート番号 (NetBackup Port Numbers)]、[NetBackup サービス (NetBackup Services)]を選択して構成する方法について記述します。

■ NetBackup インストールフォルダ

この画面では、NetBackup ファイルがインストールされる場所を選択できます。

宛先フォルダ

デフォルトでは、NetBackup ファイルは次の場所にインストールされます。

C:\Program Files\VERITAS

NetBackup のインストール先のフォルダを変更する方法

- [変更 (Change)]をクリックします。
- 優先の場所を参照し、新規または既存のフォルダを指定します。
- [次へ (Next)]をクリックします。

インストールフォルダの制限事項についての追加情報を参照できます。

p.10 の「[NetBackup インストールディレクトリの制限事項](#)」を参照してください。

[次へ (Next)]をクリックします。

■ [NetBackup ポート番号 (NetBackup Port Numbers)]

構成に必要な場合は、この画面からポート番号を変更できます。

NetBackup と他社製品が同じポートを共有しようとして競合が発生した場合、ポート番号の変更が必要になることがあります。また、ファイアウォールでセキュリティの問題を引き起こすポートの競合が発生している場合にも変更できます。ポート番号を変更するには、置き換えるポート番号を選択し、新しい番号を入力します。

[次へ (Next)]をクリックします。

■ NetBackup サービス

この画面で、次の NetBackup サービスの起動アカウントおよび起動の種類を指定します。

ログオン

[ローカル システム アカウント (Local System account)] または [アカウント(account)] を指定します。

デフォルトでは、[ローカル システム アカウント (Local System account)] が選択されるので、NetBackup は組み込みシステムアカウントを使います。このオプションを選択すると、その下のフィールドは無効になります。

異なるアカウントを指定する方法

- [アカウント (This account)] を選択します。
- 次のフィールドにアカウント情報を入力します。
 - ドメイン (Domain)
 - ユーザー名 (Username)
 - パスワード (Password)

スタートアップの種類

このオプションは、NetBackup ホストを再起動する必要がある場合、NetBackup サービスが自動的に開始するかどうかを判断します。デフォルトは [Automatic] です。

再起動後、NetBackup サービスを手動で開始するには、[Manual] を選択します。

[インストール後にジョブに関連する NetBackup サービスを起動する (Start job-related NetBackup services following installation)]

デフォルトでは、インストールが完了した後、ジョブに関連するサービスが自動的に開始するように設定されています。

ジョブに関連するサービスが自動的に開始しないようにするには、ボックスをクリックしてチェックマークを外します。

[安全な中止 (Safe Abort)] オプション

このオプションは、インストールの一部として再起動が必要な場合、どのようにインストールを続行するかを判断します。

このオプションを選択した場合、インストール処理で再起動が必要であると判断されると、インストールは停止します。システムは元の状態にロールバックされます。

このオプションを選択しない場合、インストール処理で再起動が必要であると判断されても、インストールは続行します。

[次へ (Next)] をクリックします。

13 [NetBackup System Names]画面で、次の情報を入力します。

マスターサーバー名 (Master Server Name)	(該当する場合のみ) ローカルマスターサーバーインストールの場合は、ローカルコンピュータの名前を入力します。クラスタインストールの場合は、クラスタの仮想サーバー名を入力します。 メディアサーバーのインストールの場合は、この名前を、そのメディアサーバーが構成されるマスターサーバー名に変更する必要があります。
追加サーバー (Additional Servers)	このサーバーと通信する追加の NetBackup マスターサーバーおよびメディアサーバーの名前を入力します。後で NetBackup をインストールするコンピュータの名前を含めます。 複数の名前を入力するには、それぞれの名前をカンマで区切るか、またはそれぞれの名前の後で Enter キーを押します。
メディアサーバー名 (Media server name)	このフィールドはローカルの NetBackup Enterprise メディアサーバーのインストールの場合にのみ表示されます。 メディアサーバーソフトウェアをインストールする場合、このフィールドはデフォルトでローカルサーバー名になります。
OpsCenter Server Name (省略可能)	OpsCenter は、NetBackup 用の Web ベースの管理ツールです。 OpsCenter サーバーを使用しているか、またはインストールする場合は、そのサーバーのサーバー名か IP アドレスをここに入力します。 クラスタサーバーには、仮想名を使わないでください。その代わり、クラスタノードの実際のホスト名を使います。

[次へ (Next)]をクリックします。

- 14** 続行を決定すると、インストーラは認証局の証明書の詳細をフェッチします。オプションとして、[キャンセル (Cancel)]をクリックするとこの処理を中断できます。[キャンセル (Cancel)]をクリックした場合は、インストールを再実行するか、必要なセキュリティコンポーネントを使用せずにインストールを続行する必要があります。必要なセキュリティコンポーネントが存在しない場合はバックアップとリストアが失敗します。
- 15** 認証局の指紋の入力を求められたら入力します。

指紋情報を承認すると、インストーラは認証局の証明書の詳細を保存します。オプションとして、[キャンセル (Cancel)]をクリックするとこの処理を中断できます。[キャンセル (Cancel)]をクリックした場合は、インストールを再実行するか、必要なセキュリティコンポーネントを使用せずにインストールを続行する必要があります。必要なセキュリティコンポーネントが存在しない場合はバックアップとリストアが失敗します。

- 16** インストーラは認証局の証明書の保存後にホスト証明書をフェッチします。オプションとして、[キャンセル (Cancel)] をクリックするとこの処理を中断できます。[キャンセル (Cancel)] をクリックした場合は、インストールを再実行するか、必要なセキュリティコンポーネントを使用せずにインストールを続行する必要があります。必要なセキュリティコンポーネントが存在しない場合はバックアップとリストアが失敗します。

- 17** (該当する場合) [セキュリティトークン (Security Token)] 画面でプロンプトが表示された場合は、セキュリティトークンを入力します。

セキュリティトークンが発行された場合は、以下に入力してください (If you were issued a security token, enter it below)

トークンの形式は大文字で 16 文字です。また、[セキュリティトークンを指定せずに続行 (Proceed without providing a security token)] オプションを選択することもできます。このオプションを選択すると、次の警告が表示されます。

一部の環境では、セキュリティトークンの指定の失敗によりバックアップが失敗する可能性があります。質問がある場合、バックアップ管理者に問い合わせてください (In some environments, failure to provide a security token can result in failed backups. Contact your backup administrator if you have questions)

オプションとして、セキュリティトークンを入力した後に[キャンセル (Cancel)] をクリックするとホスト証明書の配備を中断できます。[キャンセル (Cancel)] をクリックした場合は、インストールを再実行するか、必要なセキュリティコンポーネントを使用せずにインストールを続行する必要があります。必要なセキュリティコンポーネントが存在しない場合はバックアップとリストアが失敗します。

- 18** (該当する場合のみ) リモートインストールのみ

[Veritas NetBackup Remote Hosts] 画面で、NetBackup をインストールするホストを指定します。

- Windows Destination Systems

[Windows Destination Computers] を右クリックし、ドロップダウンメニューから選択するか、または次の方式を使ってください。

Browse

NetBackup をインストールしたいホストのネットワークを検索するためにここをクリックします。

- [Available Systems] ダイアログボックスで追加するコンピュータを選択し、[次へ (Next)] をクリックします。
- [Remote Computer Login Credentials] ダイアログボックスで、リモートコンピュータのインストールを実行するために使われるアカウントの [User Name] と [Password] を入力します。
- 複数のリモートコンピュータにインストールする場合は、[Remember User Name and Password] の隣にあるボックスをクリックします。このオプションを選択すると、各リモートコンピュータにこの情報を入力する必要がなくなります。
- [OK] をクリックします。
- [Remote Destination Folder] ダイアログボックスで、NetBackup がインストールされる [Destination Folder] を確認または変更します。
デフォルトでは、この場所は C:\Program Files\Veritas になります。
複数のリモートコンピュータにインストールする場合、同じ場所を使うには、[Use this folder for subsequent systems] の隣にあるボックスをクリックします。このオプションを選択すると、各リモートコンピュータにこの場所を入力する必要がなくなります。

Import

ホスト名のリストを含んでいるテキストファイルをインポートするためにここをクリックします。テキストファイルを作成する場合、ホスト名は次の形式で定義する必要があります。

Domain\ComputerName

追加 (Add)

ホストを手動で追加するためにここをクリックします。

- [Manual Remote Computer Selection] ダイアログボックスが表示されたら、[Domain] と [Computer Name] を入力し、[OK] をクリックします。
- [Remote Computer Login Credentials] ダイアログボックスで、リモートコンピュータのインストールを実行するために使われるアカウントの [User Name] と [Password] を入力します。
複数のリモートコンピュータに追加およびインストールする場合は、[Remember User Name and Password] の隣にあるボックスをクリックします。このオプションを選択すると、各リモートコンピュータにこの情報を入力する必要がなくなります。
- [OK] をクリックします。
- [Remote Destination Folder] ダイアログボックスで、NetBackup がインストールされる [Destination Folder] を確認または変更します。
デフォルトでは、この場所は C:\Program Files\Veritas\ になります。
複数のリモートコンピュータにインストールする場合、同じ場所を使うには、[Use this folder for subsequent systems] の隣にあるボックスをクリックします。このオプションを選択すると、各リモートコンピュータにこの場所を入力する必要がなくなります。
- [OK] をクリックします。

削除 (Remove)

[Destination Systems] リストからホストを削除するには、ホストを選択し、ここをクリックします。

変更 (Change)

選択したリモートホストの NetBackup ファイルのインストールの宛先を変更するためにここをクリックします。

- [次へ (Next)] をクリックします。

19 (該当する場合のみ) クラスタインストールのみ

[NetBackup のリモートホスト (NetBackup Remote Hosts)] 画面で、コンピュータに行うインストールのリモートシステム情報を指定します。

- 初期画面で、[Browse] を右クリックします。
- [Available Systems] ダイアログボックスで、追加するコンピュータを選択します。
複数のコンピュータを選択する場合は、Ctrl キーを押しながらクリックします。
[次へ (Next)] をクリックします。

- [Remote Computer Login Credentials] ダイアログボックスで、リモートシステム上の **NetBackup** で使用されるユーザー名、パスワードおよびドメインを入力します。

さらにリモートコンピュータを追加する場合は、[Remember User Name and Password] の隣にあるチェックボックスをクリックします。

クレデンシャルを指定したら、クラスタノードを選択し、[Windows Destination Systems] リストに追加します。**NetBackup** のリモートインストールは、これらのノードで実行されます。インストール先のシステムを選択する場合、ローカルホストも忘れずに選択してください。

NetBackup では、システムを選択するたびに、システムおよびライセンスの確認が実行されます。たとえば、次のように、サーバーインストール先のリモートシステムが、選択した種類と一致するかどうかを確認されます。

- **NetBackup** がインストールされていない場合 リモートシステムは確認済みと見なされます。
- **NetBackup** がインストールされている場合 そのシステム上のインストールの種類と要求しているインストールの種類が比較されます。
- 無効な組み合わせの場合 問題があることが通知され、そのシステムは選択できません。無効な組み合わせの例として、すでにマスターサーバーになっているリモートシステムにリモート管理コンソールをインストールしようとしている場合があります。
- リモートシステムがサポートされていないプラットフォームまたはレベルの場合 問題があることが通知され、そのシステムは選択できません。

また、インストール処理では、リモートシステムに対して適切な管理クレデンシャルが所有されていることも確認されます。管理クレデンシャルを所有していない場合は、[Enter Network Password] 画面が表示され、管理者のユーザー名およびパスワードの入力を求められます。

[OK] をクリックし、インストール先のシステムの選択を続けます。

選択するノードごとに、この処理を繰り返します。ユーザー名およびパスワードは保持することができます。その場合、ユーザー名またはパスワードが無効な場合にのみ、そのユーザー名またはパスワードが求められるようになります。

次に、クラスタ化された環境でのプッシュインストールに関連する注意事項を示します。

- **NetBackup** は、複数のノードにインストールできます。ただし、クラスタのノード数に対する制限は、**NetBackup** ではなくクラスタサービスによって設定されます。

- 言語パッケージおよびその他の **NetBackup** のアドオン製品は、プッシュ方式でインストールすることができません。アドオン製品は、クラスタグループのノードごとにインストールする必要があります。これらの製品のインストール方法については、各製品のマニュアルを参照してください。
- インストールの開始時に入力したライセンスキーだけが、他のノードに送信されます。ライセンスキーによってアドオン製品を使用できるようになります。アドオン製品がすでにインストールされているノードに **NetBackup** をプッシュインストールした場合、キーはその製品に対して機能します。

[次へ (Next)]をクリックします。

20 (該当する場合のみ) クラスタインストールのみ

[Cluster Settings]画面で、仮想ネットワーク情報および物理ネットワーク情報を指定します。

メモ: インストール中に追加できる仮想 IP アドレスは 1 つだけです。仮想名が複数の IP アドレスに解決できる場合は、インストール後に `bpclusterutil -addIP` オプションを使用して複数の IP アドレスを追加できます。`bpclusterutil` コマンドについての詳しい情報を参照できます。

『NetBackup コマンドリファレンスガイド』

<http://www.veritas.com/docs/DOC5332>

新規インストールの場合、入力する次の構成設定がすべてのノードに適用されます。

Create a new Cluster Group	新しいクラスタをインストールする場合は、このオプションを選択します。
IPv4 クラスタ	デフォルトのクラスタ設定は IPv4 です。 次のアドレスを入力します。 ■ Virtual IPv4 Address 仮想サーバー名の解決結果となるべき IP アドレス。 新しいクラスタインストールの場合は、アドレスを手動で入力してください。 ■ IPv4 Subnet Mask サブネットワークを識別し、ローカルエリアネットワークで IP アドレスを共有できるようにするために使用されます。この数値は、クラスタの仮想 IP アドレスに直接関連付けられています。

IPv6 クラスタ	IPv6 クラスタを有効にするためには、このオプションを選択します。 次の IP アドレスを入力します。 ■ Virtual IPv6 Address IPv6 アドレスは CIDR 形式で入力する必要があります。
NB Cluster Group Name	NetBackup のサービスグループまたはリソースグループを識別するための名前。リソースグループ内のリソースは、依存関係を持ちます。
仮想ホスト名	クラスタで認識される NetBackup の名前。 クライアントソフトウェアをインストールするとき、このホスト名は [NetBackup System Names] 画面の [Additional Servers] フィールドに追加する必要があります。 この名前は、クライアントノードへの通信時にサーバーによって使用されます。
Path to Shared Data	クラスタ内のいずれかの共有ディスク上にある、NetBackup の構成情報が格納されるディレクトリ。ディスク (またはドライブ) を示す文字がプルダウンリストに表示されない場合は、その文字を入力します。
パブリックネットワーク	NetBackup のクラスタ環境では、クラスタのノードに割り当てられているパブリックネットワークを選択します。 警告: このクラスタに割り当てられているプライベートネットワークは選択しないでください。

Cluster Configuration

すべてのパラメータを設定した後で、このアイコンをクリックして **NetBackup** で使えるようにクラスタを設定します。[次へ (Next)] アイコンはクラスタを正常に構成するまで利用できません。

テキストボックスは構成について次の情報を提供します。

- 既存のクラスタまたは **NetBackup** クラスタグループを識別します。
- 正常に構成されたことを示します。
- 構成中に起きた問題かエラー (構成エラー) を識別します。

メモ: 新しいインストールのクラスタ構成が正しく行われた後に [キャンセル (Cancel)] をクリックすると、ポップアップメッセージが表示されます。このメッセージは取り消しを続行するかどうかを尋ねます。インストールを取り消し、新しいクラスタグループを削除するには、[Yes] をクリックします。インストールを続行し、新しいクラスタグループを保持するには、[No] をクリックし、次に [次へ (Next)] をクリックします。

クラスタ構成が失敗した場合に問題を解決する方法については、『**NetBackup** マスターサーバーのクラスタ化管理者ガイド』を参照してください。

https://www.veritas.com/support/ja_JP/article.DOC5332

クラスタ構成が正常に行われたことを示すメッセージが表示されたら、[次へ (Next)] をクリックします。

21 [Ready to Install the Program] 画面で、前述の手順での選択を示す [Installation Summary] を確認します。

メモ: あらゆる警告メッセージの概略画面を確認することをお勧めします。インストールを続行する前に問題を解決すれば、インストールおよびアップグレードの問題を防ぐことができます。

次のオプションから 1 つ選択します。

- インストールを開始するには、[Install] をクリックします。
- 前の画面を表示して変更するには [Back] をクリックし、その後、この画面に戻って [Install] をクリックします。
- インストールをキャンセルするには、[Cancel] をクリックします。

[Install] をクリックすると、インストール処理が開始され、インストールの進捗状況を示す画面が表示されます。この処理には数分かかる場合があります。

リモートインストールやクラスタインストールの場合、最大 5 つのインストールが同時に起きます。1 つのインストールが完了すると別のインストールが開始し、最大 5 つのインストールが進行中となります。

22 [Installation Complete]画面で、次のオプションから選択します。

View installation log file

インストールログファイルは、詳しいインストール情報を提供し、エラーが起きたかどうかを表示します。

次の場所にあるインストールログを確認します。

```
%ALLUSERSPROFILE%\Veritas\
NetBackup\InstallLogs\
```

メモ: 複数のコンピュータにリモートインストールまたはクラスタインストールを実行する場合、このオプションでは、ローカルコンピュータのログのみを表示できます。インストールのために選択した各コンピュータにそれぞれのインストールログファイルが含まれています。リモートコンピュータのログファイルを表示するためには、**Windows** エクスプローラのウィンドウを開き、`%COMPUTERNAME%` と入力します。

インストールログを検索し、次のエラーが表示されているかどうかを確認します。

- Return Value 3 を含む文字列。
- 次のように色分けされている重大なログメッセージ:
黄色 = 警告。
赤 = エラー。

Finish

インストールを完了するために次のいずれかを選択します。

- すべてのサーバーにソフトウェアをインストールした場合は、**[Launch NetBackup Administration Console now]**の隣にあるボックスをクリックして、**[Finish]**をクリックします。
NetBackup 管理コンソールを使用して構成ウィザードを起動すると、**NetBackup** 環境を構成できます。
- インストールするサーバーソフトウェアが他にも存在する場合は、**[Finish]**をクリックします。
次のコンピュータに移動して、必要なサーバーソフトウェアをインストールできます。

- 23** (該当する場合のみ) クラスタ化された NetBackup マスターサーバーで、非アクティブノードに認証局の証明書とホストの証明書をコピーする必要があります。詳細情報を参照できます。

p.166 の「[クラスタ化されたマスターサーバーの非アクティブノードで証明書を生成する](#)」を参照してください。

マスターサーバーのディザスタリカバリを実行した場合は、最初にトークンを生成し、非アクティブノードのそれぞれにトークンをコピーする必要があります。ディザスタリカバリの処理方法について詳しくは、次を参照してください。

Veritas NetBackup トラブルシューティングガイド

- 24** (該当する場合) NetBackup 環境でクラウドストレージを使用する場合は、クラウド構成ファイルを更新する必要があります。詳細情報を参照できます。

p.144 の「[インストール後すぐにマスターサーバー上のクラウド構成ファイルを更新するかまたは NetBackup 8.1.2 にアップグレードする](#)」を参照してください。

- 25** 他のすべてのサーバーでこの手順のステップを繰り返します。

- 26** すべてのサーバーソフトウェアをインストールすると、クライアントソフトウェアをインストールできるようになります。

p.89 の「[NetBackup クライアントのインストールについて](#)」を参照してください。

p.77 の「[NetBackup クラスタ環境のインストール後の作業](#)」を参照してください。

p.78 の「[Windows クラスタのインストールまたはアップグレードの確認](#)」を参照してください。

NetBackup クラスタ環境のインストール後の作業

NetBackup サーバーソフトウェアがクラスタにインストールされた後、実行が必要となる場合もある処理に注意します。

証明書の取得

非アクティブノードごとに認証局の証明書とホスト証明書を取得する必要があります。詳細情報を参照できます。

p.166 の「[クラスタ化されたマスターサーバーの非アクティブノードで証明書を生成する](#)」を参照してください。

再起動

インストールの完了後、各クラスタノードの再起動が必要になる場合があります。

WSFC と VCS クラスタ

通常の状態では、クラスタ環境での **NetBackup** のインストールの最終手順の 1 つとしてクラスタが構成されます。この手順が完了していないか、または正常に完了しなかった場合は、アクティブノードから `bpclusterutil` コマンドを使用して、この手順を実行できます。

`bpclusterutil` を実行する方法について詳しくは、『**NetBackup** コマンドリファレンスガイド』を参照してください。

<http://www.veritas.com/docs/DOC5332>

WSFC クラスタ

オフラインにした **NetBackup** リソースがある場合は、自動的にオンラインに戻ります。

p.78 の「[Windows クラスタのインストールまたはアップグレードの確認](#)」を参照してください。

Windows クラスタのインストールまたはアップグレードの確認

クラスタアドミニストレータコンソールを使用して、インストールまたはアップグレードを確認し、現在のシステム構造を表示することができます。

クラスタ管理コンソールを使って、**MSCS** クラスタのインストールまたはアップグレードが正常に行われたことを確認する方法

- 1 クラスタのインストール中に、クラスタアドミニストレータコンソールを開き、現在の構造を確認できます。
- 2 インストールおよび構成処理が完了すると、コンソールには新しいクラスタグループ構成が表示されます。

クラスタアドミニストレータコンソールを使用して、**VCS** クラスタのインストールまたはアップグレードが正常に行われたことを確認する方法

- 1 クラスタのインストール中に、クラスタアドミニストレータコンソールを開き、現在の構造を確認できます。
- 2 インストールおよび構成処理が完了すると、コンソールには新しいクラスタグループ構成が表示されます。

p.135 の「[NetBackup Server の構成について](#)」を参照してください。

Windows システムでの NetBackup サーバーのサイレントインストール

サイレントインストールを実行すると、リモートインストールを実行する場合と同様に、対話形式での入力が必要になります。

サイレントインストールを実行するには、最初に該当する NetBackup スクリプトを修正します。スクリプトの修正の後で、そのスクリプトを実行してサイレントインストールを開始できます。

メモ: Windows Server 2008 Server Core システムの場合、この手順でのみ NetBackup をインストールできます。

NetBackup サーバーソフトウェアをサイレントインストールする方法

- 1 NetBackup をインストールするシステムに管理者としてログオンします。
- 2 ESD イメージ (ダウンロード済みファイル) が存在する場所に移動します。
- 3 Windows エクスプローラを開き、X86 または X64 ディレクトリの内容を、ハードドライブの一時ディレクトリにコピーします。インストールしたいプラットフォームの形式と関連付けられたディレクトリを選択します。
- 4 ソースファイルが読み取り専用であるので、コピーされたファイルの権限を変更して、インストールまたは更新できるようにします。
- 5 コピーされたファイルが存在する一時ディレクトリで、変更する適切なスクリプトを選択します。
 - メディアサーバーのインストール時: `silentmedia.cmd`
 - NetBackup リモート管理コンソールのインストール時: `silentadmin.cmd`
- 6 次の行をインストールの必要に応じて編集します。
 - `SET ADDITIONALSERVERS=media1,media2,media3`
このホストと通信する追加の NetBackup マスターサーバーおよびメディアサーバーの名前を入力します。後で NetBackup をインストールするサーバーの名前を含めます。
他のサーバーがこのホストと通信しない場合は、スクリプトからこの行を削除します。
 - `SET ABORT_REBOOT_INSTALL=num`
この行では、再起動が必要になった場合のインストールの続行方法を指定できます。次の設定から選択します。

0 (ゼロ、デフォルト) デフォルトでは、再起動が必要であると判断された場合でもサイレントインストールは中止されません。この設定を 0 のままにした場合、次のタスクの 1 つを選択します。

- インストール完了後、インストールログを調べて再起動が必要かどうかを確認します。
文字列 **in use** がログ内に表示されれば、システムを手動で再起動する必要があります。
- インストール完了後、自動再起動を強制します。
自動再起動を強制するには、スクリプトを実行する前に、サイレントインストールのコマンドスクリプト (`silent*.cmd`) から次のオプションを削除します。

```
REBOOT="ReallySuppress"
```

警告: 強制再起動はユーザーに警告なしで起きます。インストールは取り消されず、システムが元の状態にロールバックされることもあります。

1 再起動が必要であると判断されたらインストールを中止する場合にこの設定を選択します。

再起動が必要な場合、この設定によってインストールが取り消されて、システムが元の状態にロールバックされます。

- `SET CA_CERTIFICATE_FINGERPRINT=fingerprint`
インストール時に、マスターサーバーの CA 証明書の指紋を把握している必要があります。CA 証明書の指紋と、セキュリティ証明書の生成時のこの指紋の役割について詳しくは、次を参照してください。

https://www.veritas.com/support/en_US/article.000127129

- `SET AUTHORIZATION_TOKEN=token`
場合によっては、セキュリティ証明書を正常に配備するために、インストーラの実行時に認証トークンが必要です。認証トークンと、セキュリティ証明書の生成時のこのトークンの役割について詳しくは、次を参照してください。

https://www.veritas.com/support/en_US/article.000127129

注意: 認証トークンをテキスト形式で指定すると、セキュリティ上のリスクが生じるため、`silentmedia.cmd` ファイルへのアクセスを読み取りアクセスに制限します。NetBackup 管理者とシステム管理者のみに読み取りアクセス権を付与します。正常にインストールが完了したら、`silentmedia.cmd` ファイルを削除します。

- `SET SMART_METER_FILE_PATH=path`

Veritas Smart Meter の顧客登録キーのパスを指定する必要があります。詳細情報を参照できます。p.9 の「[Veritas Smart Meter について](#)」を参照してください。

- 7 スクリプトを保存して実行します。
- 8 次の場所にあるインストールログを確認します。

`%ALLUSERSPROFILE%\Veritas\NetBackup\InstallLogs\`

インストールログを検索し、次のエラーが表示されているかどうかを確認します。

- Return Value 3 を含む文字列。
- 重要なログメッセージは次のように色分けされます。
黄色 = 警告。
赤 = エラー。

すべてのサーバーソフトウェアをインストールすると、クライアントソフトウェアをインストールできるようになります。

p.89 の「[NetBackup クライアントのインストールについて](#)」を参照してください。

管理インターフェースについて

この章では以下の項目について説明しています。

- [NetBackup Web ユーザーインターフェースについて](#)
- [NetBackup 管理コンソールについて](#)
- [NetBackup 管理コンソールのインストール](#)
- [Windows での複数バージョンの NetBackup 管理コンソールのインストール](#)
- [Windows 上の旧バージョンの NetBackup 管理コンソールの削除](#)
- [NetBackup のリモート管理コンソールについて](#)
- [NetBackup リモート管理コンソールのインストール](#)

NetBackup Web ユーザーインターフェースについて

バージョン 8.1.2 で、NetBackup と一緒に使用する新しい Web ユーザーインターフェースが導入されました。新しいインターフェースは、使いやすさと機能が向上するように設計されています。現時点で、NetBackup 管理コンソールの一部の機能は、新しいインターフェースで利用可能になっていません。

NetBackup は、新しいインターフェースの通信を暗号化するために、トランスポート層セキュリティ (TLS) プロトコルを使用します。NetBackup Web サーバーで TLS を有効にするには、NetBackup ホストを識別する TLS 証明書が必要です。NetBackup は、クライアントとホストの検証に自己署名証明書を使用します。自己署名証明書は、Web ブラウザと NetBackup Web サーバー間の TLS 通信を有効にするため、インストール時に自動的に生成されます。NetBackup Web サービスをサポートするために、サードパーティの証明書を作成して実装して、自己署名証明書の代わりに使用できます。証明書は

TLS 暗号化と認証で使用されます。詳しくは、『NetBackup Web UI セキュリティ管理者ガイド』を参照してください。

NetBackup Web UI からの NetBackup マスターサーバーへの初回サインイン

NetBackup のインストール後に、root ユーザーまたは管理者が NetBackup Web UI に Web ブラウザからサインインして、ユーザー向けに RBAC アクセスルールを作成する必要があります。(拡張監査ユーザーも管理者アクセスを持ちます。)アクセスルールは、組織のユーザーの役割に基づいて、Web UI を通じて NetBackup 環境にアクセスするためのアクセス権をユーザーに付与します。「サポートと追加の構成」も参照してください。

アクセスルールの作成について詳しくは、『NetBackup Web UI セキュリティ管理者ガイド』を参照してください。

NetBackup Web UI を使用して、NetBackup マスターサーバーにサインインするには

- 1 Web ブラウザを開き、次の URL に移動します。

`https://masterserver/webui/login`

masterserver は、サインインする NetBackup マスターサーバーのホスト名または IP アドレスです。

- 2 root または管理者のクレデンシャルを入力して、[サインイン (Sign in)] をクリックします。

ユーザーの種類	使用する形式	例
ローカルユーザー	<i>username</i>	root
ドメインユーザー	<i>DOMAIN\username</i>	WINDOWS\Administrator

- 3 左側で、[セキュリティ (Security)]、[RBAC] の順に選択します。
- 4 次のいずれかの方法で、NetBackup Web UI へのアクセス権をユーザーに付与できます。
 - NetBackup へのアクセスを必要とするすべてのユーザーにアクセスルールを作成します。
 - 別のユーザーにアクセスルールを作成するタスクを委任します。
そのユーザー用に、セキュリティ管理者の役割を使用してアクセスルールを作成します。このユーザーは、NetBackup Web UI へのアクセスを必要とする、すべてのユーザー向けにルールを作成できます。

NetBackup セキュリティ管理者として 1 人以上のユーザーに委任した後は、Web UI には root または管理者アクセスは必要ありません。

サポートと追加の構成

- Web UI でサポートされるブラウザについて詳しくは、[NetBackup ソフトウェア互換性リスト](#)を参照してください。
- ポート 443 がブロックされているか使用中の場合、[カスタムポートを構成して使用](#)できます。
- サードパーティの 証明書を使用する場合は、Web サーバー向けに[サードパーティの証明書を構成する](#)ための手順を参照してください。
- Web UI にアクセスするための[その他のヒント](#)を参照してください。

NetBackup Web UI からのサインアウト

NetBackup は、24 時間 (ユーザーセッションで許可される最大時間) 後に Web UI からの自動サインアウトを強制的に実行します。その時間が経過すると、NetBackup は再びサインインを求めます。

NetBackup Web UI からサインアウトするには

- ◆ 右上で、プロフィールアイコン、[サインアウト (Sign out)]の順にクリックします。

NetBackup 管理コンソールについて

NetBackup 管理コンソールは 1 台以上の UNIX 版または Windows 版の NetBackup サーバーの管理に使えます。このコンソールは、すべての標準の NetBackup サーバーインターフェースを提供します。また、バックアップポリシーの作成、ボリュームの管理、状態の表示、テープドライブの監視などの操作に使用されます。

NetBackup サーバーパッケージをインストールまたはアップグレードすると、NetBackup 管理コンソールがインストールされます。

NetBackup 管理コンソールのインストール

NetBackup 管理コンソールを個別にインストールする必要はありません。NetBackup には、すべてのサポート対象バージョンの管理コンソールが含まれています。NetBackup のサポート対象バージョンについて詳しくは、次を参照してください。

<https://sort.veritas.com/eosl>

メモ: NetBackup のサーバーソフトウェアをインストールまたはアップグレードした後に、ホストにあるリモート管理コンソール (Windows と Java) の古いバージョンをアンインストールすることをベリタスがお勧めします。ネイティブの Windows 版 NetBackup 管理コンソールがある場合は、NetBackup サーバーソフトウェアをインストールまたはアップグレードするときに自動的にその NetBackup 管理コンソールがアンインストールされます。

NetBackup 環境には、複数バージョンの NetBackup をインストールした複数のサーバーが含まれることがあります。複数バージョンの NetBackup 管理コンソールをインストールまたは削除できます。詳細情報を参照できます。

p.85 の「Windows での複数バージョンの NetBackup 管理コンソールのインストール」を参照してください。

p.86 の「Windows 上の旧バージョンの NetBackup 管理コンソールの削除」を参照してください。

Windows での複数バージョンの NetBackup 管理コンソールのインストール

バージョンが混在する環境で複数バージョンの NetBackup 管理コンソールをインストールする場合は、次の制限とガイドラインを確認してください。

更新	更新 (またはパッチを適用) できるのは、NetBackup 管理コンソールの最新バージョンのみです。
auth.conf ファイル	NetBackup-Java 機能認可構成ファイルの auth.conf は、常に、install_path¥java に存在する必要があります。たとえば、C:¥Program Files¥Veritas¥java に存在する必要があります。このファイルは、インストールされているコンソールのバージョン数やインストール先のディレクトリに関係なく、この場所に存在している必要があります。 このファイルは、この Windows ホストでの NetBackup の管理にのみ使用され、存在しない場合はデフォルト設定が使用されます。デフォルト設定について詳しくは、『NetBackup 管理者ガイド Vol. 1』の「NetBackup ユーザーの認可」を参照してください。 http://www.veritas.com/docs/DOC5332
各バージョンのコンソールの場所	各バージョンのコンソールを異なるフォルダにインストールする必要があります。

旧バージョンの NetBackup-Java 管理コンソールをインストールする方法

- 1 インストールする NetBackup-Java 管理コンソールを含む適切なバージョンの NetBackup Windows インストールメディアを挿入します。
- 2 NetBackup 7.0 と 7.1 の場合、[Installation]を選択して[Java Windows Administration Console Installation]をクリックします。

- 異なるバージョンの Java コンソールがすでにインストールされている場合、以前のインストールの上書きを回避するため、新しいフォルダを指定します。

たとえば、バージョン 6.5 の Java コンソールの場合は、C:\¥Program Files¥Veritas¥nbjava65 と指定します。

- インストールを完了するには、[Finish]をクリックします。

p.86 の「Windows 上の旧バージョンの NetBackup 管理コンソールの削除」を参照してください。

p.84 の「NetBackup 管理コンソールのインストール」を参照してください。

Windows 上の旧バージョンの NetBackup 管理コンソールの削除

場合によっては、[プログラムの追加と削除]機能の使用によって旧バージョンの NetBackup 管理コンソールを削除できます。削除したいバージョンがプログラムのリストに表示されればこの方式を使うことができます。

削除したいバージョンがプログラムのリストに表示されなければ、手動でそれを削除する必要があります。次の手順を実行します。

旧バージョンの NetBackup 管理コンソールを手動で削除する方法

- 旧バージョンの NetBackup 管理コンソールをインストールしたフォルダを削除します。
- [スタート]>[プログラム]>[Veritas NetBackup]メニューから、該当するメニュー項目を削除します。
- 関連するデスクトップのショートカットを削除します。

NetBackup のリモート管理コンソールについて

NetBackup リモート管理コンソールは、別のコンピュータからの NetBackup サーバーの管理に使用できる、インターフェースのみのバージョンの NetBackup です。NetBackup リモート管理コンソールを実行するコンピュータは NetBackup ソフトウェアを必要としません。

次に、NetBackup リモート管理コンソールの操作の概要を示します。

- このコンソールを使用すると、ローカルの NetBackup サーバー上での NetBackup 管理コンソールとまったく同様に、すべての NetBackup の操作を実行できます。バックアップポリシーの作成、ボリュームの管理、状態の表示、テープドライブの監視、およびその他の操作を実行できます。
- コンソールには、ローカルホスト名ではなく、管理対象のサーバー名が表示されます。

- コンソールでは、他の NetBackup サーバーの管理のみが可能です。マスターサーバーまたはメディアサーバーとしては機能できません。

NetBackup リモート管理コンソールのインストール

この手順では、NetBackup 以外のコンピュータに NetBackup のリモート管理コンソールをインストールする方法を詳細に示しています。

NetBackup リモート管理コンソールをインストールする方法

- 1 ダウンロード済みのファイルが存在する場所に移動して、Browser.exe を実行します。

メモ: NetBackup サーバーソフトウェアをすでにインストールしているコンピュータには NetBackup のリモート管理コンソールをインストールできません。

- 2 初期画面で、[Installation]を選択します。
- 3 [インストール (Installation)]画面で、[NetBackup 管理コンソールのインストール (x64 のみ) (NetBackup Administration Console Installation (x64 only))]をクリックします。
- 4 [ようこそ (Welcome)]画面で内容を確認して[次へ (Next)]をクリックします。
- 5 [License Agreement]画面で、使用許諾契約に同意して[Next]をクリックします。
- 6 [NetBackup のインストール形式 (NetBackup Installation Type)]画面で、[このコンピュータのみにインストール (Install to this computer only)]を選択して[標準インストール (Typical Installation)]をクリックし、[次へ (Next)]をクリックします。
コンソールの以前のバージョンがすでにあれば、次のオプションが使えます。
 - インストールをキャンセルし、コンソールの以前のバージョンを削除します。次に、新しいコンソールのインストールを再実行します。
 - 新しいバージョンのコンソールをインストールする代替の場所を指定します。
- 7 [Ready to Install the Program]画面で、[Installation Summary]を確認して、[Install]をクリックします。
- 8 [インストールを完了する (Installation Complete)]画面で、[完了 (Finish)]をクリックします。
- 9 コンソールを開くには、スタートメニューで[プログラム]、[Veritas NetBackup]、[NetBackup バージョン管理コンソール]の順に選択します。

メモ: NetBackup には、すべてのサポート対象バージョンの管理コンソールが含まれています。NetBackup のサポート対象バージョンについて詳しくは、次を参照してください。

<https://sort.veritas.com/eosl>

p.86 の「[NetBackup のリモート管理コンソールについて](#)」を参照してください。

NetBackup クライアントソフトウェアのインストール

この章では以下の項目について説明しています。

- [NetBackup クライアントのインストールについて](#)
- [Windows での NetBackup クライアントのインストールについて](#)
- [UNIX/Linux での NetBackup クライアントのインストールについて](#)

NetBackup クライアントのインストールについて

定義上では、NetBackup サーバーはクライアントでもあります。NetBackup サーバーソフトウェアをインストールすると、クライアントソフトウェアもインストールされます。

クライアントソフトウェアをインストールするときは、サーバーソフトウェアがインストールされないため、本当のクライアントインストールを実行します。

クライアントソフトウェアは個々のコンピュータにローカルインストールするか、またはリモートインストールできます。オペレーティングシステムはどのクライアントがリモートでインストールできるか判断します。

Windows の場合

Windows ホストは Windows クライアントにのみクライアントソフトウェアをプッシュできます。

クライアントのリモートインストールを実行するために使われるホストに NetBackup をインストールする必要はありません。

UNIX または Linux の場合: NetBackup の UNIX または Linux サーバーは UNIX または Linux クライアントにのみクライアントソフトウェアをプッシュできません。

NetBackup ソフトウェアとクライアント形式のソフトウェアを、クライアントのリモートインストールを実行するために使われるサーバーにインストールする必要があります。

メモ: セキュアな環境でクライアントを配備し、クライアントがマスターサーバーに直接接続されていない場合は、追加の手順が必要になります。このトピックに関する詳細情報を参照できます。『Veritas NetBackup セキュリティおよび暗号化ガイド』で、マスターサーバーへの接続なしでクライアントに証明書を配備する方法についてのトピックを参照してください。

メモ: すべてのスクリプトは、ローカルに格納してローカルで実行する必要があります。すべてのユーザーにスクリプトの書き込み権限を与えることは推奨しません。ネットワークまたはリモートの場所からスクリプトを実行することは許可されません。NetBackup をアンインストールする際は、NetBackup の db_ext (UNIX の場合) または dbext (Windows の場合) に格納されている作成済みのスクリプトを保護する必要があります。

承認を受けた場所とスクリプトについて詳しくは、ナレッジベースの記事を参照してください。

<http://www.veritas.com/docs/000126002>

お使いのデータベースエージェントについて詳しくは、当該エージェントに関するマニュアルを確認してください。

<http://www.veritas.com/docs/DOC5332>

Windows での NetBackup クライアントのインストールについて

Microsoft Windows 版 NetBackup クライアントのインストールウィザードを使用すると、一連のウィザード画面からセットアップおよびインストールについての適切なオプションを選択することができます。オプションを選択した後、インストールが始まる前に選択項目を検証することを可能にするウィンドウが表示されます。

インストール中、ダイアログボックスにはインストールおよびセットアップの進捗状況の詳細が表示されます。インストールが完了すると、最後に表示されるウィンドウにインストールの結果が表示されます。

Windows システムに NetBackup クライアントソフトウェアをインストールするとき次を注意します。

クライアントのインストール制限 NetBackup サーバーソフトウェアがインストールされているコンピュータには、NetBackup クライアントソフトウェアをインストールできません。この場合は、まず NetBackup サーバーソフトウェアを削除する必要があります。

p.161 の「Windows サーバー、クラスタ、およびクライアントからの NetBackup サーバーおよびクライアントソフトウェアの削除」を参照してください。

ユーザー権限

- Windows Server 2008、2008 R2、2012、2012 R2、2016 システムでは、デフォルトで管理者のみが Program Files ディレクトリに対する書き込み権限を持っています。
- NetBackup は次の場所にログファイルと進捗ファイルを書き込みます。

Program Files¥Veritas¥NetBackup¥Logs

バックアップおよびリストアを実行するために、バックアップ、アーカイブおよびリストアインターフェースを使用する場合、ユーザーが Logs ディレクトリへの書き込み権限を持っている必要があります。ユーザーがこのディレクトリへの書き込み権限を持たない場合、エラーメッセージが表示され、バックアップまたはリストアは取り消されます。管理者アカウントはデフォルトで書き込み権限を持っていますが、管理者以外のユーザーが書き込み権限を持っていることを確認する必要があります。

Windows クライアントのインストール方法と必要条件について

次の方式を使用して、Windows システムに NetBackup クライアントをインストールできます。

表 6-1 インストール方法と必要条件

方式	要件	詳細
ローカルインストール	NetBackup クライアントソフトウェアをローカルインストールするには、システムが次の構成要件を満たしている必要があります。 ■ Microsoft Windows 2008/Vista、Windows 2008 R2/Windows 7、Windows 2012/2012 R2/Windows 8、Windows 2016 のいずれか ■ Windows Sockets 準拠の TCP/IP プロトコルスタック(サーバーまたはオペレーティングシステムに付属の TCP/IP プロトコルスタックを使用することをお勧めします) ■ ご使用の TCP/IP プロトコルスタックがサポートするネットワークアダプタ (NIC)	インストールウィザードでは、インストールを実行するコンピュータにのみクライアントソフトウェアがインストールされます。 p.94 の「NetBackup Windows クライアントのローカルまたはリモートでのインストール」を参照してください。

方式	要件	詳細
リモートインストール	NetBackup クライアントソフトウェアをリモートインストールするには、システムが次の構成要件を満たしている必要があります。 - ローカルインストールのすべての要件を満たしている必要があります。 - インストール元のシステムで Windows 2008、Windows 2008 R2、Windows 2012、Windows 2016 Server のいずれかを実行している必要があります。 - リモートインストールを実行するユーザーには、管理者権限が必要です。 - Remote Registry サービスはリモートシステムで開始する必要があります。 Remote Registry サービスが開始されない場合、インストールは次のエラーメッセージを受信します。 <pre>Attempting to connect to server server_name failed with the following error: Unable to connect to the remote system. One possible cause for this is the absence of the Remote Registry service. Please ensure this service is started on the remote host and try again.</pre>	インストールウィザードによって、クライアントソフトウェアをインストール可能なクライアントがネットワーク上でスキャンされます。 インストール元のコンピュータでは、Windows 2008、Windows 2008 R2、Windows 2012 または Windows 2016 Server を実行している必要があります。 また、リモートインストールはシステム管理者権限を必要とします。 メモ: NetBackup の Windows サーバーから UNIX のコンピュータにクライアントをリモートでインストールできません。 p.94 の「NetBackup Windows クライアントのローカルまたはリモートでのインストール」を参照してください。

方式	要件	詳細
サイレントインストール	サイレントインストールの必要条件はローカルインストールの必要条件と同じです。	サイレントインストールとは、対話形式の入力を必要としない処理です。ただしそれを実行する前に、 <code>silentclient.cmd</code> ファイルを編集する必要があります。 p.103 の「NetBackup Windows クライアントのサイレントインストール」 を参照してください。

すべてのインストール方式で NTFS ディスクパーティションが必要です。

インストールする NetBackup クライアントのバージョンが NetBackup サーバーソフトウェアのインストールされたバージョンと同じか、またはそれよりも古いことが必要です。サーバーのバージョンよりも新しいバージョンのクライアントを使用することはできません。

[p.14 の「NetBackup のバージョン間の互換性について」](#)を参照してください。

[p.89 の「NetBackup クライアントのインストールについて」](#)を参照してください。

NetBackup Windows クライアントのローカルまたはリモートでのインストール

ローカルコンピュータまたはネットワーク上の複数のコンピュータで NetBackup をインストールするのにこの手順を使います。インストール処理は、[キャンセル (Cancel)] をクリックするといつでも中止でき、[戻り (Back)] をクリックすると、前のウィンドウに戻ります。

Windows クライアントをリモートインストールするとき、次を注意します。

要件	Windows クライアントのインストールの要件を見直します。 p.91 の「Windows クライアントのインストール方法と必要条件について」 を参照してください。
権限	NetBackup を正常にインストールするには、リモートクライアントに対する管理者権限が必要です。
クライアント名エントリ	インストール時に、クライアント名が小文字でレジストリに書き込まれます。バックアップを機能させるには、NetBackup サーバーのポリシーに、クライアント名を小文字で指定する必要があります。

メモ: クライアントのインストール後、変更内容を有効にするために、システムを再起動する必要がある場合があります。再起動が必要な場合にはアラートメッセージが表示されます。

NetBackup クライアントソフトウェアを Windows システムにローカルまたはリモートでインストールする方法

- 1 クライアントソフトウェアをインストールするホストに管理者としてログオンします。
- 2 イメージが保存されているディレクトリに移動して、`Browser.exe` を実行して NetBackup インストールウィザードを起動します。
- 3 初期画面で、[Installation]を選択します。
- 4 [インストール (Installation)]画面で、[NetBackup クライアントソフトウェアのインストール (NetBackup Client Software Installation)]を選択します。
- 5 [ようこそ (Welcome)]画面で内容を確認して[次へ (Next)]をクリックします。
- 6 (該当する場合) 以前にこのホストに NetBackup 8.1.2 をインストールしている場合、[プログラムのメンテナンス (Program Maintenance)]ダイアログが表示されます。
 - [変更 (Modify)]を選択してローカルホストのインストール設定を変更するか、またはローカルホストをリモートホストへのプッシュインストールを実行するためのプラットフォームとして使用します。
 - [修復 (Repair)]を選択して、NetBackup 8.1.2 をローカルホストで元の状態にリストアします。
 - NetBackup 8.1.2 をローカルホストから削除するには、[削除 (Remove)]を選択します。
- 7 [License Agreement]画面で、使用許諾契約に同意して[Next]をクリックします。
- 8 [Veritas NetBackup Client Installation Type]画面で、次の情報を入力します。

Where to install	ローカルインストールの場合、[Install to this computer only]を選択します。 リモートインストールの場合、[Install to multiple computers on your network]を選択します。 この手順では、インストール先のシステムのリストにローカルホストを追加しないかぎり、クライアントはローカルホストにインストールされません。
Typical	デフォルト設定の NetBackup をインストールするには、このオプションを選択します。
Custom	任意の設定の NetBackup をインストールするには、このオプションを選択します。

[Next]をクリックします。

- 9 (該当する場合)この手順はローカルの[カスタム (Custom)]インストールにのみ適用されます。

[Veritas NetBackup Client Destination Folder] 画面では、NetBackup ファイルがインストールされる場所を選択できます。

宛先フォルダ

デフォルトでは、NetBackup ファイルは次の場所にインストールされます。

C:\Program Files\VERITAS

NetBackup のインストール先のフォルダを変更する方法

- [変更 (Change)] をクリックします。
- 優先の場所を参照し、新規または既存のフォルダを指定します。
- [次へ (Next)] をクリックします。

インストールフォルダの制限事項についての追加情報を参照できます。

p.10 の「[NetBackup インストールディレクトリの制限事項](#)」を参照してください。

メモ: アップグレードの場合は宛先を変更できません。

10 (該当する場合) この手順は [カスタム (Custom)] インストールにのみ適用されます。

[NetBackup Options] 画面で、次のオプションから選択します。

At System Startup

次のオプションを有効または無効にします。

- **Start NetBackup Client Service Automatically**
デフォルトでは、システムの起動直後に NetBackup サービスが利用可能となるように、このオプションは有効になっています。
- **Start NetBackup Client Job Tracker Automatically**
デフォルトでは、このオプションは無効に設定されています。インストール後にこのオプションを手動で起動するには、[スタート]>[すべてのプログラム]>[Veritas NetBackup]>[NetBackup Client Job Tracker] をクリックします。

ポート (Ports)

構成に必要な場合は、この画面からポート番号を変更できます。

NetBackup と他社製品が同じポートを共有しようとして競合が発生した場合、ポート番号の変更が必要になることがあります。また、ファイアウォールでセキュリティの問題を引き起こすポートの競合が発生している場合にも変更できません。

ポート番号を変更するには、置き換えるポート番号を選択し、新しい番号を入力します。

[Next]をクリックします。

11 [NetBackup Services]画面で、NetBackup Client Service の起動アカウントおよび起動の種類を指定します。

ログオン

[ローカル システム アカウント (Local System account)] または [アカウント(account)]を指定します。

デフォルトでは、[ローカル システム アカウント (Local System account)]が選択されるので、NetBackup は組み込みシステムアカウントを使います。このオプションを選択すると、その下のフィールドは無効になります。

異なるシステムアカウントを指定する方法

- このオプションを選択します。
- 次のフィールドにアカウント情報を入力します。

ドメイン (Domain)

ユーザー名 (Username)

パスワード (Password)

[安全な中止 (Safe Abort)]オプション

このオプションは、インストールかアップグレードの一部として再起動が必要な場合、どのようにインストールを続行するかを判断します。

このオプションを選択した場合、インストール処理で再起動が必要であると判断されると、インストール (またはアップグレード) は停止します。システムは元の状態にロールバックされます。

このオプションを選択しない場合、インストール処理で再起動が必要であると判断されても、インストール (またはアップグレード) は続行します。

- 12** [NetBackup System Names]画面で、次のフィールドが自動的に入力されます。通常は変更の必要がありません。[Client Name]を除いて、構成の必要に応じて変更を加えることができます。

クライアント名 (Client Name)	この名前を変更しないでください。
マスターサーバー名 (Master Server Name)	必要に応じて、クライアントバックアップイメージが格納されている適切なマスターサーバーにこの名前を変更します。
追加サーバー (Additional Servers)	このクライアントからアクセスするすべてのマスターサーバーとメディアサーバーの名前を入力します。

- 13** 続行を決定すると、インストーラは認証局の証明書の詳細をフェッチします。オプションとして、[キャンセル (Cancel)]をクリックするとこの処理を中断できます。[キャンセル (Cancel)]をクリックした場合は、インストールを再実行するか、必要なセキュリティコンポーネントを使用せずにインストールを続行する必要があります。必要なセキュリティコンポーネントが存在しない場合はバックアップとリストアが失敗します。

- 14** [CA の指紋の確認 (Confirm the CA fingerprint)]画面で、表示されている指紋が認識して信頼しているものであれば、[このホストの指紋を認識しています。証明書配備に進みます。(I recognize the fingerprint for this host. Proceed with the certificate deployment.)]を選択します。[次へ (Next)]をクリックして続行します。

表示された指紋を認識または信頼していない場合は、[証明書配備を行わずに進みます (Proceed without the certificate deployment)]を選択します。

指紋情報を承認すると、インストーラは認証局の証明書の詳細を保存します。オプションとして、[キャンセル (Cancel)]をクリックするとこの処理を中断できます。[キャンセル (Cancel)]をクリックした場合は、インストールを再実行するか、必要なセキュリティコンポーネントを使用せずにインストールを続行する必要があります。必要なセキュリティコンポーネントが存在しない場合はバックアップとリストアが失敗します。

- 15** インストーラは認証局の証明書の保存後にホスト証明書を配備します。オプションとして、[キャンセル (Cancel)]をクリックするとこの処理を中断できます。[キャンセル (Cancel)]をクリックした場合は、インストールを再実行するか、必要なセキュリティコンポーネントを使用せずにインストールを続行する必要があります。必要なセキュリティコンポーネントが存在しない場合はバックアップとリストアが失敗します。

- 16** (該当する場合) [認証トークン (Authorization Token)]画面でプロンプトが表示された場合は、セキュリティトークンを入力します。

認証トークンを入力してください (Please enter an authorization token)

トークンの形式は大文字で 16 文字です。また、[セキュリティトークンを指定せずに続行 (Proceed without providing a security token)]オプションを選択することもできます。このオプションを選択すると、次の警告が表示されます。

一部の環境では、セキュリティトークンの指定の失敗によりバックアップが失敗する可能性があります。質問がある場合、バックアップ管理者に問い合わせてください
(In some environments, failure to provide a security token can result in failed backups. Contact your backup administrator if you have questions)

オプションとして、セキュリティトークンを入力した後に[キャンセル (Cancel)]をクリックするとホスト証明書の配備を中断できます。[キャンセル (Cancel)]をクリックした場合は、インストールを再実行するか、必要なセキュリティコンポーネントを使用せずにインストールを続行する必要があります。必要なセキュリティコンポーネントが存在しない場合はバックアップとリストアが失敗します。

このインストールがリモートインストールの場合、認証トークンの指定は任意です。お使いの環境に必要な認証トークンがあるかどうかは、バックアップ管理者にお問い合わせください。

- 17** [Veritas NetBackup Remote Hosts]画面で、NetBackup をインストールするホストを指定します。

- Destination Systems

[Windows Destination Computers]アイコンを右クリックし、ドロップダウンメニューから選択するか、または次のアイコンを使います。

参照 (Browse)

NetBackup をインストールしたいホストのネットワークを検索するためにここをクリックします。

- [Available Systems] ダイアログボックスで追加するコンピュータを選択し、[次へ (Next)] をクリックします。
- [Remote Computer Login Credentials] ダイアログボックスで、リモートコンピュータのインストールを実行するために使われるアカウントの [User Name] と [Password] を入力します。
- 複数のリモートコンピュータにインストールする場合は、[Remember User Name and Password] の隣にあるボックスをクリックします。このオプションを選択すると、各リモートコンピュータにこの情報を入力する必要がなくなります。
- [OK] をクリックします。
- [Remote Destination Folder] ダイアログボックスで、NetBackup がインストールされる [Destination Folder] を確認または変更します。
デフォルトでは、この場所は C:\Program Files\Veritas になります。
複数のリモートコンピュータにインストールする場合、同じ場所を使うには、[Use this folder for subsequent systems] の隣にあるボックスをクリックします。このオプションを選択すると、各リモートコンピュータにこの場所を入力する必要がなくなります。

Import

ホスト名のリストを含んでいるテキストファイルをインポートするためにここをクリックします。テキストファイルを作成する場合、ホスト名は次の形式で定義する必要があります。

Domain\ComputerName

追加 (Add)

ホストを手動で追加するためにここをクリックします。

- [Manual Remote Computer Selection] ダイアログボックスが表示されたら、[Domain] と [Computer Name] を入力し、[OK] をクリックします。
- [Remote Computer Login Credentials] ダイアログボックスで、リモートコンピュータのインストールを実行するために使われるアカウントの [User Name] と [Password] を入力します。
複数のリモートコンピュータに追加およびインストールする場合は、[Remember User Name and Password] の隣にあるボックスをクリックします。このオプションを選択すると、各リモートコンピュータにこの情報を入力する必要がなくなります。
- [OK] をクリックします。
- [Remote Destination Folder] ダイアログボックスで、NetBackup がインストールされる [Destination Folder] を確認または変更します。
デフォルトでは、この場所は C:\Program Files\Veritas になります。
複数のリモートコンピュータにインストールする場合、同じ場所を使うには、[Use this folder for subsequent systems] の隣にあるボックスをクリックします。このオプションを選択すると、各リモートコンピュータにこの場所を入力する必要がなくなります。
- [OK] をクリックします。

削除 (Remove)

[Destination Systems] リストからホストを削除するには、ホストを選択し、ここをクリックします。

Change

選択したリモートホストの NetBackup ファイルのインストールの宛先を変更するためにここをクリックします。

- [Next] をクリックします。

18 [Ready to Install the Program] 画面で、前述の手順での選択を示す [Installation Summary] を確認します。

メモ: あらゆる警告メッセージの概略画面を確認することをお勧めします。インストールを続行する前に問題を解決すれば、インストールおよびアップグレードの問題を防ぐことができます。

次のオプションから 1 つ選択します。

- インストールを開始するには、[Install] をクリックします。

- 前の画面を表示して変更するには[Back]をクリックし、その後、この画面に戻って[Install]をクリックします。
- インストールをキャンセルするには、[Cancel]をクリックします。

[Install]をクリックすると、インストール処理が開始され、インストールの進捗状況を示す画面が表示されます。この処理には数分かかる場合があります。

リモートインストールは 5 つまで並行して行われます。1 つのリモートインストールが完了すると別のリモートインストールが開始し、最大 5 つのインストールが進行中となります。

[Install]をクリックした後に[Cancel]をクリックしても、インストールはすぐに停止しません。インストールはインストールがすでに開始してしまったすべてのリモートホストで続行します。ただし、その時点以降に指定されたホストにはクライアントソフトウェアはインストールされません。

NetBackup では、[Cancel]をクリックしたときに完了していたリモートインストールはすべて正常に終了したものと見なされます。

- 19 [インストールを完了する (Instllation Complete)]画面で、[完了 (Finish)]をクリックします。

次の場所にあるインストールログを確認します。

```
%ALLUSERSPROFILE%\Veritas\NetBackup\InstallLogs\
```

インストールログファイルは、詳しいインストール情報を提供し、エラーが発生したかどうかを表示します。

メモ: 複数のコンピュータにリモートインストールを実行する場合、このオプションでは、ローカルコンピュータのログのみを表示できます。インストールのために選択した各コンピュータにそれぞれのインストールログファイルが含まれています。リモートコンピュータのログファイルを表示するには、Windows エクスプローラのウィンドウを開いて %COMPUTERNAME% と入力し、InstallLogs ディレクトリにナビゲートします。

インストールログを検索し、次のエラーが表示されているかどうかを確認します。

- Return Value 3 を含む文字列。
- 重要なログメッセージは次のように色分けされます。
 - 黄色 = 警告。
 - 赤 = エラー。

NetBackup Windows クライアントのサイレントインストール

サイレントインストール処理は対話形式の入力を必要としません。ただし、`silentclient.cmd` ファイルを実行する前に、そのファイルを編集しておく必要があります。

NetBackup クライアントのサイレントインストールは、NetBackup サービスをローカル管理者以外のユーザーで実行する場合はサポートされません。

カスタムのサービスアカウントを使用して NetBackup をインストールする場合は、次の項を参照してください。

p.94 の「[NetBackup Windows クライアントのローカルまたはリモートでのインストール](#)」を参照してください。

ローカル NetBackup クライアントのサイレントインストールを実行するために次の手順を使います。

Windows で NetBackup クライアントソフトウェアのサイレントインストールを実行する方法

- 1 ESD イメージ (ダウンロード済みファイル) が存在する場所に移動します。
- 2 ハードディスクドライブの一時フォルダに次のディレクトリの内容をコピーします。たとえば、`C:\temp` にコピーします。
- 3 コピー元のファイルは読み取り専用であるため、ハードディスクドライブにコピーしたファイルの権限を変更して、更新できるようにします。
- 4 一時ディレクトリで、テキストエディタを使用して `silentclient.cmd` ファイルを編集し、スクリプトによって必要なクライアントソフトウェアがインストールされるようにします。
- 5 `silentclient.cmd` スクリプトを実行します。
- 6 インストールが正常だったことを検証するには、次のディレクトリのインストールログファイルを調べます。

```
%ALLUSERSPROFILE%\Veritas\NetBackup\InstallLogs
```

NetBackup クライアントの構成方法

次のいずれかの操作を実行して、NetBackup クライアントを構成することができます。

- サーバーまたはメディアサーバーの追加方法
 - バックアップ、アーカイブおよびリストアインターフェースを起動します。
 - [ファイル (File)] > [NetBackup マシンおよびポリシー形式の指定 (Specify NetBackup Machines)] をクリックします。

クライアントプロパティを表示および変更する方法

- バックアップ、アーカイブおよびリストインターフェースを起動します。
- [ファイル (File)] > [NetBackup クライアントのプロパティ (NetBackup Client Properties)] をクリックします。

サーバープロパティを表示および変更する方法

- NetBackup 管理コンソールを開きます。
 - [ホストプロパティ (Host Properties)] を展開し、[クライアント (Clients)] をクリックします。
 - 右ペインで、クライアントを右クリックし、[プロパティ (Properties)] を選択します。
- 表示されるダイアログボックスの [サーバー (Servers)] タブに、Windows クライアントへのアクセスが必要である NetBackup のすべてのサーバーが一覧表示されます。

クライアント構成について詳しくは、『NetBackup 管理者ガイド Vol. 1』を参照してください。

<http://www.veritas.com/docs/DOC5332>

UNIX/Linux での NetBackup クライアントのインストールについて

UNIX/Linux クライアントのインストールは、クライアントコンピュータのローカルで実行するか、または UNIX/Linux 版 NetBackup サーバーからリモートで実行することができます。UNIX/Linux NetBackup サーバーからクライアントソフトウェアをリモートでインストールするには、クライアント形式のソフトウェアを UNIX/Linux サーバーに最初にインストールする必要があります。

UNIX/Linux システムで NetBackup クライアントソフトウェアをインストールするときは、次を注意します。

UNIX/Linux パッケージの統合 アドオン製品およびデータベースエージェントの多くは NetBackup クライアントパッケージとともにインストールされるようになりました。これらの製品を個別にインストールする必要はなくなりました。

次の製品が NetBackup 8.1.2 クライアントパッケージに含まれるようになりました (製品がプラットフォームでサポートされている場合)。

- BMR ブートサーバー
- DB2
- 暗号化
- Informix
- VxUpdate エージェント
- Lotus Notes
- Oracle
- SAP
- Snapshot Client
- Sybase

リストにある製品のバイナリはクライアントパッケージによって配置されます。ただし、製品を有効にするには、有効なライセンスが必要です。製品構成が前に必要であった場合 (db2_config など) は、構成も必要となります。

フランス語、日本語、中国語の言語パッケージは別のアドオンのままです。これらの製品をインストールし、アップグレードする処理は変わりません。

gzip および gunzip コマンド gzip および gunzip コマンドが各システムにインストールされている必要があります。これらのコマンドがインストールされているディレクトリは、root ユーザーの PATH 環境変数設定に含まれている必要があります。

NetBackup-Java 互換性

UNIX/Linux クライアントからバックアップまたはリストアを開始するには、次のグラフィカルインターフェースが利用可能です。

- NetBackup-Java と互換性があるクライアントでは、NetBackup-Java インターフェース (jbpSA) を使うことができます。インターフェースには複数のバージョンが存在します。`-h` オプションを使用し、`-e` オプションを確認すると、サポート対象バージョンがわかります。
- NetBackup-Java と互換性がないクライアントでは、bp インターフェースを使用できます。

グラフィカルインターフェースとの互換性に関する詳しい情報が利用可能です。『NetBackup Software Compatibility List (SCL)』を参照してください。

<http://www.netbackup.com/compatibility>

メモ: SCL の「バックアップポリシーのためのクライアントの選択」セクションに記載され、「NetBackup 管理コンソール」セクションに記載されていないクライアントはバックアップとリストアのサポート対象になりますが、利用可能なすべてのグラフィカルインターフェースをサポートしません。

UNIX/Linux クライアントのインストール方式について

次の方式を使用して、UNIX/Linux システムで NetBackup クライアントをインストールできます。

ローカルインストール

- この方式はインストールスクリプトを実行するコンピュータにクライアントソフトウェアをインストールします。
- クライアントをデフォルト以外の場所にインストールするには、クライアントソフトウェアをインストールする前にディレクトリを作成して、リンクさせる必要があります。まず、ソフトウェアを保存するディレクトリを作成してから、そのディレクトリへのリンクとして `/usr/opensv` を作成します。
- IBM 社の zSeries クライアントと IBM 社の pSeries Linux クライアントでは、NetBackup の ESD イメージの内容を仮想 Linux 環境で読み込むことができる場所に転送する必要があります。イメージは、NFS マウントコマンドを使用して転送できます。

p.107 の「UNIX クライアントのローカルインストール」を参照してください。

- リモート (プッシュ) インストール
- UNIX/Linux 版 NetBackup サーバーから UNIX/Linux クライアントコンピュータにクライアントソフトウェアをプッシュインストールできます。UNIX/Linux クライアントは、メディアサーバーまたはマスターサーバーではなく、完全なクライアントである必要があります。クライアントソフトウェアのプッシュインストールは、推奨インストール方式です。
 - UNIX/Linux クライアントにプッシュする前にサーバーで最初に NetBackup クライアントの形式のソフトウェアをインストールする必要があります。それから、クライアント名を含むポリシーを作成する必要があります。
<http://www.veritas.com/docs/DOC5332>
p.52 の「マスターサーバーへのクライアント形式のソフトウェアのインストール」を参照してください。
 - NetBackup UNIX/Linux サーバーから Windows クライアントソフトウェアをリモートインストールすることはできません。
 - ファイアウォールによってクライアントのリモートインストールを実行できない場合があります。
 - IBM 社の zSeries および IBM 社の pSeries Linux などのクライアントが、ESD イメージにアクセスできない場合があります。このような場合は、UNIX/Linux のマスターサーバーまたはメディアサーバーからクライアントソフトウェアをプッシュする必要があります。
 - 次のリモートインストール方式を利用できます。
p.122 の「ssh の方法を使用したクライアントソフトウェアのインストール」を参照してください。
p.123 の「sftp の方法を使用したクライアントソフトウェアのインストール」を参照してください。

p.89 の「NetBackup クライアントのインストールについて」を参照してください。

UNIX クライアントのローカルインストール

NetBackup クライアントソフトウェアをローカルコンピュータにインストールするには、次の手順を実行します。

クライアントソフトウェアを UNIX クライアントにローカルインストールする方法

- 1 インストールスクリプトを開始するには、次のいずれかの方法を使用します。

- ESD イメージ (ダウンロード済みファイル)
 - インストールイメージが存在する場所に移動します。
 - 次のコマンドを入力します。

```
./install
```

ネイティブインストールツール NetBackup では、ネイティブ インストーラによる UNIX と Linux のクライアントバイナリのインストールとアップグレードがサポートされます。詳細情報を参照できます。

p.110 の「ネイティブ インストーラによる UNIX と Linux のクライアントバイナリのインストールとアップグレード」を参照してください。

2 次のメッセージが表示されたら、Enter キーを押して続行します。

```
Veritas Installation Script
Copyright 1993 - 2016 Veritas Corporation, All Rights Reserved.
```

```
Installing NetBackup Client Software
```

```
Please review the VERITAS SOFTWARE LICENSE AGREEMENT located on
the installation media before proceeding. The agreement includes
details on the NetBackup Product Improvement Program.
```

```
For NetBackup installation and upgrade information specific to
your
platform and to find out if your installed EEBs or hot fixes are
contained in this release, check out the Veritas Services and
Operations Readiness Tools (SORT) Installation and Upgrade
Checklist
and Hot fix and EEB Release Auditor, respectively, at
https://sort.veritas.com/netbackup.
```

```
Do you wish to continue? [y,n] (y)
```

クライアントのバイナリは、バイナリがコンパイルされたオペレーティングシステムのバージョンを表します。通常、バイナリは、より新しいバージョンのオペレーティングシステム上で問題なく動作します。インストール手順によって、システムに適したバイナリのコピーが試行されます。スクリプトでローカルのオペレーティングシステムが認識されない場合は、選択肢が表示されます。

3 y を入力し、Enter キーを押してソフトウェアのインストールを続行します。

```
Do you want to install the NetBackup client software for this
client? [y,n] (y)
```

4 NetBackup マスターサーバーの名前を入力し、Enter キーを押して続行します。

NetBackup マスターサーバーの名前を入力します。

5 NetBackup クライアント名を確認し、Enter キーを押して続行します。

Would you like to use "*client_name*" as the configured name of the NetBackup client? [y,n] (y)

6 (該当する場合)メッセージが表示されたら、1 台以上のメディアサーバーを入力します。

This host cannot connect directly to the master server; therefore, one or more media servers are required in order to contact the master server for security information. Enter the media servers (one per line) or X to skip the question. Enter Q to indicate all media servers have been entered.

Enter a media server for host master.domain, Q to quit, or X to skip this question:
media.domainq

7 続行を決定すると、インストーラは認証局の証明書の詳細をフェッチします。

Getting CA certificate details.
Depending on the network, this action may take a few minutes. To continue without setting up secure communication, press Ctrl+C.
Ctrl+Cを押す場合は、インストールを再実行するか、必要なセキュリティコンポーネントを使用せずにインストールを続行する必要があります。必要なセキュリティコンポーネントが存在しない場合はバックアップとリストアが失敗します。

8 メッセージが表示されたら、指紋情報を確認し、正確であることを承認します。

Master server [*master_name*] reports CA Certificate fingerprint [*fingerprint*]. Is this correct? [y/n] (y)

指紋情報を承認すると、インストーラは認証局の証明書の詳細を保存します。

Storing CA certificate.
Depending on the network, this action may take a few minutes. To continue without setting up secure communication, press Ctrl+C.
Ctrl+Cを押す場合は、インストールを再実行するか、必要なセキュリティコンポーネントを使用せずにインストールを続行する必要があります。必要なセキュリティコンポーネントが存在しない場合はバックアップとリストアが失敗します。

- 9 インストーラは認証局の証明書の保存後にホスト証明書をフェッチします。

```
Getting host certificate.
```

```
Depending on the network, this action may take a few minutes. To
```

```
continue without setting up secure communication, press Ctrl+C.
```

Ctrl+Cを押す場合は、インストールを再実行するか、必要なセキュリティコンポーネントを使用せずにインストールを続行する必要があります。必要なセキュリティコンポーネントが存在しない場合はバックアップとリストアが失敗します。

- 10 (該当する場合) 認証トークンを求めるメッセージが表示されたら、トークンを入力してください。

```
An authorization token is required in order to get the host  
certificate for this host. At the prompt, enter the authorization  
token or q to skip the question. NOTE: The answer entered will  
not be displayed to the terminal.
```

```
Enter the authorization token for master_server_FQDN or q to skip:
```

トークンの形式は大文字で 16 文字です。Ctrl+Cを押す場合は、インストールを再実行するか、必要なセキュリティコンポーネントを使用せずにインストールを続行する必要があります。必要なセキュリティコンポーネントが存在しない場合はバックアップとリストアが失敗します。

- 11 プロンプトに従って、インストールを完了します。

インストールフォルダの制限事項についての追加情報を参照できます。

p.10 の「[NetBackup インストールディレクトリの制限事項](#)」を参照してください。

- 12 インストール完了後、[Exit from this Script]を選択します。

ネイティブインストーラによる UNIX と Linux のクライアントバイナリのインストールとアップグレード

ネイティブインストーラを使用して、NetBackup UNIX および Linux クライアントをインストールまたはアップグレードできるようになりました。NetBackup インストールスクリプトや推奨インストーラを使用することができます。ただし、Debian パッケージを使用するクライアントには当てはまりません。それらのクライアントは、NetBackup インストールスクリプトを使用してインストールまたはアップグレードする必要があります。

- AIX の場合: `ls1pp`、`installp`
- HP-UX の場合: `swlist`、`swinstall`
- Linux の場合: `rpm`、`yum` など
- Solaris の場合: `pkginfo`、`pkgadd`

インストールまたはアップグレードに成功すると、`/usr/opensv/pack/install.history` ファイルに記録されます。

ネイティブインストーラを使用して **UNIX** または **Linux** クライアントバイナリをインストールまたはアップグレードするには

- 1 クライアントの `/tmp` ディレクトリに **NetBackup** インストール応答ファイル (`NBInstallAnswer.conf`) を作成してください。応答ファイルとその内容に関する詳しい情報を参照できます。

p.167 の「[NetBackup 応答ファイルについて](#)」を参照してください。

- 2 次の情報を使って `NBInstallAnswer.conf` に値を指定します。

```
SERVER=master_server_name
CLIENT_NAME=client_name
CA_CERTIFICATE_FINGERPRINT=fingerprint
```

例 (指紋の値は読みやすくするため折り返されています):

```
SERVER=master_01
CLIENT_NAME=client_101
CA_CERTIFICATE_FINGERPRINT=01:23:45:67:89:AB:CD:EF:01:23:45:67:
89:AB:CD:EF:01:23:45:67
```

お使いの **NetBackup** 環境のセキュリティ構成に応じて、応答ファイルに `AUTHORIZATION_TOKEN` オプションを追加する必要があります。
`AUTHORIZATION_TOKEN` オプションに関する詳しい情報を参照できます。

p.167 の「[NetBackup 応答ファイルについて](#)」を参照してください。

さらに、`NBInstallAnswer.conf` ファイルに次のいずれかのオプションを追加できます。各オプションに関する詳細情報を参照できます。

p.167 の「[NetBackup 応答ファイルについて](#)」を参照してください。

- `CLIENT_NAME=XLOCALHOSTX`
- `SERVICES=no`

- 3 適切なクライアントパッケージから必要なクライアントファイルを抽出して、クライアントコンピュータにコピーします。

- 十分な容量があるシステムに **UNIX** クライアント用の `CLIENTS1` パッケージをダウンロードする
- 十分な容量があるシステムに **Linux** クライアント用の `CLIENTS2` パッケージをダウンロードする
- `CLIENTS1` ファイルまたは `CLIENTS2` ファイルの内容を抽出する
例:

AIX	<code>gunzip NetBackup_8.1.2_CLIENTS1.tar.gz; tar -xvf NetBackup_8.1.2_CLIENTS1.tar</code>
HP-UX	<code>gunzip -dc NetBackup_8.1.2_CLIENTS1.tar.gz tar -xvf</code>
Linux	<code>tar -xzvf NetBackup_8.1.2_CLIENTS2.tar.gz</code>
Solaris	<code>tar -xzvf NetBackup_8.1.2_CLIENTS1.tar.gz</code>

- 目的のオペレーティングシステムのディレクトリに移動します。
例:

AIX	<code>CLIENTS1/NBClients/anb/Clients/usr/openv/netbackup/client/RS6000/AIX6/</code>
HP-UX	<code>CLIENTS1/NBClients/anb/Clients/usr/openv/netbackup/client/HP-UX-IA64/HP-UX11.31/</code>
Linux	Linux RedHat の場合: <code>CLIENTS2/NBClients/anb/Clients/usr/openv/netbackup/client/Linux/RedHat2.6.18/</code> Linux SuSE の場合: <code>CLIENTS2/NBClients/anb/Clients/usr/openv/netbackup/client/Linux/SuSE3.0.76</code>
Linux - s390x	Linux-s390x RedHat の場合: <code>CLIENTS2/NBClients/anb/Clients/usr/openv/netbackup/client/ Linux-s390x/IBMzSeriesRedHat2.6.18/</code> Linux-s390x SuSE の場合: <code>CLIENTS2/NBClients/anb/Clients/usr/openv/netbackup/client/ Linux-s390x/IBMzSeriesSuSE3.0.76</code>
Linux - ppc64le	Linux-ppc64le RedHat の場合: <code>CLIENTS2/NBClients/anb/Clients/usr/openv/netbackup/client/ Linux-ppc64le/IBMpSeriesRedHat3.10.0/</code> Linux-ppc64le SuSE の場合: <code>CLIENTS2/NBClients/anb/Clients/usr/openv/netbackup/client/ Linux-ppc64le/IBMpSeriesSuSE4.4.21</code>
Solaris	Solaris SPARC の場合: <code>CLIENTS1/NBClients/anb/Clients/usr/openv/netbackup/client/Solaris/Solaris10/</code> Solaris x86 の場合: <code>CLIENTS1/NBClients/anb/Clients/usr/openv/netbackup/client/ Solaris/Solaris_x86_10_64/</code>

- 以下に示すファイルをクライアントコンピュータにコピーします。

AIX	VRTSnbpcck.image VRTSspbxx.image.gz VRTSnbclt.image.gz VRTSnbjre.image.gz VRTSnbjava.image.gz VRTSpddea.image.gz VRTSnbcfg.image.gz
-----	---

HP-UX	VRTSnbpcck.depot VRTSspbxx.depot.gz VRTSnbclt.depot.gz VRTSnbjre.depot.gz VRTSnbjava.depot.gz VRTSpddea.depot.gz VRTSnbcfg.depot.gz
-------	---

Linux	VRTSnbpcck.rpm VRTSspbxx.rpm VRTSnbclt.rpm VRTSnbjre.rpm VRTSnbjava.rpm VRTSpddea.rpm VRTSnbcfg.rpm
-------	---

メモ: VRTSnbjre.rpm、VRTSnbjava.rpm、VRTSpddea.rpm の各ファイルは、IBM pSeries クライアントではサポートされません。

Solaris	.pkg_defaults VRTSnbpcck.pkg.gz VRTSspbxx.pkg.gz VRTSnbclt.pkg.gz VRTSnbjre.pkg.gz VRTSnbjava.pkg.gz VRTSpddea.pkg.gz VRTSnbcfg.pkg.gz
---------	---

メモ: Solaris クライアントバイナリには .pkg_defaults という非表示の管理ファイルが含まれます。この管理ファイルには、デフォルトのインストール処理が含まれています。

メモ: NetBackup Java コンソールの RPM (VRTSnbjava) は省略可能です。環境内のすべてのクライアントに NetBackup Java コンソールをインストールする必要がないこともあります。

メモ: z/Architecture クライアント用の VRTSpddea.rpm はないことに注意してください。

メモ: VRTSnbjre.rpm、VRTSnbjava.rpm、VRTSpddea.rpm の各ファイルは、IBM pSeries クライアントではサポートされません。

- 4 (該当する場合) Solaris、HP-UX、および AIX でのみ、次のコマンドを使用して圧縮パッケージファイルを抽出します。

```
gunzip VRTS*.*
```

この処理で、以下に示すすべてのパッケージファイルが抽出されます。

```
VRTSnbpcck.pkg  
VRTSspbxx.pkg  
VRTSnbclt.pkg  
VRTSnbjre.pkg  
VRTSnbjava.pkg  
VRTSpddea.pkg  
VRTSnbcfg.pkg
```

- 5 以下のコマンドを示されている順序で実行してファイルをインストールします。

```
AIX      installp -ad VRTSnbpcck.image all  
         installp -ad VRTSspbxx.image all  
         installp -ad VRTSnbclt.image all  
         installp -ad VRTSnbjre.image all  
         installp -ad VRTSnbjava.image all  
         installp -ad VRTSpddea.image all  
         installp -ad VRTSnbcfg.image all
```

次のコマンドのみを使用してすべてのパッケージをインストールすることもできます。

```
installp -ad folder_name all
```

HP-UX

```
swinstall -s VRTSnbpck.depot ¥*
swinstall -s VRTSspb.x.depot ¥*
swinstall -s VRTSnbclt.depot ¥*
swinstall -s VRTSnbjre.depot ¥*
swinstall -s VRTSnbjava.depot ¥*
swinstall -s VRTSpddea.depot ¥*
swinstall -s VRTSnbcfg.depot ¥*
```

次のコマンドのみを使用してすべてのパッケージをインストールすることもできます。

```
swinstall -s ./VRTSnbpck.depot ¥*;swinstall -s
./VRTSspb.x.depot ¥*;swinstall -s ./VRTSnbclt.depot
¥*;swinstall -s ./VRTSnbjre.depot ¥*;swinstall -s
./VRTSnbjava.depot ¥*;swinstall -s ./VRTSpddea.depot
¥*;swinstall -s ./VRTSnbcfg.depot ¥*
```

Linux

```
rpm -U VRTSnbpck.rpm
rpm -U VRTSspb.x.rpm
rpm -U VRTSnbclt.rpm
rpm -U VRTSnbjre.rpm
rpm -U VRTSnbjava.rpm
rpm -U VRTSpddea.rpm
rpm -U VRTSnbcfg.rpm
```

メモ: VRTSnbjre.rpm、VRTSnbjava.rpm、VRTSpddea.rpm の各ファイルは、IBM pSeries クライアントではサポートされません。

Solaris

以下に示す `pkgadd -a admin -d device [pkgid]` コマンドを使用してファイルをインストールします。

```
pkgadd -a .pkg_defaults -d VRTSnbpcck.pkg VRTSnbpcck
pkgadd -a .pkg_defaults -d VRTSspbx.pkg VRTSspbx
pkgadd -a .pkg_defaults -d VRTSnbclt.pkg VRTSnbclt
pkgadd -a .pkg_defaults -d VRTSnbjre.pkg VRTSnbjre
pkgadd -a .pkg_defaults -d VRTSnbjava.pkg VRTSnbjava
pkgadd -a .pkg_defaults -d VRTSpddea.pkg VRTSpddea
pkgadd -a .pkg_defaults -d VRTSnbcfg.pkg VRTSnbcfg
```

- `-a` オプションでは、デフォルトの管理ファイルの代わりに使用する特定の `admin (.pkg_defaults)` を指定します。管理ファイルにはデフォルトのインストール処理が含まれます。
- `-d` デバイスオプションでは、ソフトウェアパッケージのソースを指定します。デバイスには、デバイス、ディレクトリ、またはスプールディレクトリのパスを指定できます。
- `pkgid` パラメータを使用して、インストールするパッケージの名前を指定します。このパラメータは必要に応じて指定します。

6 (該当する場合) 応答ファイルがないか、正しく構成されていない場合は、次のエラーメッセージが表示されます。

```
WARNING: There is no answer file present and no valid
bp.conf. Therefore, security configuration is not complete. Manual
steps are required before backups and restores can occur. For more
information:
https://www.veritas.com/support/en_US/article.000127129
```

`/usr/opensv/netbackup/bin/private` ディレクトリに変更し、`nb_init_cfg` コマンドを実行して `bp.conf` ファイルを構成します。手動で `bp.conf` ファイルを構成することもできます。セキュリティと証明書の構成を手動で設定しなければならない場合があります。詳細情報を参照できます。

https://www.veritas.com/support/en_US/article.000127129

UNIX クライアントと Linux クライアントに NetBackup インストールスクリプトを使用する場合は、インストールの動作に 1 つだけ変更点があります。NetBackup インストールスクリプトは、インストールパッケージをクライアントの `/usr/opensv/pack/` ディレクトリにコピーしなくなりました。インストールまたはアップグレードに成功すると、`/usr/opensv/pack/install.history` ファイルに記録されます。

UNIX、Linux のインストールエラーメッセージ、エラーの原因、その解決策

ここに示されている手順とは異なるインストールを試みると、エラーメッセージが表示されることがあります。表 6-2 に、処理およびそれによって生成されるメッセージをいくつか示します。

表 6-2 インストールのエラーメッセージと解決策

インストール処理	エラーメッセージ	解決方法
AIX の場合		
同じバージョンのバイナリが存在するのにバイナリをインストールしようとする。	# installp -ad VRTSnbpck.image all package VRTSnbpck.image is already installed	lslpp -L <i>package_name</i> コマンドを使用して、インストールされているパッケージの名前を特定します。このパッケージをアンインストールしてから操作を再試行します。
誤った順序でバイナリをインストールしようとする。	# installp -ad VRTSnbcfg.image all error: Failed dependencies: VRTSnbclt >= 8.1.0.0 is needed by VRTSnbcfg-version-platform	イメージパッケージの正しいインストール順序については、マニュアルを参照してください。依存パッケージの一覧表示のエラーで、詳しい情報を取得することもできます。 p.111 の「ネイティブインストーラを使用して UNIX または Linux クライアントバイナリをインストールまたはアップグレードするには」 を参照してください。
新しいバージョンのバイナリが存在する場合に古いバージョンのバイナリをインストールしようとする。	# installp -d VRTSnbclt.image all WARNING: file /usr/openv/lib/java/nbvmwaretags.jar from install of VRTSnbclt-version-platform conflicts with file from package VRTSnbclt-version-platform	lslpp -L <i>package_name</i> コマンドを使用して、インストールされているパッケージの名前を特定します。このパッケージをアンインストールしてから操作を再試行します。
HP-UX の場合		
同じバージョンのバイナリが存在するのにバイナリをインストールしようとする。	# swinstall -s ./VRTSnbpck.depot 1 filesets have the selected revision already installed.	swlist コマンドを使用して、インストールされているパッケージの名前を特定します。このパッケージをアンインストールしてから操作を再試行します。

インストール処理	エラーメッセージ	解決方法
誤った順序でバイナリをインストールしようとする。	# swinstall -s ./VRTSnbcfg.depot ERROR: "hostname/": The software dependencies for 1 products or filesets cannot be resolved.	デポパッケージの正しいインストール順序については、マニュアルを参照してください。依存パッケージの一覧表示のエラーで、詳しい情報を取得することもできます。 p.111 の「ネイティブインストーラを使用して UNIX または Linux クライアントバイナリをインストールまたはアップグレードするには」 を参照してください。
新しいバージョンのバイナリが存在する場合に古いバージョンのバイナリをインストールしようとする。	# swinstall -s ./VRTSnbclt.depot WARNING: "hostname/": 1 filesets have a version with a higher revision number already installed.	swlist コマンドを使用して、インストールされているパッケージの名前を特定します。このパッケージをアンインストールしてから操作を再試行します。
Linux の場合		
同じバージョンのバイナリが存在するのにバイナリをインストールしようとする。	# rpm -U VRTSnbpcck.rpm package VRTSnbpcck.rpm-version-platform is already installed	rpm コマンドを使ってインストールされているパッケージの名前を特定します。このパッケージをアンインストールしてから操作を再試行します。
誤った順序でバイナリをインストールしようとする。	# rpm -U VRTSnbcfg.rpm error: Failed dependencies: VRTSnbclt >= 8.1.0.0 is needed by VRTSnbcfg-version-platform	マニュアルを参照して、RPM の正しいインストール順序を確認します。詳細情報を参照できます。 p.111 の「ネイティブインストーラを使用して UNIX または Linux クライアントバイナリをインストールまたはアップグレードするには」 を参照してください。
新しいバージョンのバイナリが存在する場合に古いバージョンのバイナリをインストールしようとする。	# rpm -U VRTSnbclt.rpm file /usr/opensv/lib/java/nbvmwaretags.jar from install of VRTSnbclt-version-platform conflicts with file from package VRTSnbclt-version-platform	rpm コマンドを使ってインストールされているパッケージの名前を特定します。このパッケージをアンインストールしてから操作を再試行します。
Solaris の場合		

インストール処理	エラーメッセージ	解決方法
同じバージョンのバイナリが存在するのにバイナリをインストールしようとする		pkginfo コマンドを使用して、現在インストールされているパッケージの名前を特定します。このパッケージをアンインストールしてから操作を再試行します。 または、パッケージに付属する管理ファイルを使用して、パッケージを再インストールします。

インストール処理	エラーメッセージ	解決方法
	<pre> pkgadd -a .pkg_defaults -d VRTSnbpck.pkg VRTSnbpck Processing package instance <VRTSnbpck> from </root/packages/Solaris/ Solaris_x86_10_64/VRTSnbpck.pkg> NetBackup Pre-Check(i386) 8.1.0.0 This appears to be an attempt to install the same architecture and version of a package which is already installed. This installation will attempt to overwrite this package. Copyright 2017 Veritas Technologies LLC. All rights reserved. ## Executing checkinstall script. Using </> as the package base directory. ## Processing package information. ## Processing system information. 6 package pathnames are already properly installed. ## Verifying disk space requirements. Installing NetBackup Pre-Check as <VRTSnbpck> ## Executing preinstall script. Wednesday, May 10, 2017 03:15:44 PM IST: Installing package VRTSnbpck. </pre>	

インストール処理	エラーメッセージ	解決方法
	<pre>Installing NB-Pck. ## Installing part 1 of 1. [verifying class <NBclass>] ## Executing postinstall script. Wednesday, May 10, 2017 03:15:45 PM IST: Install of package VRTSnbpck was successful.</pre>	
誤った順序でバイナリをインストールしようとする。	<pre># pkgadd -a .pkg_defaults -d VRTSnbclt.pkg VRTSnbclt ERROR: VRTSnbpck >=8.1.0.0 is required by VRTSnbclt.checkinstall script suspends</pre>	パッケージの正しいインストール順序については、マニュアルを参照してください。詳細情報を参照できます。 p.111の「ネイティブインストーラを使用してUNIXまたはLinux クライアントバイナリをインストールまたはアップグレードするには」を参照してください。
新しいバージョンのバイナリが存在する場合に古いバージョンのバイナリをインストールしようとする。	<pre># pkgadd -a .pkg_defaults -d VRTSnbclt.pkg VRTSnbclt Processing package instance <VRTSnbclt> from </root/0/packages/Solaris/Solaris_x86_10_64/VRTSnbclt.pkg> NetBackup Client(i386) 8.0.0.0 The following instance(s) of the <VRTSnbclt> package are already installed on this machine: 1 VRTSnbclt NetBackup Client (i386) 8.1.0.0 Do you want to overwrite this installed instance [y,n,?,q]</pre>	pkginfoコマンドを使用して、現在インストールされているパッケージの名前を特定します。このパッケージをアンインストールしてから操作を再試行します。

UNIX または Linux クライアントのリモートインストール方式について

次の方法を使用して、クライアントソフトウェアを UNIX または Linux マスターサーバーからクライアントホストに送信できます。

- ssh

p.122 の「[ssh の方法を使用したクライアントソフトウェアのインストール](#)」を参照してください。

- sftp

p.123 の「[sftp の方法を使用したクライアントソフトウェアのインストール](#)」を参照してください。
- パスワードなしの ssh

p.124 の「[パスワードなしの ssh の方法を使用する UNIX クライアントでのクライアントソフトウェアのインストール](#)」を参照してください。

メモ: クラスタ環境でのインストールの場合、NetBackup サーバーの実際のローカルホスト名ではなく仮想名を入力します。クライアントソフトウェアのプッシュインストールを実行できるのは、アクティブノードからだけです。

ssh の方法を使用したクライアントソフトウェアのインストール

このクライアントインストール方式は SunSSH と OpenSSH 製品の使用に基づいており、SunSSH と OpenSSH を特定のバージョンレベルとパッチレベルに設定しておく必要があります。これらのパッチについて詳しくは、『Veritas NetBackup 8.1.2 リリースノート』を参照してください。

この手順を実行する前に、次のガイドラインを参照してください。

SSH デーモン (sshd)	ssh の方法を使用するには、UNIX クライアントの sshd を有効にして root ユーザーログインできるように構成する必要があります。
クライアントソフトウェアの場所	クライアントソフトウェアをデフォルト以外の場所にインストールする場合、まず、目的のディレクトリを作成して、リンクさせる必要があります。クライアントソフトウェアを保存するディレクトリを作成してから、そのディレクトリへのリンクとして /usr/opensv を作成します。 インストールフォルダの制限事項についての追加情報を参照できます。 p.10 の「NetBackup インストールディレクトリの制限事項」を参照してください。
バックアップポリシー	クライアントがバックアップポリシーに割り当てられていることを確認します。

ssh の方法を使用して UNIX マスターサーバーから UNIX クライアントにクライアントソフトウェアをインストールする方法

- ◆ NetBackup サーバーで、install_client_files スクリプトを実行します。

次のいずれかのコマンドを使用します。

- 一度に 1 つのクライアントにのみソフトウェアを移動する方法
`/usr/opensv/netbackup/bin/install_client_files ssh client`
`client` は、クライアントのホスト名です。
- ソフトウェアをすべてのクライアントに一度に移動する方法
`/usr/opensv/netbackup/bin/install_client_files ssh ALL`
`ALL` オプションは、サーバーのバックアップポリシーに構成されているすべてのクライアントのインストールを指定します。

sftp の方法を使用したクライアントソフトウェアのインストール

このクライアントインストール方式は SunSSH と OpenSSH 製品の使用に基づいており、SunSSH と OpenSSH を特定のバージョンレベルとパッチレベルに設定しておく必要があります。これらのパッチについて詳しくは、『Veritas NetBackup 8.1.2 リリースノート』を参照してください。

この手順を実行する前に、次のガイドラインを参照してください。

SSH デーモン (sshd)	この方法を使用するには、UNIX クライアントの sshd を有効にして <code>root</code> または <code>root</code> 以外のユーザーログインができるように構成する必要があります。
クライアントファイルの場所	クライアントソフトウェアをデフォルト以外の場所にインストールする場合、まず、目的のディレクトリを作成して、リンクさせる必要があります。ソフトウェアを保存するディレクトリを作成してから、そのディレクトリへのリンクとして <code>/usr/opensv</code> を作成します。 インストールフォルダの制限事項についての追加情報を参照できます。 p.10 の「NetBackup インストールディレクトリの制限事項」を参照してください。
バックアップポリシー	クライアントがバックアップポリシーに割り当てられていることを確認します。

sftp の方法を使用して UNIX マスターサーバーから UNIX クライアントにクライアントソフトウェアをインストールする方法

- 1 サーバーからクライアントの `/tmp` ディレクトリにクライアントソフトウェアを移動するには、NetBackup サーバーで `install_client_files` スクリプトを実行します。

次のいずれかのコマンドを使用します。

- ソフトウェアを 1 つのクライアントに一度に移動する方法
`/usr/opensv/netbackup/bin/install_client_files sftp client user`

`client` は、クライアントのホスト名です。

`user` は、クライアントの **SSH** で必要なログイン ID です。

- ソフトウェアをすべてのクライアントに一度に移動する方法

```
/usr/opensv/netbackup/bin/install_client_files sftp ALL user
```

`ALL` オプションは、サーバーのバックアップポリシーに構成されているすべてのクライアントのインストールを指定します。

`user` は、クライアントで必要なログイン ID です。

- 2 スクリプトが実行された後、各クライアントコンピュータの **root** ユーザーは、次のスクリプトを実行する必要があります。

```
sh /tmp/bp.<pid>/client_config
```

`pid` はプロセス ID です。`client_config` スクリプトはバイナリをインストールします。

パスワードなしの **ssh** の方法を使用する UNIX クライアントでのクライアントソフトウェアのインストール

セキュリティで保護された UNIX クライアントとは、マスターとの間にパスワードなしの **ssh** 構成が設定されているクライアントです。

パスワードなしの **ssh** 構成が設定されていない UNIX クライアントでは、スクリプトを使用してそれらの UNIX クライアント上のローカルにソフトウェアをインストールできます。

ポリシーユーティリティが選択されている場合、ポリシーの[クライアント (Clients)]タブまたは[処理 (Actions)]メニューから、UNIX クライアントにクライアントソフトウェアをインストールできます。

UNIX クライアントにクライアントソフトウェアをインストールする前に、次の前提条件を満たす必要があります。

- **UNIX NetBackup** サーバーからにかぎり、クライアントソフトウェアを **NetBackup** 管理コンソールからインストールできます。このサーバーは、インターフェースの起動時にログオンダイアログボックスで指定したサーバーである必要があります。また、このサーバーは現在バックアップポリシーの管理に使用しているマスターサーバーである必要があります。クライアントはこのマスターサーバーのポリシーに含まれている必要があります。
- ソフトウェアインストールを受信する各クライアントは、現在のマスターサーバーとともにパスワードなしの **ssh** が設定されている必要があります。
クライアントとマスターサーバー間のパスワードなしの **ssh** は **NetBackup** の正しい動作のために必須ではありません。パスワードはクライアントソフトウェアがインストールされた後に無効にすることができます。

UNIX クライアントにクライアントソフトウェアをインストールする方法

- 1 NetBackup 管理コンソールで、[NetBackup の管理 (NetBackup Management)]>[ポリシー (Policies)]を展開します。

メモ: クライアントソフトウェアをインストールする場合、[ファイル (File)]>[サーバーの変更 (Change Server)]をクリックして別のマスターサーバーに変更することはできません。マスターサーバーはログオンダイアログボックスで指定したサーバーである必要があります。

- 2 [すべてのポリシー (All Policies)]中央ペインの上部でマスターサーバー名を選択します。
- 3 [処理 (Actions)]メニューで[UNIX クライアントソフトウェアのインストール (Install UNIX Client Software)]をクリックします。
- 4 認証トークンを入力し、マスターサーバーに接続します。

メモ: 証明書の配備のセキュリティ設定に応じて、NetBackup ホストは、認証局 (マスターサーバー) からホスト ID ベースの証明書を取得するために認証トークンを必要とする場合があります。セキュリティ設定が[最高 (Very High)]または[高 (High)]で再インストールの場合は、認証トークンは必須です。[中 (Medium)]のセキュリティ設定の場合、認証トークンはオプションです。

認証トークンを作成する方法について詳しくは『[NetBackup セキュリティおよび暗号化ガイド](#)』の「ホスト ID ベースの証明書のトークン管理について」を参照してください。

入力した認証トークンの詳細を表示するには、[トークンの表示 (Show Token)]チェックボックスを選択します。

- 5 [インストール対象外のクライアント (Don't install these clients)]ボックスのリストで、ソフトウェアを受信するクライアントを選択します。[追加 (Add)]をクリックして、[インストール対象のクライアント (Install these clients)]ボックスにクライアント名を移動します。
- 6 [クライアントソフトウェアのインストール (Install Client Software)]をクリックして、インストールを開始します。

クライアントソフトウェアのインストールには、1 つのクライアントにつき数分かかる場合があります。インストールの進捗状況に従って、[進捗状況 (Progress)]ボックスにメッセージが書き込まれます。クライアントに正常にインストールされなかった場合、ユーザーに通知されますが、そのクライアントはポリシー内に保持されます。インストールは、一度開始すると、停止できません。

インストールでは、NetBackup は次の処理が実行されます。

- クライアントソフトウェアがコピーされます。
 - サーバーの `/usr/opensv/netbackup/client` ディレクトリからコピーされます。
 - クライアントの `/usr/opensv/netbackup` ディレクトリにコピーされます。
- 必要なエントリがクライアントの `/etc/services` ファイルおよび `inetd.conf` ファイルに追加されます。

7 インストールが完了したら、[閉じる (Close)]をクリックします。

クライアントソフトウェアをクライアントの異なる場所にインストールする方法

- ソフトウェアを配置するディレクトリを作成します。
- `/usr/opensv/netbackup` をそのディレクトリへのリンクとして作成した後で、ソフトウェアのインストールを行います。

サーバーの初期インストール後の UNIX または Linux クライアントの追加

インストール中に選択しなかった UNIX または Linux クライアントが存在する場合にはサーバーのインストール後にその UNIX または Linux クライアントを追加できます。また、バックアップ環境に新しい UNIX または Linux クライアントを追加することもできます。

クライアントソフトウェアを後でインストールするには、まず、NetBackup サーバーに NetBackup クライアントソフトウェアをインストールする必要があります。

初期インストール後にサーバーに UNIX/Linux クライアントを追加する方法

1 インストールスクリプトを開始するには、次のいずれかの方法を使用します。

- ESD イメージ (ダウンロード済みファイル) ■ インストールイメージが存在する場所に移動します。
- 次のコマンドを入力します。

```
./install
```

ネイティブインストールツール NetBackup では、ネイティブ インストーラによる UNIX と Linux のクライアントバイナリのインストールとアップグレードがサポートされます。詳細情報を参照できます。

p.110 の「ネイティブ インストーラによる UNIX と Linux のクライアントバイナリのインストールとアップグレード」を参照してください。

2 次のメッセージが表示されたら、Enter キーを押して続行します。

```
Veritas Installation Script
Copyright 1993 - 2013 Veritas Corporation, All Rights Reserved.
```

```
Installing NetBackup Client Software
```

```
Please review the VERITAS SOFTWARE LICENSE AGREEMENT located on
the installation media before proceeding. The agreement includes
details on the NetBackup Product Improvement Program.
```

```
For NetBackup installation and upgrade information specific to
your
platform and to find out if your installed EEBs or hot fixes are
contained in this release, check out the Veritas Services and
Operations Readiness Tools (SORT) Installation and Upgrade
Checklist
and Hot fix and EEB Release Auditor, respectively, at
https://sort.veritas.com/netbackup.
```

```
Do you wish to continue? [y,n] (y)
```

クライアントのバイナリは、バイナリがコンパイルされたオペレーティングシステムのバージョンを表します。通常、バイナリは、より新しいバージョンのオペレーティングシステム上で問題なく動作します。インストール手順によって、システムに適したバイナリのコピーが試行されます。スクリプトでローカルのオペレーティングシステムが認識されない場合は、選択肢が表示されます。

- 3 コピーするクライアント形式を選択し、プロンプトに従ってそのクライアント形式をインストールします。目的のクライアント形式がすべてインストールされるまで、必要に応じて繰り返します。

サーバーからリモートインストールを行うすべての形式の UNIX/Linux クライアントのソフトウェアをコピーしたことを確認します。
- 4 指定したクライアントに NetBackup クライアントソフトウェアをインストールします。

p.121 の「UNIX または Linux クライアントのリモートインストール方式について」を参照してください。

サーバーのアップグレード後のクライアントのアップグレード

update_clients インストールスクリプトによって、クライアントにクライアントソフトウェアのプッシュインストールを実行できます。NetBackup メディアサーバーまたはマスターサーバーであるリモートクライアントには、クライアントソフトウェアのプッシュインストールは実行できません。これは、1 つのホスト上のサーバーソフトウェアおよびクライアントバイナリが同じバージョンである必要があるためです。

update_clients インストールスクリプトを使用すると、サーバーに構成されている完全なクライアントリストを確認できます。パラメータを指定せずに実行すると、/usr/opensv/netbackup/bin/admincmd/bpplclients に基づいて、すべてのクライアントの更新が試行されます。一部のクライアントをアップグレードする場合は、一部のクライアントを指定できます。ハードウェアおよびオペレーティングシステムのパラメータを使用するか、-ClientList パラメータを使用します。

メディアサーバーから update_clients を実行できます。この場合、-ClientList パラメータを使用する必要があります。このコマンドを使用すると、メディアサーバーおよび一連のクライアントを、マスターサーバーよりも前のバージョンに保持できます。このコマンドを使用するには、予定外のクライアントをアップグレードしないように、マスターサーバーおよびメディアサーバーでの update_clients -ClientList コマンドの使用に熟知している必要があります。

クラスター環境の場合、クライアントソフトウェアのプッシュインストールを実行できるのは、アクティブノードからだけです。

メモ: セキュアな環境でクライアントを配備し、クライアントがマスターサーバーに直接接続されていない場合は、追加の手順が必要になります。このトピックに関する詳細情報を参照できます。『Veritas NetBackup セキュリティおよび暗号化ガイド』で、マスターサーバーへの接続なしでクライアントに証明書を配備する方法についてのトピックを参照してください。

クライアントのアップグレードの間に、新しいクライアントファイルがクライアントの /tmp 内のディレクトリに書き込まれます。このディレクトリには、正常にアップグレードを行うために新しいクライアントファイルを一時的に保存するための十分な領域がなければなりません。

十分な領域が利用可能でない場合、アップグレードスクリプトで /tmp ディレクトリ内の場所に書き込みを行うことができなかったという状態メッセージが表示されます。この問題を解決するには、/tmp ディレクトリにより多くの領域を割り当てて、アップグレード手順を再び実行します。一時ディレクトリはアップグレードが完了すると削除されます。

サーバーのアップグレード後にクライアントをアップグレードする方法

- 1 インストールスクリプトを開始するには、次のいずれかの方法を使用します。

ESD イメージ (ダウンロード済みファイル) ■ インストールイメージが存在する場所に移動します。
■ 次のコマンドを入力します。

```
./install
```

ネイティブインストールツール NetBackup では、ネイティブインストーラによる UNIX と Linux のクライアントバイナリのインストールとアップグレードがサポートされます。詳細情報を参照できます。

p.110 の「[ネイティブインストーラによる UNIX と Linux のクライアントバイナリのインストールとアップグレード](#)」を参照してください。

- 2 次のメッセージが表示されたら、Enter キーを押して続行します。

```
Installing NetBackup Client Software.  
Do you wish to continue? (y/n) [y]
```

クライアントのバイナリは、バイナリがコンパイルされたオペレーティングシステムのバージョンを表します。通常、バイナリは、より新しいバージョンのオペレーティングシステム上で問題なく動作します。たとえば、Solaris 10 のバイナリは Solaris 11 レベルのオペレーティングシステムでも使用されます。

- 3 インストールするクライアント形式を選択し、プロンプトに従ってそのクライアント形式をインストールします。目的のクライアント形式がすべてインストールされるまで、必要に応じて繰り返します。

このサーバーからプッシュするすべての形式の UNIX クライアントのソフトウェアをインストールしたことを確認してください。これを行わない形式の UNIX クライアントは、NetBackup のポリシー構成に追加できません。

- 4 NetBackup マスターサーバー上で、root ユーザーとして次のコマンドを入力して、bprd が動作しているかどうかを確認します。

```
/usr/opensv/netbackup/bin/bpps
```

bprd が動作している場合は、次のコマンドを実行して停止します。

```
/usr/opensv/netbackup/bin/admincmd/bprdreq -terminate
```

- 5 バックアップまたはリストアが実行中ではないことを確認するには、次のコマンドを入力します。

```
/usr/opensv/netbackup/bin/admincmd/bpdbjobs
```

- 6 update_clients スクリプトを実行することによって UNIX クライアントソフトウェアを更新します。クライアントのリストには、仮想名ではなく各ノードのホスト名を指定します。

次のいずれかのコマンドを使用します。

-ClientList ファイルを /usr/opensv/netbackup/bin/update_clients
使わない場合

-ClientList ファイルを /usr/opensv/netbackup/bin/update_clients
使う場合 -ClientList filename

メディアサーバーでは、-ClientList パラメータを使用する必要があります。

クライアントが 30 を超える場合、リストを複数のファイルに分割して、各ファイルに対して update_clients を実行できます。

クライアントリストファイルを作成するには、次の手順を実行します。

- 次のように入力して、NetBackup の admincmd ディレクトリに移動します。

```
cd /usr/opensv/netbackup/bin/admincmd
```

- bplclients コマンドを使用して、現在 NetBackup データベースに構成されているクライアントのリストが含まれるファイルを作成します。このコマンドで使用するオプションは、次に示すように、マスターサーバーまたはメディアサーバーのどちらからプッシュインストールを行うかによって異なります。

マスターサーバーからプッシュインストールを行う場合
./bplclients -allunique -noheader > file

メディアサーバーからプッシュインストールを行う場合
./bplclients -allunique -noheader -M m_server_name > file

オプションの説明は、次のとおりです。

m_server_name 環境内の NetBackup マスターサーバーの名前。

file 一意のクライアントのリストを含めるファイルの名前。NetBackup データベース内でクライアントが構成されていない場合、ファイルは空になります。

bpplclients コマンドは、次の形式で file に出力を書き込みます。

```
hardware os client
```

hardware	ハードウェアの名前。たとえば、ディレクトリ /usr/opensv/netbackup/client では、ls コマンドを実行 します。
os	オペレーティングシステムの名前。たとえば、ディレクトリ /usr/opensv/netbackup/client/ hardware では、ls コ マンドを実行します。
client	クライアントの名前。

次に、file の内容の例を示します。

```
Solaris Solaris9 curry
```

- 必要に応じて、file を編集します。

file の内容を変更するには、この手順を実行します。NetBackup クライアントソフトウェアで更新するクライアントだけが含まれるように file を編集します。クライアントのホスト名は、クライアントの各ノード名である必要があります。仮想名は指定できません。hostname コマンドと domainname コマンドは個々のノード名の正しい値を戻します。使用できる形式は、hostname または hostname.domainname のいずれかです。

- 7 update_clients スクリプトを実行すると、マスターサーバー情報の入力が必要されます。

```
Starting update_clients script.
```

```
There are N clients to upgrade.
```

```
Do you want the bp.conf file on the clients updated to list this
```

```
server as the master server? (y/n) [y]
```

y または n のどちらかを入力します。

Enter キーを押します。

- 8 同時に実行する更新の数を入力します。

```
Enter the number of simultaneous updates you wish to take  
place. [1 - 30] (default: 15):
```

9 インストーラは認証局の証明書の詳細を取得しようとします。

Getting CA certificate details.

Depending on the network, this action may take a few minutes. To continue without setting up secure communication, press Ctrl+C.

Ctrl+Cを押す場合は、インストールを再実行するか、必要なセキュリティコンポーネントを使用せずにインストールを続行する必要があります。必要なセキュリティコンポーネントが存在しない場合はバックアップとリストアが失敗します。

認証局の証明書が見つかった場合、次のメッセージが表示されます。

Using CA Certificate fingerprint from master server:

01:23:45:67:89:AB:CD:EF:01:23:45:67:89:AB:CD:EF:01:23:45:67

If clients need an authorization token for installation, please specify one here.

Token (leave blank for no authorization token):

認証トークンを空白のままにした場合、次のメッセージが表示されます。

WARNING: Authorization Token was not specified.

Manual steps may be required before backups and restores can occur.

10 質問に対して、y または n のどちらかを入力します。

The upgrade will likely take Y to Z minutes.

Do you want to upgrade clients now? (y/n) [y]

11 すべてのサーバーおよびクライアントが更新されたら、マスターサーバー上で root ユーザーとして次のコマンドを入力して、bprd デーモンを起動します。

/usr/opensv/netbackup/bin/initbprd

NetBackup の構成

この章では以下の項目について説明しています。

- [NetBackup の起動と停止のスクリプトについて](#)
- [NetBackup Server の構成について](#)
- [インストール後すぐにマスターサーバー上のクラウド構成ファイルを更新するかまたは NetBackup 8.1.2 にアップグレードする](#)

NetBackup の起動と停止のスクリプトについて

NetBackup をインストールするとき、インストールスクリプトは起動と停止のスクリプトの構成も実行します。起動スクリプトを使用して、システムがブートする際に **NetBackup** デーモンを自動的に起動することができます。停止スクリプトを使用して、システムを停止する際に起動スクリプトを自動的に終了することができます。

インストール処理はオペレーティングシステムの適切な場所に **NetBackup** の起動と停止のスクリプトをコピーします。

非クラスタ環境でのアップグレードの場合、既存の **NetBackup** 関連の起動および停止スクリプトは保存され、新しいバージョンのスクリプトがインストールされます。

[表 7-1](#) は、**NetBackup** のインストール中にインストールされる各種のプラットフォームの起動スクリプトと停止スクリプトのリンクをリストします。

表 7-1 プラットフォーム別の NetBackup の起動と停止のスクリプトのリンク

プラットフォーム	リンク
AIX	/etc/rc.netbackup.aix ■ レベル 2 でのブート中にこのスクリプトが呼び出されるように、NetBackup のインストールスクリプトによって /etc/inittab ファイルが編集され、次に示すエントリが追加されました。 netbackup:2:wait:/etc/rc.netbackup.aix ■ 停止するには、次に示す行を /etc/rc.shutdown ファイルに追加します。 /etc/rc.netbackup.aix stop
HP-UX	/sbin/rc1.d/K001netbackup ->/sbin/init.d/netbackup /sbin/rc2.d/S777netbackup ->/sbin/init.d/netbackup
Linux Debian	/etc/rc0.d/K01netbackup ->/etc/init.d/netbackup /etc/rc1.d/K01netbackup ->/etc/init.d/netbackup /etc/rc2.d/S95netbackup ->/etc/init.d/netbackup
Red Hat Linux	/etc/rc.d/rc0.d/K01netbackup ->/etc/rc.d/init.d/netbackup /etc/rc.d/rc1.d/K01netbackup ->/etc/rc.d/init.d/netbackup /etc/rc.d/rc2.d/S77netbackup ->/etc/rc.d/init.d/netbackup /etc/rc.d/rc3.d/S77netbackup ->/etc/rc.d/init.d/netbackup /etc/rc.d/rc5.d/S77netbackup ->/etc/rc.d/init.d/netbackup /etc/rc.d/rc6.d/K01netbackup ->/etc/rc.d/init.d/netbackup

プラットフォーム	リンク
SuSE Linux	/etc/init.d/rc0.d/K01netbackup ->/etc/init.d/netbackup
	/etc/init.d/rc2.d/S77netbackup ->/etc/init.d/netbackup
	/etc/init.d/rc3.d/S77netbackup ->/etc/init.d/netbackup
	/etc/init.d/rc5.d/S77netbackup ->/etc/init.d/netbackup
	/etc/init.d/rc6.d/K01netbackup ->/etc/init.d/netbackup
Solaris	/etc/rc0.d/K01netbackup ->/etc/init.d/netbackup
	/etc/rc1.d/K01netbackup ->/etc/init.d/netbackup
	/etc/rc2.d/S77netbackup ->/etc/init.d/netbackup

NetBackup Server の構成について

すべてのサーバーソフトウェアがインストールされた後、環境のロボットとストレージデバイスと連携して働くように **NetBackup** を構成する準備ができています。オペレーティングシステムがこれらのデバイスを構成されたデバイスとして認識してから **NetBackup** で構成する必要がありますので注意してください。

p.22 の「[ストレージデバイスの構成について](#)」を参照してください。

NetBackup を構成するとき次のガイドラインを使います。

NetBackup Enterprise Server マスターサーバーおよびメディアサーバーの構成手順は非常に類似しています。ただし、マスターサーバーからストレージデバイスやボリュームなどのすべてのサーバー情報を構成することを推奨します。この順序に従うことで、マスターサーバーがメディアサーバーを適切に管理できるようになります。

警告: マスターサーバーとメディアサーバー間の通信に問題があっても、構成ウィザードを実行することは可能です。ただし、問題が解決されるまで、メディアサーバー上でウィザードを実行しないでください。通信に問題がある場合にこのウィザードを実行しても、入力した情報はマスターサーバーによって認識されません。最初に問題を修正する必要があります。問題を修正してから、マスターサーバーで構成ウィザードを実行します。

クラスタ環境

- クラスタ内の各ノードでデバイスを構成します。
- アクティブ ノードのすべてのストレージデバイスが NetBackup と連携して働くように、これらを構成することから開始します。
- フェールオーバー対応 NetBackup サーバーでは、クラスタ内の NetBackup がインストールされている各ノードにすべてのデバイスを接続します。他のノードにマイグレートする方法については、クラスタのベンダーが提供するマニュアルを参照してください。
- 特に指定しないかぎり、クラスタ内のマスターサーバーおよびメディアサーバーの仮想ホスト名を使用するように NetBackup を構成します。

アドオン製品のフェールオーバーの構成方法について詳しくは、『NetBackup マスターサーバーのクラスタ化管理者ガイド』を参照してください。

<http://www.veritas.com/docs/DOC5332>

NetBackup サーバーの初期構成では、NetBackup 管理コンソールを起動し、[開始 (Getting Started)]アイコンをクリックすることをお勧めします。一連のウィザードに従って次の構成手順を実行します。

- ストレージデバイスの構成 (Configure Storage Devices)
p.138 の「[デバイスの構成ウィザードについて](#)」を参照してください。
- ボリュームの構成 (Configure Volumes)
p.140 の「[ボリュームの構成ウィザードについて](#)」を参照してください。
- カタログバックアップの構成 (Configure the Catalog Backup)
p.141 の「[カタログバックアップウィザードについて](#)」を参照してください。
- バックアップポリシーの作成 (Create a Backup Policy)
p.142 の「[バックアップポリシーの構成ウィザードについて](#)」を参照してください。

NetBackup がすでに構成され、特定の領域を変更したいと思ったら NetBackup 管理コンソールの適切なウィザードをクリックします。

NetBackup のすべてのウィザードに関する詳細情報と NetBackup を構成する方法について詳しくは『NetBackup 管理者ガイド Vol. 1』を参照してください。

<http://www.veritas.com/docs/DOC5332>

p.22 の「[ストレージデバイスの構成について](#)」を参照してください。

NetBackup 管理コンソールの起動

NetBackup 管理コンソールを NetBackup を構成するために開くには、次の手順を使います。開始ウィザードによって、NetBackup を機能させるための主な構成手順が示されます。

メモ: NetBackup 管理コンソールの最初のウィンドウでは、開始ウィザード以外のウィザードを起動できます。たとえば、ディスクプールを構成するか、またはスナップショットバックアップのポリシーを作成できます。すべての NetBackup ウィザードについて詳しくは、『NetBackup 管理者ガイド Vol. 1』を参照してください。

<http://www.veritas.com/docs/DOC5332>

Windows システムでは、NetBackup のインストールの最後に表示されるチェックボックス[管理コンソールの起動 (Launch Administration Console)]にチェックマークを付けると、この手順をスキップできます。

Windows で NetBackup 管理コンソールを起動する方法

- 1 NetBackup サーバーに管理者としてログインします。
- 2 [スタート (Start)] > [プログラム (Programs)] > [Veritas NetBackup] > [NetBackup リモート管理コンソール (NetBackup Remote Admin Console)]をクリックします。
- 3 構成を開始するには、管理コンソールで[開始 (Getting Started)]をクリックします。
[開始 (Getting Started)]画面が表示され、デバイスの構成を始めるように求めるメッセージが表示されます。

メモ: オペレーティングシステムで動作するようにデバイスを構成する必要が引き続きあったらウィザードを開じます。最初にそれらのデバイスをデバイスとオペレーティングシステムのベンダーによって指定されたように構成する必要があります。

UNIX で NetBackup 管理コンソールを起動する方法

- 1 root ユーザーとして NetBackup サーバーにログインします。
クラスター環境では、root としてアクティブノードにログインします。
NetBackup サーバー以外のコンピュータでユーザーインターフェースを実行する必要がある場合は、そのコンピュータにログインします。UNIX システムの場合は、root ユーザーとしてログインします。
- 2 次のコマンドを入力します。

```
/usr/opensv/netbackup/bin/jnbSA &
```
- 3 root ユーザーのパスワードを入力します。
クラスター環境では、NetBackup 管理コンソールにログインするときに、[ホスト (Host)]フィールドに仮想ホスト名を指定します。
- 4 [ログイン (Login)]をクリックします。

- 5 構成を開始するには、管理コンソールで「開始 (Getting Started)」をクリックします。
- 6 最初の「開始 (Getting Started)」画面で内容を確認し、「次へ (Next)」をクリックします。

次の画面はストレージデバイスの構成を求めるプロンプトを表示します。

メモ: オペレーティングシステムで動作するようにデバイスを構成する必要がある引き続きあったらウィザードを閉じます。最初にそれらのデバイスをデバイスとオペレーティングシステムのベンダーによって指定されたように構成する必要があります。

デバイスの構成ウィザードについて

バックアップを実行する前に、NetBackup 用のストレージデバイスを定義する必要があります。このウィザードに従って、処理を行います。ただし、お使いのオペレーティングシステム用のストレージデバイスが正しく構成されている必要があります。NetBackup は、デバイスが正しく取り付けられていない、または正しく構成されていない場合は、正常に動作しません。

p.22 の「ストレージデバイスの構成について」を参照してください。

クラスタ環境では、すべてのストレージデバイスをアクティブノードから構成します。フェールオーバー対応 NetBackup サーバーでは、NetBackup がインストールされている各ノードにすべてのデバイスを接続することをお勧めします。

手順について詳しくは、『NetBackup マスターサーバーのクラスタ化管理者ガイド』を参照してください。

<http://www.veritas.com/docs/DOC5332>

このウィザードでは、次の処理を実行できます。

- バックアップデバイス用のホストのスキャン
- 自動検出されたデバイスの確認
- ドライブ構成の確認と修正
- デバイス構成の更新

ウィザードはデバイスを構成するとき次の情報を示します。

デバイスの構成

- ウィザードによって[デバイスホスト (Device Hosts)]画面が表示されたら、デバイスを自動検出および構成するホストを指定する必要があります (NetBackup Enterprise Server のみ)。
- ウィザードによって[バックアップデバイス (Backup Devices)]画面が表示されたら、デバイスのリストが完全かつ正確であることを確認します。既知のバックアップデバイスがこのリストに表示されない場合は、次の手順を実行します。
 - バックアップデバイスが物理的にホストに接続されていることを確認します。
 - すべての指定したデバイスとオペレーティングシステムのベンダーのインストール手順が正常に実行されることを確認します。
 - すべてのドライブが適切なデバイスに定義されていることを確認します。ドライブを移動する必要がある場合は、ドライブを選択して正しい移動先へドラッグします。
- クラスタでは、各ノードにおいてストレージデバイスの構成が実行されていることを確認します。アクティブノードで始め、そして別のノードに NetBackup のアクティブノードを移動し、そのノードでストレージデバイスの構成を実行します。NetBackup が実行されているクラスタの各ノードに対してこの手順を繰り返します。

メモ: デフォルトでは、ロボットデーモンや NetBackup アドオン製品で障害が発生しても、NetBackup はフェールオーバーされません。ただし、ロボットデバイスや NetBackup アドオン製品を構成して、これらで障害が発生した場合に NetBackup をフェールオーバーするようにできます。オペレーティングシステムは、フェールオーバーするように NetBackup を構成する前に、構成されているロボットを認識する必要があります。フェールオーバーの構成について詳しくは、『NetBackup マスターサーバーのクラスタ化管理者ガイド』を参照してください。

<http://www.veritas.com/docs/DOC5332>

ストレージユニットの定義

- [ストレージユニットの構成 (Configure Storage Units)] 画面で、ストレージユニットを定義します。システムがテープデバイスを備えていない場合は、ディスクストレージユニットを定義することで、データをディスクに格納できます。
- ストレージユニットのパスの入力には、次の規則を適用します。
 - 適切なパス区切り文字 (UNIX の場合はスラッシュ (/)、Windows の場合は円記号 (\)) を使用します。
 - Windows プラットフォームのドライブを区切る場合は、コロン (:) を使用します。
 - 次の文字だけを使用します。
アルファベット文字 (ASCII の A から Z および a から z)
数字 (0 から 9)
その他の文字: プラス記号 (+)、マイナス記号 (-)、アンダースコア (_) またはピリオド (.)

p.140 の「ボリュームの構成ウィザードについて」を参照してください。

ボリュームの構成ウィザードについて

ストレージデバイスを構成した後、開始ウィザードからボリュームの構成ウィザードを開始します。ただし、ディスクストレージ機能だけが使用可能な場合、このウィザードはスキップされます。

このウィザードは構成されたそれぞれのロボットのインベントリを開始することを可能にします。インベントリの実行中に新しいロボットメディアが検出されると、ボリュームデータベースは自動的に更新されます。また、スタンドアロンドライブで使用する新しいボリュームも定義できます。

スタンドアロンドライブのボリュームまたはボリューム構成について詳しくは、『NetBackup 管理者ガイド Vol. 1』を参照してください。

<http://www.veritas.com/docs/DOC5332>

メモ: クラスタ環境では、アクティブノードからボリュームを構成します。

このウィザードは次のタスクをすることを可能にします。

- ボリュームの構成用のデバイスの選択
- ロボットのインベントリの実行
- 新しいボリュームの作成
- 新しいボリュームグループの作成

ボリュームを構成し、インベントリを実行するときウィザードは次の情報を示します。

- | | |
|--------------------------------|--|
| <p>ロボットまたはデバイスのインベ
ントリ</p> | <ul style="list-style-type: none"> ■ NetBackup は、選択済みのロボットまたはデバイスのインベ
ントリを実行します。インベントリが完了した後に結果を表示
するには、[結果 (Results)] フィールドを参照してください ■ デバイスのインベントリが完了した後、ウィザードはどのデバ
イススロットがクリーニングメディアを含んでいるかを指定する
ように求めます。 <p>NetBackup をアップグレードした際に、すでにバーコード規
則が存在している場合は、クリーニングメディアに使用するス
ロットがバーコードリーダーによって自動的に検出されます。
クリーニングスロットを指定しない場合、NetBackup によって
すべてのメディア (クリーニングメディアを含む) が標準のメ
ディアと見なされ、上書きされます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ インベントリが完了した後、どのデバイススロットがクリーニ
ングメディアを含んでいるかを指定するように求められます。
[クリーニングメディアの識別 (Identify Cleaning Media)] 画
面で 1 つ以上のスロットをクリーニングテープとして指定する
と、[ロボットのインベントリ (クリーニングメディア) (Robot
Inventory (Cleaning Media))] 画面が表示されます。この画
面には、EMM データベースを更新した後の結果が表示され
ます。 <p>クリーニングメディアを指定しない場合、NetBackup によって
すべてのメディア (クリーニングメディアを含む) が標準のメ
ディアと見なされ、上書きされます。</p> |
| <p>スタンドアロンドライブ</p> | <ul style="list-style-type: none"> ■ デバイスのボリューム数を指定します。 ■ このウィザードでは、スタンドアロンドライブのクリーニングテ
ープを構成することはできません。 |
| <p>複数のドライブ形式</p> | <p>複数のドライブ形式を指定した場合は、次の項目が適用されま
す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 1 つのロボットドライブによって書き込まれるメディアは他のど
のドライブでも動作しないことがあります。この場合は、
NetBackup によって、ロボットに複数の形式のドライブが存
在すると見なされます。 ■ ロボットに複数の形式のドライブが存在する場合、ウィザード
ではロボットのインベントリを実行できません。 |

p.141 の「[カタログバックアップウィザードについて](#)」を参照してください。

カタログバックアップウィザードについて

NetBackup カタログはバックアップファイルとディレクトリの構成と場所についての情報を含んでいます。ディスクに障害が発生してカタログが消失した場合は、カタログバックアップを行うことによって、データのリストアとバックアップスケジュールを簡単に再開できるようになります。

したがって、データのバックアップを行う前に、カタログバックアップポリシーを構成する必要があります。

このウィザードはオンラインホットカタログバックアップのポリシーを作成することを可能にします。オンラインホットカタログバックアップでは、通常のクライアントバックアップの実行中にカタログをバックアップできます。

カタログバックアップのポリシーは次の情報を指定することを可能にします。

- カatalogバックアップの宛先
バックアップ先はどの構成されたストレージデバイスでもかまいません。追加のディザスタリカバリ保護用に、カタログバックアップのために第 2 の場所を指定できます。

メモ: NetBackup はディスクへのカタログバックアップをサポートしますが、ベリタス社はオフサイトに保管されるリムーバブルメディアにカタログをバックアップすることを推奨します。

- ディザスタリカバリのパスフレーズ。パスフレーズについての詳しい情報を参照できます。『Veritas NetBackup トラブルシューティングガイド』を参照してください。
- カatalogバックアップを行う日時
- カatalogバックアップからのリカバリに必要であるディザスタリカバリファイルの場所
次のガイドラインを使用してカタログバックアップを構成します。
- 他のすべてのファイルやデータがバックアップされる前にカタログバックアップポリシーを構成します。
- クラスタシステムの場合、アクティブ ノードからカタログバックアップポリシーを構成します。

カタログバックアップについて詳しくは、『NetBackup 管理者ガイド Vol. 1』の「NetBackup カatalogの保護」の章を参照してください。

<http://www.veritas.com/docs/DOC5332>

クラスタ環境のカタログバックアップを構成する方法に関しては『NetBackup マスターサーバーのクラスタ化管理者ガイド』を参照してください。

<http://www.veritas.com/docs/DOC5332>

バックアップポリシーの構成ウィザードについて

このウィザードでは、1 台以上のクライアントのグループのバックアップポリシーを定義できます。クラスタ環境では、アクティブノードからポリシーを構成します。

ウィザードに従って、次の項目を指定します。

- ポリシー名およびポリシー形式

- クライアント
- バックアップを行うファイルおよびディレクトリ
- バックアップ形式
- バックアップのローテーション
- バックアップの開始時刻

このウィザードでは、ポリシーを使用して実行するバックアップの形式を選択するように求められます。

表 7-2 は 利用可能なバックアップ形式を記述します。

表 7-2 バックアップ形式の説明

バックアップ形式	説明
完全バックアップ	ファイルリストで指定されたすべてのファイルをバックアップします。
増分バックアップ	ファイルリストに指定されたすべての変更ファイルのバックアップを行います。
差分バックアップ	差分増分バックアップとも呼ばれます。 最後の正常な増分バックアップまたは完全バックアップ以降に変更されているファイルのバックアップを行います。バックアップが一度も行われていない場合、すべてのファイルのバックアップが行われます。
累積バックアップ	累積増分バックアップとも呼ばれます。 最後の正常な完全バックアップ以降に変更されているファイルのみのバックアップを行います。バックアップが一度も行われていない場合、すべてのファイルのバックアップが行われます。
ユーザーバックアップ	特定のファイルをバックアップするためにユーザーによって手動で開始されます。

バックアップポリシーを作成する場合は、次のガイドラインを使用してください。

- バックアップポリシーの構成ウィザードの[クライアントリスト (Client List)]画面には、バックアップ対象のクライアントのリストが表示されます。このリストでクライアントの追加、変更または削除を行うことができます。
- このバックアップポリシーを使用して完全バックアップまたは増分バックアップを行う頻度を選択できます。また、バックアップの保持期間も選択できます。

バックアップポリシーの構成ウィザードの終了後、インストールの検証テストを実行するかどうかが尋ねられます。このテストを実行するには、NetBackup 管理コンソールの左ペイ

インストール後すぐにマスターサーバー上のクラウド構成ファイルを更新するかまたは **NetBackup 8.1.2** にアップグレードする

ンで[アクティビティモニター (Activity Monitor)]をクリックします。これで、バックアップジョブの進捗状況を監視できます。

インストール後すぐにマスターサーバー上のクラウド構成ファイルを更新するかまたは **NetBackup 8.1.2** にアップグレードする

NetBackup 環境でクラウドストレージを使用する場合には、NetBackup 8.1.2 をインストールするかまたはそのバージョンにアップグレードした直後に、NetBackup マスターサーバー上のクラウド構成ファイルを更新する必要がある場合があります。NetBackup 8.1.2 へのアップグレード後にクラウドプロバイダまたは関連の拡張機能がクラウド構成ファイルから利用できない場合、関連する操作は失敗します。

ベリタスはリリース間にもクラウド構成ファイルへの新しいクラウドサポートを継続的に追加します。NetBackup 8.1.2 の最終ビルドに含まれるクラウドストレージサポートは、クラウド構成パッケージのバージョン 2.4.3 に含まれるものと同じです。

クラウド構成ファイルの更新は、クラウド構成パッケージのバージョン 2.4.4 以降にクラウドストレージプロバイダが追加された場合にのみ必要です。バージョン 2.4.4 以降には次のクラウドサポートが追加されていますが、NetBackup 8.1.2 の最終ビルドには含まれていませんでした。

- Amazon (S3) – 中国 (Ningxia) 地域
- Kingsoft Standard Storage Service (KS3) – Standard (S3)
- Kingsoft Standard Storage Service (KS3) – Standard IA (S3)
- Veritas Cognitive Object Storage (S3)

最新のクラウド構成パッケージについては、次のテクニカルノートを参照してください。

https://www.veritas.com/support/ja_JP/article.100033434

クラウドストレージ構成ファイルの追加方法については、次のテクニカルノートを参照してください。

https://www.veritas.com/support/ja_JP/article.100039095

NetBackup ソフトウェアの アップグレード

この章では以下の項目について説明しています。

- [NetBackup のアップグレードについて](#)
- [NetBackup 8.x アップグレードポータルについて](#)

NetBackup のアップグレードについて

詳細なアップグレード情報については、NetBackup アップグレードポータルにある『Veritas NetBackup アップグレードガイド』を参照してください。次のリンクをクリックしてポータルにアクセスできます。

https://www.veritas.com/support/ja_JP/article.000115678

p.15 の「[Veritas Services and Operations Readiness Tools について](#)」を参照してください。

p.145 の「[NetBackup 8.x アップグレードポータルについて](#)」を参照してください。

NetBackup 8.x アップグレードポータルについて

NetBackup 8.x アップグレードポータルには、バージョン 8.1.2 へのアップグレードに必要な情報とその手順が含まれます。次に、ポータルへのリンクを示します。

https://www.veritas.com/support/ja_JP/article.000115678

ポータルのマニュアルに記述されているように、NetBackup 8.1.2 にアップグレードする必要があります。

NetBackup 8.1.2 へのアップグレードの計画と準備をサポートするため、ポータルで利用できる重要な情報を次に示します。

- **カタログバックアップ**
 アップグレードに失敗した場合に備えて、アップグレードの前に、カタログバックアップを作成し、カタログのバックアップを用意する必要があります。
- **NetBackup 8.1.2 の NetBackup カatalogチェック (NBCC) ユーティリティ**
 アップグレードの前に、カタログをチェックし、アップグレードの失敗の原因になる可能性のある不整合がカタログにないことを確認する必要があります。NBCC の結果がカタログの不整合を示した場合は、ガイダンスについて、ベリタス社のテクニカルサポートに補足情報を求める必要があります。
- **NetBackup OpsCenter 8.1.2 へのアップグレード**
 『Veritas NetBackup OpsCenter 管理者ガイド』には、NetBackup OpsCenter 8.1.2 へのアップグレードに関する重要な注意事項が記載されています。このアップグレードは、NetBackup 8.1.2 にアップグレードする前に実行する必要があります。
<http://www.veritas.com/docs/DOC5332>
- **カタログのクリーンアップ**
 正常なアップグレードを妨げる可能性のある不整合が現在の NetBackup カタログに含まれないようにする必要があります
- **NetBackup 8.1.2 へのアップグレード**
 カatalogのクリーンアップとNBCC の結果が許容可能であると宣言されて、NetBackup OpsCenter 8.1.2 にアップグレードした後に、NetBackup 8.1.2 へのアップグレードを開始します。

NetBackup 8.1.2 のアップグレード処理に関して質問または問題がある場合は、Veritas のテクニカルサポートに連絡してください。

p.15 の「[Veritas Services and Operations Readiness Tools について](#)」を参照してください。

NetBackup サーバーおよびクライアントソフトウェアの削除

この章では以下の項目について説明しています。

- [UNIX システムでの NetBackup サーバーソフトウェアの削除について](#)
- [UNIX および Linux システムでの NetBackup クライアントソフトウェアの削除について](#)
- [UNIX および Linux のサーバーおよびクライアントからの NetBackup の削除](#)
- [Windows システムでの NetBackup サーバーソフトウェアの削除について](#)
- [Windows サーバー、クラスタ、およびクライアントからの NetBackup サーバーおよびクライアントソフトウェアの削除](#)
- [Windows システムからの NetBackup LiveUpdate の削除](#)
- [Windows サーバーおよび Windows クライアントからの Java コンソールの状態データの削除について](#)
- [新しいメディアサーバーに全データを移行してクラスタ化されたメディアサーバーを削除する](#)

UNIX システムでの NetBackup サーバーソフトウェアの削除について

NetBackup の削除手順は、インストールされているすべてのアドオン製品と共に NetBackup を完全に削除します。各手順で、NetBackup を削除する前に、必要なすべてのデータを保存したり、アドオン製品を削除したりできるようになっています。

ベリタス社は NetBackup サーバーソフトウェアを削除するときに以下の順序を使うことを推奨します。

- すべての必要なデータを保存します。
このタスクは NetBackup を後日再インストールすることを計画している場合非常に重要です。
- NetBackup サーバーソフトウェアを削除する前にすべてのアドオン製品を削除します。
- NetBackup サーバーソフトウェアを削除します。

メモ: NetBackup サーバーソフトウェアの削除の一環として、セキュリティ証明書は自動的に削除されます。証明書を保持する場合は、NetBackup を削除する前に保存してください。

このトピックに関する詳細情報を参照できます。NetBackup を再インストールするときのホスト ID ベースの証明書の保持について詳しくは『NetBackup セキュリティおよび暗号化ガイド』を参照してください。

p.149 の「[UNIX および Linux のサーバーおよびクライアントからの NetBackup の削除](#)」を参照してください。

p.148 の「[UNIX および Linux システムでの NetBackup クライアントソフトウェアの削除について](#)」を参照してください。

UNIX および Linux システムでの NetBackup クライアントソフトウェアの削除について

UNIX/Linux クライアントから NetBackup を削除する場合は、次のガイドラインを参照します。

NetBackup クライアントソフトウェアを削除しても、PBX は削除されません。PBX を手動で削除する必要があります。このマニュアルのクライアントソフトウェアの削除手順には、このタスクを実行する方法を記述する手順が含まれています。

NetBackup クライアントソフトウェアの削除の一環として、セキュリティ証明書は自動的に削除されます。証明書を保持する場合は、NetBackup を削除する前に保存してください。

このトピックに関する詳細情報を参照できます。NetBackup を再インストールするときのホスト ID ベースの証明書の保持について詳しくは『NetBackup セキュリティおよび暗号化ガイド』を参照してください。

警告: PBX を実行する必要がある他のベリタスソフトウェア製品をクライアントで使用している場合、PBX を削除しないでください。

UNIX および Linux のサーバーおよびクライアントからの NetBackup の削除

この手順では、UNIX および Linux のサーバーおよびクライアントから NetBackup を削除します。NetBackup を正常に削除するための特定の作業の実行手順については、他のマニュアルの参照が必要となる場合もあります。

UNIX および Linux のサーバーおよびクライアントから NetBackup を削除する場合は、次のガイドラインを参照します。

NetBackup リレーショナルデー タベース (NBDB) の場所 /usr/opensv/db/data 内の NBDB ファイルをデフォルトのインストール場所から移動した場合、この手順ではそのファイルを削除する方法について説明しています。

クラスタ環境 NetBackup の削除を開始する前に、クラスタアプリケーションから NetBackup を削除する必要があります。クラスタのマニュアルの説明に従ってグループを削除した後で、NetBackup を削除できます。

仮想ホスト名のセキュリティ証明書は、NetBackup サーバーソフトウェアの削除の一環として、クラスタの共有ドライブから自動的に削除されます。

クラスタ内の各ノードから NetBackup を削除する必要があります。

PBX NetBackup を削除しても、PBX は削除されません。PBX を手動で削除する必要があります。この手順にはこのタスクを実行する方法を記述する手順が含まれています。

警告: PBX を実行する必要がある他のベリタスソフトウェア製品をクライアントで使用している場合、PBX を削除しないでください。

NetBackup 管理コンソール

NetBackup 管理コンソールは、NetBackup を削除するとき閉じる必要があります。これを行わないと、NetBackup により、手順の再度実行を強制するエラーが発生することがあります。

UNIX サーバーから NetBackup を削除する方法

- 1 サーバーまたはクライアントで **root** ユーザーとしてログオンします。
- 2 (該当する場合: サーバーのみ) カタログバックアップを実行します。
- 3 NetBackup 管理コンソールが開いている場合は、ここで閉じる必要があります。
- 4 (該当する場合: サーバーのみ) インストールされているアドオン製品から、重要なデータをすべて保存します。
- 5 次のコマンドを使って **NetBackup** または **Media Manager** デーモンを停止します。

```
/usr/opensv/netbackup/bin/bp.kill_all
```

- 6 次のコマンドを使ってインストール済みのアドオン製品を識別します。

AIX	lsllpp -L
HP-UX	swlist
Linux	rpm -qa
Solaris	pkginfo

リストされている 7 つのアドオン製品のいずれかを探します。

```
VRTSfrnb (Applies only to servers)
VRTSfrnbclt
VRTSjanb (Applies only to servers)
VRTSjanbclt
VRTSzshnb (Applies only to servers)
VRTSzshnbclt
VRTSnbsds (Applies only to servers)
```

見つかったアドオン製品を削除します。

- 7 (該当する場合: サーバーのみ) **Solaris** システムの場合にのみ、次のコマンドを実行します。

```
/usr/opensv/volmgr/bin/driver/sg.install -deinstall
```

- 8 次のコマンドを実行して、`/etc/vx/vrtslog.conf` ファイルに格納された VxUL マスター構成から NetBackup を登録解除します。

```
/usr/opensv/netbackup/bin/vxlogcfg -r -p 51216
```

-p オプションには、プロダクト ID (NetBackup は 51216) を指定します。

- 9 (該当する場合: サーバーのみ) BMR がサーバーでサポートされ、有効になっている場合、次のコマンドを使って関連ファイルを削除します。

```
/usr/opensv/netbackup/bin/bmrsetupmaster -undo -f
```

- 10 LiveUpdate を使用してすべての NetBackup 製品を登録解除するには、次のコマンドを入力します。

```
/usr/opensv/netbackup/bin/nblu_registration -r
```

- 11 (該当する場合: サーバーのみ) NBDB ファイルをデフォルトのインストール場所から移動した場合、次の手順を実行して手動で削除する必要があります。

- NBDB ファイルが存在する次のディレクトリに移動します。

```
/usr/opensv/db/data
```

- vxdbms.conf ファイルを開きます。

このファイルには、データベース関連のファイルのリストと、各ファイルのパスが記載されています。

- データベース関連の各ファイルを削除します。

- 12 (該当する場合: サーバーのみ) NetBackup ファイバートランスポートがサーバーでサポートされ、有効になっている場合、次のコマンドを使って関連ファイルを削除します。

```
/usr/opensv/netbackup/bin/admincmd/nbftsrv_config -d
```

- 13 適切なコマンドを次のように使用して、NetBackup 構成パッケージを削除します。

```
AIX          installp -u VRTSnbcfg
```

```
HP-UX        swremove VRTSnbcfg
```

```
Linux        rpm -e VRTSnbcfg
```

```
Solaris      pkgrm VRTSnbcfg
```

- 14 PureDisk をサポートするクライアントの場合は、次のコマンドを実行してすべての PureDisk ファイルを削除します。

```
/opt/pdde/pddeuninstall.sh -forceclean
```

- 15** (該当する場合: サーバーのみ) **MSDP** をサポートするクライアントの場合は、次のコマンドを実行してすべての **MSDP** ファイルを削除します。

```
/opt/pdde/pddeuninstall.sh -basedir /usr/opensv/pdde/ -ostdir
/usr/opensv/lib/ost-plugins/ -forceclean
```

メモ: 上のコマンドは、**3** つのパラメータ (`basedir`、`ostdir`、`forceclean`) および入力パスとして **2** つのディレクトリパラメータを受け取る単独のコマンドであることに注意してください。

- 16** (該当する場合: サーバーのみ) **NetBackup** サーバーパッケージを削除するには、次のコマンドを実行します。

メモ: 仮想ホスト名のセキュリティ証明書は、**NetBackup** サーバーソフトウェアの削除の一環として、クラスタの共有ドライブから自動的に削除されます。

このトピックに関する詳細情報を参照できます。**NetBackup** を再インストールするときのホスト ID ベースの証明書の保持について詳しくは、『**Veritas NetBackup セキュリティおよび暗号化ガイド**』を参照してください。

Linux	<code>rpm -e VRTSnetbp</code>
Solaris	<code>pkgrm VRTSnetbp</code> ■ インストール済みのパッケージ <code>VRTSnetbp</code> を削除するかどうか尋ねられたら、<code>y</code> を入力して、<code>Enter</code> キーを押します。 ■ スーパーユーザー権限を使用してパッケージの削除を続行するかどうかを尋ねられたら、<code>y</code> を入力して、<code>Enter</code> キーを押します。

- 17** 適切なネイティブコマンドを次のとおり使って **NetBackup-Java** ディスプレイコンソールを削除します。

AIX	<code>installp -u VRTSnbjava</code>
HP-UX	<code>swremove VRTSnbjava</code>
Linux	<code>rpm -e VRTSnbjava</code>
Solaris	<code>pkgrm VRTSnbjava</code>

- 18** 適切なネイティブコマンドを次のとおり使って **NetBackup Java Runtime Environment** を削除します。

AIX	<code>installp -u VRTSnbjre</code>
HP-UX	<code>swremove VRTSnbjre</code>
Linux	<code>rpm -e VRTSnbjre</code>
Solaris	<code>pkgrm VRTSnbjre</code>

- 19** 適切なネイティブコマンドを次のとおり使って **NetBackup クライアント** を削除します。

メモ: NetBackup サーバーソフトウェアの削除の一環として、セキュリティ証明書は自動的に削除されます。証明書を保持する場合は、**NetBackup** を削除する前に保存してください。

このトピックに関する詳細情報を参照できます。**NetBackup** を再インストールするときの **Host ID** ベースの証明書の保持について詳しくは『**NetBackup セキュリティ**および**暗号化ガイド**』を参照してください。

AIX	<code>installp -u VRTSnbclt</code>
HP-UX	<code>swremove VRTSnbclt</code>
Linux	<code>rpm -e VRTSnbclt</code>
Solaris	<code>pkgrm VRTSnbclt</code>

メモ: 実行している **NetBackup** プロセスとデーモンがある場合は、**NetBackup** の削除を成功させるために手動で終了します。

20 適切なネーティブコマンドを次のとおり実行して PBX を削除します。

メモ: PBX を実行する必要がある他のベリタスソフトウェア製品をサーバーで使用している場合、PBX を削除しないでください。

AIX	<code>installp -u VRTSspb</code>
HP-UX	<code>swremove VRTSspb</code>
Linux	<code>rpm -e VRTSspb</code>
Solaris	<code>pkgrm VRTSspb</code>

21 次のとおり適切なコマンドを使用して NetBackup 事前チェックパッケージを削除します。

AIX	<code>installp -u VRTSnbpck</code>
HP-UX	<code>swremove VRTSnbpck</code>
Linux	<code>rpm -e VRTSnbpck</code>
Solaris	<code>pkgrm VRTSnbpck</code>

22 `/usr/opensv` ディレクトリを削除します。

警告: 使用する `rm -` コマンドは、このコマンドを実行するコンピュータにインストールされているアドオン製品を削除します。

- `/usr/opensv` がシンボリックリンクであるかどうかを、次に示すコマンドで判定します。`/usr/opensv` がシンボリックリンクである場合は、実際のパスをメモしておきます。このパスは後続のコマンドに必要です。

```
file -h /usr/opensv
/usr/opensv: symbolic link to /opt/opensv
```

- `/usr/opensv` がシンボリックリンクの場合は、次に示すコマンドを実行します。

```
cd /usr/opensv このコマンドにより、シンボリックリンクが指すディレクトリ
(/opt/opensv など) に移動します。
```

```
ls ディレクトリの内容をリストします。削除しようとしている内容を確認
するには、この情報を確認します。
```

警告: 次の手順に進む前に、現在のディレクトリおよびサブディレクトリが削除対象であることを確認してください。異なるディレクトリを削除しないようにするには、前のコマンドを実行して現在のディレクトリを確認し、そのディレクトリ内のファイルを表示します。ディレクトリの場所と内容を確認したら、次のコマンドを使用してディレクトリを削除します。

```
cd /                ルートディレクトリに移動します。

rm -rf             directory 値には、file コマンドからの情報を入力します。こ
directory          のコマンドは、NetBackup バイナリを含んでいるディレクトリを削除
                   します。

                   例: rm -rf /opt/openssl

rm -f              シンボリックリンクを削除します。
/usr/openssl
```

- /usr/openssl が実際のディレクトリの場合は、次に示すコマンドを実行します。
rm -rf /usr/openssl

メモ: オペレーティングシステムによっては、/usr/openssl ディレクトリを削除するために rmdir コマンドが必要になる場合もあります。

```
rmdir /usr/openssl
```

23 Linux システムの場合のみ:

起動スクリプトと停止スクリプトを変更した場合は、次のコマンドを実行します。

```
/sbin/chkconfig --del netbackup
```

Linux のディストリビューションによっては、起動とシャットダウンのスクリプトは削除済みである場合があります。

p.133 の「[NetBackup の起動と停止のスクリプトについて](#)」を参照してください。

- 24** 表示されるスクリプトを削除します。オペレーティングシステムによっては、起動とシャットダウンのスクリプトは削除済みである場合があります。

AIX システムの場合 /etc/rc.netbackup.aix

HP-UX システムの場合 /sbin/init.d/netbackup
 /sbin/rc1.d/K001netbackup
 /sbin/rc2.d/S777netbackup

Linux Debian システムの
 場合 /etc.init.d/netbackup
 /etc/rc0.d/K01netbackup
 /etc/rc1.d/K01netbackup
 /etc/rc2.d/S95netbackup

Linux Red Hat システムの
 場合 /etc/rc.d/init.d/netbackup
 /etc/rc.d/rc0.d/K01netbackup
 /etc/rc.d/rc1.d/K01netbackup
 /etc/rc.d/rc2.d/S77netbackup
 /etc/rc.d/rc3.d/S77netbackup
 /etc/rc.d/rc5.d/S77netbackup
 /etc/rc.d/rc6.d/K01netbackup

次の起動スクリプトはサーバーでのみ実行され、NetBackup
 ファイバートランスポートがサーバーで有効になったときのみ表
 示されます。

/etc/rc.d/init.d/nbftserver
 /etc/rc.d/rc0.d/K03nbftserver
 /etc/rc.d/rc1.d/K03nbftserver
 /etc/rc.d/rc2.d/S21nbftserver
 /etc/rc.d/rc3.d/S21nbftserver
 /etc/rc.d/rc5.d/S21nbftserver
 /etc/rc.d/rc6.d/K03nbftserver

Linux SuSE システムの場合: /etc/init.d/netbackup
/etc/init.d/rc0.d/K01netbackup
/etc/init.d/rc2.d/S77netbackup
/etc/init.d/rc3.d/S77netbackup
/etc/init.d/rc5.d/S77netbackup
/etc/init.d/rc6.d/K01netbackup

次の起動スクリプトはサーバーでのみ実行され、NetBackup
ファイバートランスポートがサーバーで有効になったときのみ表
示されます。

/etc/init.d/nbftserver
/etc/init.d/rc2.d/K01nbftserver
/etc/init.d/rc2.d/S05nbftserver
/etc/init.d/rc3.d/K01nbftserver
/etc/init.d/rc3.d/S05nbftserver
/etc/init.d/rc5.d/K01nbftserver
/etc/init.d/rc5.d/S05nbftserver

その他のサーバーおよびク /etc/init.d/netbackup
ライアントの場合: /etc/rc0.d/K01netbackup
/etc/rc1.d/K01netbackup
/etc/rc2.d/S77netbackup

次の起動スクリプトはサーバーでのみ実行され、NetBackup
ファイバートランスポートがサーバーで有効になったときのみ表
示されます。

/etc/init.d/nbftserver
/etc/rc0.d/K03nbftserver
/etc/rc1.d/K03nbftserver
/etc/rc2.d/S21nbftserver

25 AIX システムの場合のみ:

- /etc/inittab ファイルで、次の NetBackup のエントリを削除します。

/etc/rc.netbackup.aix

- /etc/rc.shutdown ファイルで、次の行を削除します。

/etc/rc.netbackup.aix stop

26 次のとおり LiveUpdate コンポーネントを削除します。

- 最初に、次のファイルを調べて NetBackup が LiveUpdate を使う唯一の製品であるかどうかを確認します。

```
/etc/Product.Catalog.JavaLiveUpdate
```

- NetBackup が現在 LiveUpdate を使用する唯一の製品である場合は、次のコマンドを実行します。

```
/opt/Symantec/LiveUpdate/uninstall.sh -a
```

- LiveUpdate が /opt/Symantec ディレクトリにインストールされている唯一の製品である場合は、次のファイルを削除します。

```
rm -f /etc/Symantec.conf
```

メモ: 次の製品カタログファイルを削除する前に、空であることを確認してください。空のファイルのサイズは 0 バイトになります。製品カタログファイルが空でなければ、他の製品に必要であるため、ファイルを削除しないでください。

```
rm -f /etc/Product.Catalog.JavaLiveUpdate
```

- 27 root** ユーザーアカウントに対する NetBackup-Java アプリケーションの状態データを削除するには、次のように適切なコマンドを実行します。

警告: スラッシュ文字 (/) とピリオドまたはドット文字 (.) の間に空白を挿入しないでください (/ .veritas)。これらの文字の間に空白があると、ルート階層下のすべてのファイルが削除されます。

- すべてのリリースについて root ユーザーアカウントに対する NetBackup-Java アプリケーションの状態データを削除するには、次のコマンドを実行します。

```
/bin/rm -rf /.veritas
```

- 特定のリリースについて root ユーザーアカウントに対する NetBackup-Java アプリケーションの状態データを削除するには、次のコマンドを実行します。

```
/bin/rm -rf /.veritas/java/version
```

version は 6 桁の NetBackup バージョン番号です。たとえば、アップグレードが適用されていない NetBackup バージョン 8.0 は 800000 として入力します。

- 28 NetBackup-Java ユーザーに、\$HOME/.veritas ディレクトリが削除可能であることを通知します。**

\$HOME/.veritas と \$HOME/.veritas/java ディレクトリには、ユーザーが **NetBackup-Java** アプリケーションを終了するときに保存されるアプリケーションの状態情報が含まれます。保存される情報には、表の列の順序とサイズが含まれます。この処理によって、このディレクトリが削除されます (**root ユーザーのみ**)。

\$HOME/.java/.userPrefs/vrts に存在する common サブディレクトリは削除してもかまいません。

- 29 NetBackup アクセス制御機能が有効になっている場合、クライアントおよびサーバーにいくつかのファイルが配置されます。これらのファイルは、次のカテゴリに分類されます。**

- **NetBackup アプリケーションの一時ファイル**

このファイルは、**NetBackup** とともに削除されます。

- **個々のユーザーのキャッシュファイル**

これらのキャッシュファイルは、\$HOME/.vxss ディレクトリに存在します。このディレクトリを削除できることをすべてのユーザーに通知します。

ファイルは、**NetBackup** 管理コンソールでのシングルサインオン操作によってのみ、コンソールが実行されているホスト上の /.vxss ディレクトリに生成されます。これらのファイルは、終了機能を実行すると、**NetBackup** 管理コンソールによって削除されるため、通常、このディレクトリには一時ファイルは格納されません。ただし、システムがクラッシュした場合、このディレクトリのファイルは削除されません。データを損失せずにこれらのファイルを安全に削除するには、コンソールを停止してください。

また、**NetBackup** では、クライアントとサーバーの **NetBackup** アプリケーションのキャッシュ済みの証明書も作成されます。これらのファイルは、/.vxss ディレクトリに存在します。通常、これらのファイルには、ネットワークインターフェースの **DNS** エントリとの一貫性がある名前 (たとえば、machine.company.com) が付けられます。次に、ディレクトリエントリの例を示します。

```
/usr/openv/var/vxss/credentials/machine.company.com
```

```
/usr/openv/var/vxss/credentials/dhcpp
```

これらのファイルは、bpnbat -LoginMachine コマンドを実行すると、作成されます。このコンピュータに、後で **NetBackup** の再インストールを行う予定がある場合は、次のいずれかを実行します。

- 証明書を vxss/credentials ディレクトリに保持します。

- 証明書を保持しない場合は、**Root+AB** ブローカーで最初に設定されたコンピュータの ID パスワードを入力する必要があります。または、再インストール時に、**Root+AB** ブローカーでパスワードをリセットすることもできます。

Root+AB ブローカーについて詳しくは、『**NetBackup セキュリティおよび暗号化ガイド UNIX、Windows および Linux**』を参照してください。

<http://www.veritas.com/docs/DOC5332>

NetBackup アクセス制御機能およびその削除方法について詳しくは、『NetBackup セキュリティおよび暗号化ガイド』を参照してください。

<http://www.veritas.com/docs/DOC5332>

Windows システムでの NetBackup サーバーソフトウェアの削除について

NetBackup サーバーソフトウェアを削除するとき、処理によってサーバーから VERITAS/NetBackup ディレクトリが削除されます。

NetBackup サーバーソフトウェアを次のように削除できます。

- サーバーソフトウェア、構成とカタログ情報を削除します。
- サーバーソフトウェアを削除し、NetBackup 構成とカタログ情報を保存します。
NetBackup を再インストールする場合は、この手順を使用して、NetBackup を削除する前に構成、カタログおよびログファイルの情報を保存しておいてください。

メモ: NetBackup サーバーソフトウェアの削除の一環として、セキュリティ証明書は自動的に削除されます。証明書を保持する場合は、NetBackup を削除する前に保存してください。

このトピックに関する詳細情報を参照できます。NetBackup を再インストールするときのホスト ID ベースの証明書の保持について詳しくは『NetBackup セキュリティおよび暗号化ガイド』を参照してください。

メモ: アンインストール後に、一部のレジストリやディレクトリの情報が Windows コンピュータに残ります。これらのファイルが NetBackup Authentication Service または NetBackup Authorization Service のどちらかで使用中の可能性があるので、この動作は意図的なものです。

p.161 の「[Windows サーバー、クラスター、およびクライアントからの NetBackup サーバーおよびクライアントソフトウェアの削除](#)」を参照してください。

Windows サーバー、クラスタ、およびクライアントからの NetBackup サーバーおよびクライアントソフトウェアの削除

NetBackup ソフトウェアと NetBackup の構成情報とカタログ情報を削除するには、次の手順を使います。

NetBackup サーバーおよびクライアントソフトウェアを削除する方法

- 1 (該当する場合: クラスタのみ) グループを削除する場合は、クラスタのマニュアルの説明に従います。

複数のノードから NetBackup を一度に削除することはできません。

- 2 (該当する場合: サーバーとクラスタのみ) NetBackup 管理コンソールが開いている場合は閉じます。

(該当する場合: クライアントのみ) NetBackup のバックアップ、アーカイブ、リストアインターフェースが開いている場合は閉じます。

NetBackup を削除しようとしたときにこれらのインターフェースのいずれかが開いていると、エラーが発生してこの手順を再開するよう強制される場合があります。

- 3 スタートメニューで[設定]、[コントロールパネル]の順に選択します。
- 4 [コントロールパネル]ウィンドウで、インストール済みのプログラムとアプリケーションの適切なユーティリティを選択します。
- 5 [現在インストールされているプログラム (Currently Installed Programs)]のリストで、サーバーおよびクラスタの[Veritas NetBackup]をクリックします。クライアントの[Veritas NetBackup Client]を選択します。
- 6 [削除]をクリックします。

Windows 2008/Vista 以降のシステムの場合、[はい]をクリックして続行した後、PBX がまだ動作していることを知らせる別のダイアログボックスが表示されます。

ベリタス社は[アプリケーションを終了しない]をクリックすることを推奨します。(再起動が必要になります)]をクリックして NetBackup の削除を続行することを推奨します。PBX は削除のために必要に応じて自動的に停止し、再起動します。

- 7 (該当する場合: サーバーとクラスタのみ) 次のとおり、NetBackup の重複排除ユーザーディレクトリを削除します。

Documents and Settings ディレクトリで、purediskdbuser ディレクトリを削除します。

仮想ホスト名のセキュリティ証明書は、NetBackup サーバーソフトウェアの削除の一環として、クラスタの共有ドライブから自動的に削除されます。

NetBackup サーバーソフトウェアを削除して NetBackup の構成情報とカタログ情報を保存するには、次の手順を使います。

NetBackup 構成とカタログ情報を削除したり保存したりする方法

- 1 NetBackup 管理コンソールが開いている場合は、閉じます。
 NetBackup を削除しようとしたときにコンソールセッションが開いていると、この手順の再開を強制するエラーが発生することがあります。
- 2 スタートメニューで[設定]、[コントロールパネル]の順に選択します。
- 3 [コントロールパネル]ウィンドウで、インストール済みのプログラムとアプリケーションの適切なユーティリティを選択します。
- 4 [現在インストールされているプログラム (Currently Installed Programs)]のリストで、[Veritas NetBackup]をクリックします。
- 5 [変更 (Change)]をクリックします。これによって、NetBackup の変更、修復および削除を実行できます。
- 6 [Program Maintenance]ダイアログボックスで、[削除 (Remove)]を選択します。
- 7 [NetBackup のすべての構成、カタログおよびログファイルを削除する (Remove all NetBackup Configuration, Catalog, and Log files)]の横にあるチェックボックスのチェックを外して、この機能を無効にします。(このチェックボックスには、デフォルトでチェックマークが付いています。)
- 8 [次へ (Next)]をクリックします。
- 9 NetBackup アクセス制御機能が有効になっている場合、クライアントおよびサーバーにいくつかのファイルが配置されます。これらのファイルは、次のカテゴリに分類されます。

NetBackup アプリケーションの このファイルは、NetBackup とともに削除されます。
 一時ファイル

個々のユーザーのキャッシュ
ファイル

ユーザーのキャッシュファイルは、削除されずに次のような
ホームディレクトリに残ります。

```
user¥Local Settings¥Application
Data¥VERITAS¥NetBackup
```

ファイルは、NetBackup 管理コンソールでのシングルサイン
オン操作によってのみ、コンソールが実行されているホス
ト上の ¥NetBackup ディレクトリに生成されます。これらの
ファイルは、終了機能を実行すると、NetBackup 管理コン
ソールによって削除されるため、通常、このディレクトリには
一時ファイルは格納されません。ただし、システムがクラッ
シュした場合には、このディレクトリのファイルが残ることがあ
ります。データを損失せずにこれらのファイルを安全に削除
するには、コンソールを停止してください。

また、NetBackup では、クライアントとサーバーの
NetBackup アプリケーションのキャッシュ済みの証明書も
作成されます。これらのファイルは、¥NetBackup ディレク
トリ内に存在します。通常、これらのファイルには、ネットワ
ークインターフェースの DNS エントリとの一貫性がある名前
(machine.company.com など) が付けられます。次に、
ディレクトリエントリの例を示します。

```
user¥Local Settings¥Application
Data¥VERITAS¥NetBackup¥pc.comp.com
```

```
user¥Local Settings¥Application
Data¥VERITAS¥NetBackup¥dhcp
```

これらのファイルは、bpbdat -LoginMachine コマンドを
実行すると、作成されます。このコンピュータに、後で
NetBackup の再インストールを行う予定がある場合は、次
のいずれかを実行します。

- 証明書を ¥NetBackup ディレクトリに保持します。
- 証明書を保持しない場合は、Root+AB ブローカーで最
初に設定されたコンピュータの ID パスワードを入力す
る必要があります。または、再インストール時に、
Root+AB ブローカーでパスワードをリセットすることでも
できます。『NetBackup セキュリティおよび暗号化ガイド』
を参照してください。

<http://www.veritas.com/docs/DOC5332>

- 10 次のとおり NetBackup の重複排除ユーザーディレクトリを削除します。

メモ: この手順は、NetBackup の以前のバージョンからバージョン 8.1.2 にアップグレードした場合にのみ必要です。

Documents and Settings ディレクトリで、purediskdbuser ディレクトリを削除します。

Windows システムからの NetBackup LiveUpdate の削除

NetBackup LiveUpdate と Veritas LiveUpdate は同じ LiveUpdate エージェントを共有します。LiveUpdate を削除すると、NetBackup の更新やその他のベリタス製品の更新を自動的に配布できなくなります。

LiveUpdate を削除する前に、インストールされた他のベリタス製品が LiveUpdate を使わないことを確認してください。

次の手順を使用して Windows システムの LiveUpdate ファイルを削除します。

Windows システムの NetBackup LiveUpdate を削除する方法

- 1 [スタート]>[コントロールパネル]を選択します。
- 2 [コントロールパネル]ウィンドウで、インストール済みのプログラムとアプリケーションの適切なユーティリティを選択します。
- 3 [LiveUpdate]をクリックし、[削除]を選択します。

Windows サーバーおよび Windows クライアントからの Java コンソールの状態データの削除について

NetBackup Java コンソールは、ユーザー単位の状態データを保存しています。この情報にはユーザー設定、ツールバーの場所、および関連する設定が含まれています。

NetBackup Java コンソールをアンインストールした後に、次のフォルダを削除することによって、状態データを削除します。

`USERPROFILE_DIR\Veritas\Java\JAVA_VERSION`

- 移動ユーザープロファイルの場合は、`USERPROFILE_DIR` は `%APPDATA%` にあります。
- Windows 2008/Vista 以降のローカルユーザープロファイルの場合は、`USERPROFILE_DIR` は `%LOCALAPPDATA%` にあります。

- `JAVA_VERSION` は 6 桁の NetBackup のバージョン番号です。たとえば、アップグレードが適用されていない NetBackup バージョン 8.0 は 800000 になります。

例:

8.0 の NetBackup Java コンソールがインストールされた Windows 2008 システムの場合は、ローカルユーザーポリシー、Java コンソール状態フォルダは、`%LOCALAPPDATA%\Veritas\Java\800000` にあります。

新しいメディアサーバーに全データを移行してクラスタ化されたメディアサーバーを削除する

NetBackup 環境からクラスタ化されたメディアサーバーを削除できます。すべてのデータをクラスタから新しいスタンドアロンサーバーに移行してから古いクラスタサーバーを廃止する必要があります。

すべての NetBackup リソースを移行してメディアサーバーを廃止するために必要な手順については、『Veritas NetBackup 管理者ガイド Vol. 1』で詳しく説明しています。『Veritas NetBackup 管理者ガイド Vol. 1』で「メディアサーバーの廃止方法について」を参照してください。

https://www.veritas.com/support/ja_JP/article.DOC5332

参照先

この章では以下の項目について説明しています。

- [クラスタ化されたマスターサーバーの非アクティブノードで証明書を生成する](#)
- [NetBackup 応答ファイルについて](#)
- [NetBackup マスターサーバー Web サーバーのユーザーとグループの作成](#)
- [NetBackup Java Runtime Environment について](#)
- [レプリケーションディレクタを使用した NetApp ディスクアレイの使用](#)
- [NetBackup データベースに対するセキュリティ強化](#)
- [Veritas NetBackup マスターサーバーとドメインのサイズについてのガイダンス](#)

クラスタ化されたマスターサーバーの非アクティブノードで証明書を生成する

クラスタマスターサーバーのインストールまたはアップグレードが完了したら、すべての非アクティブノードで証明書を生成する必要があります。この手順は、クラスタの非アクティブノードのバックアップおよびリストアを成功させるために必要です。

クラスタ化されたマスターサーバーの非アクティブノードで証明書を生成する

メモ: 特に明記しない限り、すべてのコマンドは非アクティブノードから発行します

- 1 (該当する場合) すべての非アクティブノードをクラスタに追加します。
クラスタのすべてのノードが現在クラスタの一部ではない場合、最初にこれらをクラスタに追加します。このプロセスについて詳しくは、オペレーティングシステムのクラスタの手順を参照してください。
- 2 nbcertcmd コマンドを実行し、非アクティブノードに認証局の証明書を格納します。
UNIX の場合: `/usr/opensv/netbackup/bin/nbcertcmd -getCACertificate`
Windows の場合: `install_path¥NetBackup¥bin¥nbcertcmd -getCACertificate`
- 3 nbcertcmd コマンドを実行し、非アクティブノードでホスト証明書を生成します。
`nbcertcmd -getCertificate`
- 4 (該当する場合) nbcertcmd -getCertificate コマンドが失敗し、トークンが必要なことを示すエラーメッセージが表示される場合は、認証局からのトークンが必要です。表示されている手順を使用してトークンを取得し、正しく使用します。
 - アクティブノードで、必要な変更を許可するように、示されている通りに bpnbat コマンドを使用します。認証ブローカーを要求するメッセージが表示されたら、ローカルノード名ではなく、仮想サーバー名を入力します。
`bpnbat -login -loginType WEB`
 - アクティブノードで、nbcertcmd コマンドを使用してトークンを作成します。
`nbcertcmd -createToken -name token_name`
この手順ではトークン名は重要ではありません。コマンドを実行すると、トークン文字列値が表示されます。次のコマンドで必要になるため、この値をメモします。
 - 非アクティブノードで、nbcertcmd コマンドとともに認証トークンを使用して、ホスト証明書を格納します。
`nbcertcmd -getCertificate -token`
このコマンドでは、トークン文字列値が求められます。nbcertcmd -createToken コマンドから入手したトークン文字列値を入力します。

証明書に関する詳しい情報を参照できます。『Veritas NetBackup セキュリティおよび暗号化ガイド』で、マスターサーバーノードでの証明書の配備に関するセクションを参照してください。

NetBackup 応答ファイルについて

NetBackup 応答ファイル (`/tmp/NBInstallAnswer.conf`) は、次の目的で UNIX および Linux のインストール時とアップグレード時に使用されます。

- 一部のデフォルト値を上書きします。
- 対話式のインストール時の質問への回答を回避します。

- サポート対象のほとんどのオペレーティングシステムで **UNIX** および **Linux** クライアントの無人またはサイレントのインストールとアップグレードを実行します。

インストールスクリプトを実行する前にターゲットホストに **NetBackup** 応答ファイルを設定します。ファイルが存在しない場合はファイルを作成します。サポート対象のエントリを関連する情報とともに示します。

- `AUTHORIZATION_TOKEN=ABCDEFGHIJKLMNOP | SKIP`

このオプションは、自動的に認証または再発行トークンを使用してホスト証明書を取得するように **NetBackup** に指示します。`AUTHORIZATION_TOKEN` は大文字で 16 文字です。一部の環境では、バックアップおよびリストアが正常に動作するために認証トークンが必要です。この情報が必要な場合に、応答ファイルに指定されていないと、インストールは失敗します。`SKIP` を指定した場合、必要な認証トークンなしでインストールが続行します。この結果、インストール後に手動の手順が追加されます。このエントリは省略可能であり、クライアントとメディアサーバーの配備でのみ使われます。

- `CA_CERTIFICATE_FINGERPRINT=fingerprint | SKIP`

このエントリを使用すると、インストールまたはアップグレードで認証局 (CA) 証明書の指紋を自動的に検証します。証明書の指紋は、インストールまたはアップグレード中に **CA** から取得されます。指紋形式は 59 文字であり、0 から 9 の数字、A から F の英字およびコロンの組み合わせです (例:

`01:23:45:67:89:AB:CD:EF:01:23:45:67:89:AB:CD:EF:01:23:45:67`)。

`fingerprint` の値は、`SERVER= master_server_name` に指定されているサーバーの指紋である必要があります。セキュリティを設定せずにインストールまたはアップグレードを続行するには、`CA_CERTIFICATE_FINGERPRINT=SKIP` を指定します。このエントリはクライアントとメディアサーバーのインストールとアップグレードでは必須です。

- `CLIENT_NAME=client name | XLOCALHOSTX`

このエントリは、クライアントの名前を **NetBackup** に指示します。`XLOCALHOSTX` 値により、ローカルホストがクライアント名を提供できるようになります。このオプションを指定すると、単一のマスターサーバードメイン内のすべてのクライアントに同じ応答ファイルを使うことができます。これらのエントリは、`bp.conf` ファイルにも追加されます。このエントリはクライアントのインストールでは必須です。

- `MEDIA_SERVER = media_server_name`

このオプションは、指定されたホストを使用してこのクライアントに対するセキュリティ保護された **Web** 要求をトンネリングするように **NetBackup** に指示します。クライアントとマスターサーバー上の **NetBackup Web** サービスの間の通信が遮断される場合、トンネルが必要です。この通信は、**NetBackup** のインストールまたはアップグレード時にホスト証明書を手入するために必要です。応答ファイルには複数の `MEDIA_SERVER` エントリが存在することがあります。それぞれが `https` 要求のトンネリングの候補として使われます。これらのエントリは、`bp.conf` ファイルに追加されます。このエントリはクライアントのインストールおよびアップグレードでは省略可能です。

- `SERVER=master_server_name`

このエントリは、マスターサーバー名として指定されたホストを使用するように **NetBackup** に通知します。応答に複数のサーバーエントリがある場合、1 つ目がマスターサーバーとして使われます。これらのエントリは、`bp.conf` ファイルに追加されます。このエントリはクライアントのインストールとアップグレードでは必須です。

- `SERVICES=no`
このオプションを指定すると、インストールまたはアップグレードの後に **NetBackup** サービスが開始されなくなります。このオプションにより、インストールまたはアップグレードの完了後、**NetBackup** クライアントでサービスを開始する前に追加の構成手順を実行できます。このエントリはクライアントのインストールおよびアップグレードでは省略可能です。
- `WEBSVC_GROUP=custom_group_account_name`
このオプションは、デフォルトの **Web** サーバークラスタアカウント名を上書きするように **NetBackup** に通知します (`nbwebgrp`)。このグループはシステムに存在している必要があります。このオプションはマスターサーバーでのみ使用されます。
- `WEBSVC_USER=custom_user_account_name`
このオプションは、デフォルトの **Web** サーバーユーザーアカウント名を上書きするように **NetBackup** に通知します (`nbwebsvc`)。このアカウントはシステムに存在している必要があります。このオプションはマスターサーバーでのみ使用されます。

NetBackup マスターサーバー Web サーバーのユーザーとグループの作成

NetBackup 8.0 より、**NetBackup** マスターサーバーには、重要なバックアップ操作をサポートするための構成済み **Web** サーバーが含まれます。この **Web** サーバーは、権限が制限されているユーザーアカウント要素の下で動作します。これらのユーザーアカウント要素は、各マスターサーバー（またはクラスタ化されたマスターサーバーの各ノード）で使用できる必要があります。

メモ: セキュリティのため、管理者またはスーパーユーザー権限を持つ **Web** サーバーユーザーまたはグループは作成しないでください。

多数の手順を実行すると、オペレーティングシステムでユーザーとグループを作成できます。特定のいくつかの方法を示していますが、他の方法でも同じ目標を達成できる可能性があります。ホームディレクトリのパス、ユーザー名、およびグループ名はハードコードされていないため、変更することができます。デフォルトのローカルユーザー名は `nbwebsvc`、デフォルトのローカルグループ名は `nbwebgrp` です。ユーザーとグループには、デーモンを実行するための十分なアクセス権がある必要があります。

このトピックに関する詳細情報を参照できます。

p.33 の「**UNIX および Linux のインストールおよびアップグレード要件**」を参照してください。

オペレーティングシステム固有のアカウントとグループの要件に注意してください。

- **UNIX および Linux** のクラスタ環境では、すべてのクラスタノードでローカルアカウントが一貫して定義されていることを確認します。UID は、ローカルアカウントごとに同じである必要があります。UNIX で LDAP アカウントを使うことができます。
- **Windows** のクラスタ化されたマスターサーバーでは、ドメインアカウントを使用する必要があります。非クラスタ環境ではドメインアカウントを使用できますが、必須ではありません。
- **Windows** のクラスタ化されたマスターサーバーでは、ドメイングループを使用する必要があります。

これらの要件のいずれかが満たされない場合、NetBackup マスターサーバーのインストールは失敗します。Windows では、インストールプロセスの一部として、ユーザーアカウントのパスワードを指定するように求められます。

メモ: Web サーバーアカウントに関連付けられたパスワードの期限が初期構成後に切れた場合、NetBackup はパスワードの期限が切れたことを通知しません。アカウントとパスワードはオペレーティングシステムが管理するため、この動作は正常であり、想定どおりです。

Web サーバーがアクティブなままである限り、アカウントと Web サーバーは正常に動作し続けます。

Web サーバーを再起動したときや、nbwmc サービスを再起動しようとした場合、サービスは期限切れのパスワードが原因で失敗します。オペレーティングシステムの該当する領域に移動し、正しいパスワードを入力して、サービスを再起動します。

Web サービスアカウントとグループに関する詳しい情報を参照できます。『Veritas NetBackup セキュリティおよび暗号化ガイド』の Web サービスアカウントのセクションを参照してください。

ユーザーアカウントとローカルグループを作成する方法:

- 1 ローカルグループを作成します。
 - **Linux および UNIX** の場合: # groupadd nbwebgrp
 - **Windows** の場合:C:\>net localgroup nbwebgrp /add
- 2 ローカルユーザーを作成します。
 - **Linux および UNIX** の場合: # useradd -g nbwebgrp -c 'NetBackup Web Services account' -d /usr/opensv/wmc nbwebsvc
 - **Windows** の場合:C:\>net user nbwebsvc strong_password /add

- 3 (該当する場合) Windows の場合のみ、ユーザーをグループのメンバーにします。

```
C:\¥>net localgroup nbwebgrp nbwebsvc /add
```

- 4 (該当する場合) Windows の場合のみ、[サービスとしてログオン]権限をユーザーに付与します。

- [コントロールパネル]、[管理ツール]、[ローカルセキュリティポリシー]の順に進みます。
- [セキュリティの設定]で、[ローカルポリシー]、[ユーザー権利の割り当て]の順にクリックします。
- [サービスとしてログオン]を右クリックして[プロパティ]を選択します。
- ローカルユーザーを追加します。デフォルトのローカルユーザー名は nbwebsvc です。
- 変更を保存して[サービスとしてログオン]の[プロパティ]ダイアログボックスを閉じます。

NetBackup Java Runtime Environment について

次の製品のいずれかをインストールするときに、ベリタスはカスタマイズされたバージョンの Java Runtime Environment (JRE) をインストールします。

- NetBackup マスターサーバー、メディアサーバー、またはクライアントソフトウェア
- NetBackup リモート管理コンソール
- OpsCenter サーバー、エージェント、または View Builder

カスタマイズされたバージョンの JRE には、標準 JRE インストールに含まれる man、plugin など、すべてのディレクトリが含まれているわけではありません。

以前は、NetBackup または OpsCenter と共にインストールされる JRE パッケージは、いずれかのソフトウェアの以降のリリースにアップグレードした場合にのみ更新されました。nbcomponentupdate ユーティリティを使用して、JRE を以下の製品でサポートされているバージョンに更新することができます。

- NetBackup マスターサーバー、メディアサーバー、またはクライアントソフトウェア
- NetBackup リモート管理コンソール
- OpsCenter サーバー、エージェント、または View Builder

メモ: このユーティリティを使用して、VMware vCenter 用 NetBackup プラグイン用の JRE を更新することはできません。

システムで NetBackup 8.0 以降を実行している場合、表 10-1 を使用して、nbcomponentupdate ユーティリティの場所を特定します。

表 10-1 JRE 更新ユーティリティの場所

製品	オペレーティングシステム	パス
NetBackup	Windows	<code>install_path¥netbackup¥java¥nbcomponentupdate.exe</code>
	UNIX または Linux	<code>/usr/opensv/java/nbcomponentupdate</code>
OpsCenter Server	Windows	<code>install_path¥server¥bin¥nbcomponentupdate.exe</code>
	UNIX または Linux	<code>SYMCOpsCenterServer/bin/nbcomponentupdate</code>
OpsCenter Agent	Windows	<code>install_path¥agent¥bin¥nbcomponentupdate.exe</code>
OpsCenter View Builder	Windows	<code>install_path¥viewbuilder¥bin¥nbcomponentupdate.exe</code>
リモート管理コンソール	Windows	<code>install_path¥java¥nbcomponentupdate.exe</code>

NetBackup 7.7.x 以前がある場合、以下の場所から nbcomponentupdate ユーティリティをダウンロードします。

https://www.veritas.com/support/ja_JP/article.000115043

nbcomponentupdate コマンドとそのパラメータに関する詳細情報を参照できます。

『NetBackup コマンドリファレンスガイド』

NetBackup とともにインストールされる JRE は、その NetBackup リリースに対してサポートされているメジャーバージョンです。サポートされているメジャー JRE バージョンのマイナーバージョンに更新するには、このユーティリティを使用します。たとえば、NetBackup 8.0 が JRE 1.8.0.31 をインストールした場合、サポート対象のメジャーバージョンは 1.8 です。JRE 1.8.0.92 に更新するには、このユーティリティを使用します。

ベリタスは、JRE ベンダーがインストール済みの JRE バージョンに対し End-of-Life を宣言した場合にのみ別のメジャー JRE バージョンに更新することを推奨します。お使いの環境にインストール済みの JRE バージョンでもある JRE 1.8 に対し、JRE ベンダーが End-of-Life を宣言した場合は、JRE 1.9 に更新します。

JRE を更新しようとする前に、NetBackup などの製品を終了します。更新時に製品が実行中である場合、ユーティリティが終了し、製品を終了するように求めるエラーメッセージが表示されます。

注意: JRE 更新が進行中の場合、ユーティリティを停止しないでください。このアクションにより、JRE を使用する NetBackup などの製品が不安定になる可能性があります。

追加バージョンの JRE がその他のアプリケーションに対してシステムにインストールされている場合、NetBackup JRE はそれらの JRE と干渉しません。NetBackup JRE は Web ブラウザとの統合を行ったり、Java アプレットまたは Web Start の実行を許可したりするものではありません。したがって、NetBackup JRE は Java アプレットまたは Web Start の脆弱性を利用するタイプのブラウザベースの攻撃で使用されることがありません。

NetBackup JRE アラートに関する詳しい情報を参照できます。

<http://www.veritas.com/docs/TECH50711>

レプリケーションディレクタを使用した NetApp ディスクアレイの使用

レプリケーションディレクタは、2 つの異なる状況で NetApp ディスクアレイのスナップショットをレプリケートできます。

- 非クラスタモード: 7 モードは、NAS および SAN におけるスナップショットのレプリケートに使われています。プラグインは、OCUM (OnCommand Unified Manager) サーバー (図 10-1) にインストールする必要があります。
- クラスタモード: クラスタ化されたデータ ONTAP (cDOT) は、ストレージの仮想マシン間 (SVM または vServer) におけるスナップショットのレプリケートに使用します。サポート対象は、NAS のみです。
プラグインは、OCUM サーバー、マスターサーバー、またはあらゆるメディアサーバー (図 10-2) 以外の Windows コンピュータまたは Linux コンピュータにインストールする必要があります。

モードは両方とも同じテクノロジーをサポートします。

表 10-2 では、NetBackup バージョンと NetApp プラグインの間の関連について説明します。

表 10-2 バージョンの互換性

NetBackup バージョン (NetBackup Version)	NetApp プ ラグイン バージョン	説明	OCUM サーバーに対するマス ターサーバーの比	サポート対象のポリシー 形式
7.7以降	1.1	7 モードのサポートがすべ ての NetBackup 7.7 レプリ ケーションディレクタ機能に 提供されます。	1 つのマスターサーバーは多数の OCUM サーバーをサポートします。 プラグインは、OCUM (OnCommand Unified Manager) サーバーにインストールする必要が あります。	MS-Windows、標準、 NDMP、VMware、Oracle
	1.1 P1	7 モードのサポートがすべ ての NetBackup 7.7 レプリ ケーションディレクタ機能に 提供されます。	1 つのマスターサーバーは多数の OCUM サーバーをサポートします。	MS-Windows、標準、 NDMP、VMware、Oracle
	2.0	cDOT サポートを提供しま す。	1 つのマスターサーバーは多数の OCUM サーバーをサポートします。 プラグインは、OCUMサーバー、マ スターサーバー、またはあらゆるメ ディアサーバー以外の Windows コンピュータまたは Linux コン ピュータにインストールする必要が あります。	MS-Windows、標準、 NDMP、VMware、Oracle

メモ: プラグインをアップグレードする前に NetBackup 環境全体をアップグレードする
必要があります。すべてのマスターサーバー、メディアサーバー、クライアント、プラグインと
通信するホストをアップグレードします。

図 10-1 NetBackup と NBUPlugin for 7-mode 間の通信

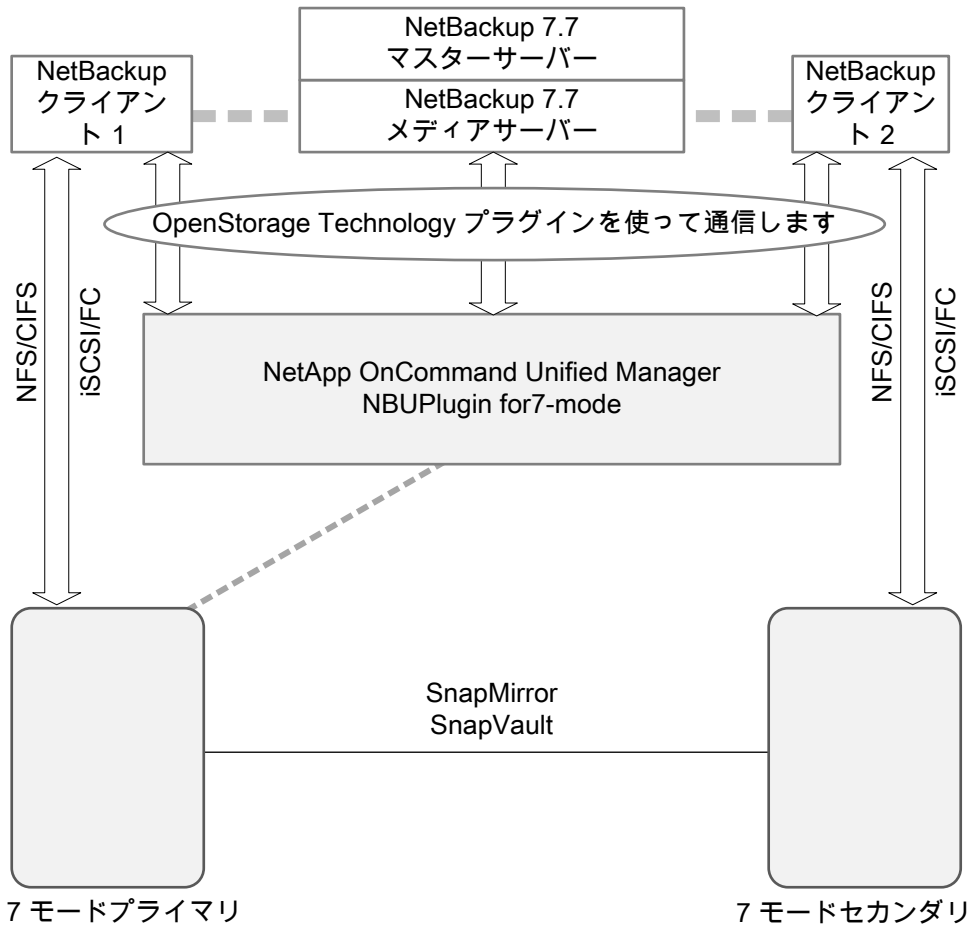
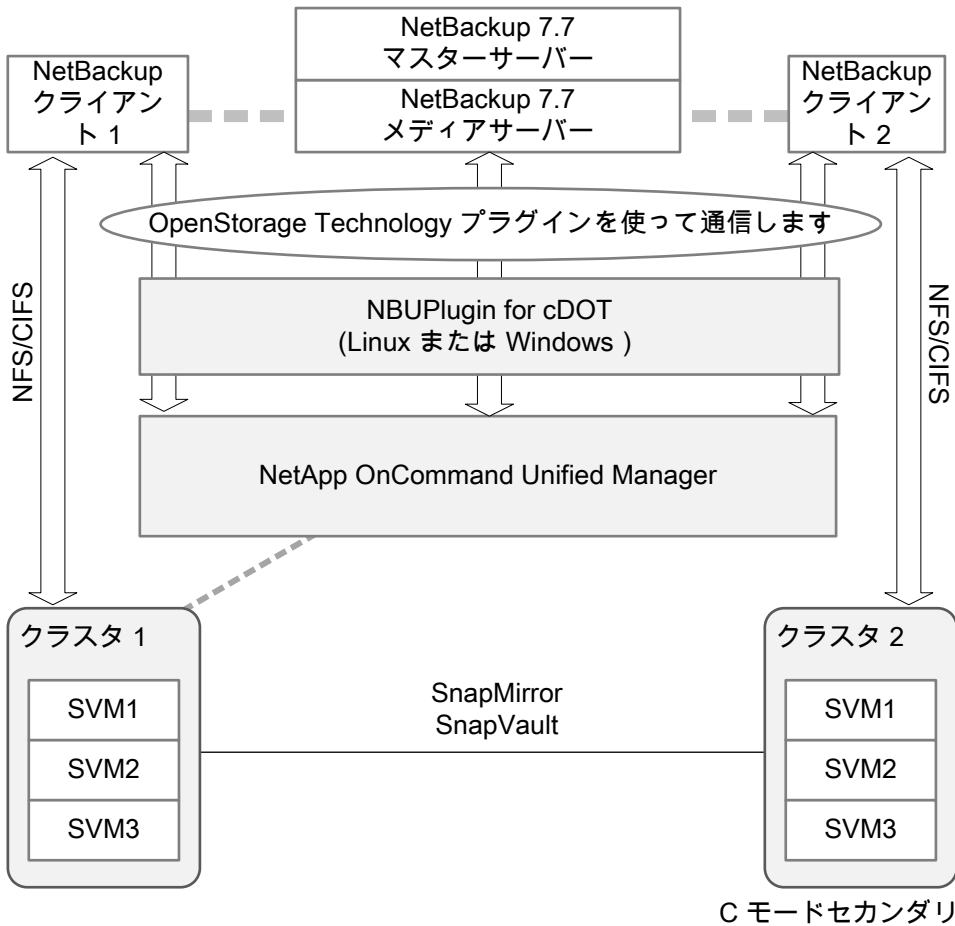


図 10-2 NetBackup と NBUPlugin for Clustered Data ONTAP 間の通信



プラグインのバージョンの判断

NBUPlugin のバージョンを判断するには、NBUPlugin がインストールされているシステムで次のバージョンファイルを検索します。

Windows: `Install_path\Program Files\Netapp\NBUPlugin\version.txt`

UNIX: `/usr/NetApp/NBUPlugin/version.txt`

ファイルの内容には、製品名、ビルドの日付、NBUPlugin のバージョンが記載されています。複数のプラグインがインストールされている場合は、両方のリストに表示されます。

プラグインのアップグレード

NetApp Plug-in for Veritas NetBackup をアップグレードするには、古いプラグインを使用するすべてのストレージライフサイクルポリシージョブがアップグレード前に完了していることを確認してください。

ストレージライフサイクルポリシーに関連付けられたすべてのジョブの完了、処理中、または未開始を判断するには、次のコマンドを使用します。

Windows の場合: %NetBackup%\bin\admincmd>nbstlutil.exe stlilist -U

UNIX の場合: /usr/opensv/netbackup/bin/admincmd/nbstlutil stlilist -U

NetBackup データベースに対するセキュリティ強化

NetBackup のセキュリティ変更の一部として、ベリタス社により NetBackup (NBDB) データベースのパスワードが変更される可能性があります。ユーザーが NetBackup データベースのパスワードをデフォルト値から変更している場合、パスワードの変更は行われません。デフォルトパスワードのままになっている NetBackup データベースが、新しいランダム生成されたパスワードにより更新されます。NetBackup のすべての新しいインストールでは、セキュリティ強化の一環として、ランダムに生成されたパスワードが NetBackup データベースに割り当てられます。このパスワードは、インストールまたはアップグレード中には提供されません。このランダムに生成されたパスワードを変更するには nbdb_admin コマンドを使用します。nbdb_admin コマンドについて詳しくは、『Veritas NetBackup コマンドリファレンスガイド』を参照してください。

Veritas NetBackup マスターサーバーとドメインのサイズについてのガイダンス

NetBackup マスターと NetBackup ドメイン用に最適な構成を判断するために、データ保護を包括的に評価することをお勧めします。表示される情報は、ハードリミットではなくガイドラインを示すものです。NetBackup は、適切なリソースを使用して、ジョブ数を増やして拡大できます。

- カタログサイズは、1 から 3 TB を超えることはできません。

NetBackup のカタログサイズの主要な要素は、使用を計画しているデータ保護方法に基づきます。カタログが 3 TB を超える場合は、Veritas アカウント SE に詳細を問い合わせてください。

大規模な環境では、カタログディスクに優れた読み込みと書き込みのパフォーマンスが必要です。

- EMM データベース内のデバイス数は 1,500 を超えないようにしてください。
- メディアサーバーの数は 100 を超えないようにしてください。

- ジョブの数は、24 時間あたり 30,000 個を超えないようにしてください。
- プロセッサの数は、マスターサーバーがどこまで拡張できるかに影響します。表 10-3 に追加情報を提供します。

表 10-3 サイズの決定に関するガイドライン

CPU の数	メモリの最小要件	1 日あたりのジョブ の最大数	マスターサーバーご とのメディアサー バーの最大数
4	16 GB	10,000	20
8	32 GB	20,000	50
16	64 GB	30,000	100

メモ: プロセッサとメモリの要件について、追加の推奨事項があります。

p.33 の「[UNIX および Linux のインストールおよびアップグレード要件](#)」を参照してください。

p.54 の「[Windows および Windows クラスタのインストールおよびアップグレード要件](#)」を参照してください。

記号

アクセス制御

ファイルの削除 163

アップグレードポータル

NetBackup 8.x について 145

アンインストール

Windows Java コンソール 164

Windows サーバソフトウェア 160

インストール

Linux クライアントの方式 106

NetBackup リモート管理コンソール 87

NetBackup 管理コンソール 84

UNIX クライアントのローカルインストール 107

UNIX クライアントの方式 106

Windows クライアントの方式 91

新しいクラスタグループ 73

複数バージョンの NetBackup 管理コンソール、

Windows 85

複数バージョンの NetBackup 管理コンソール、制限とガイドライン 85

インストールする方法

新規インストールの場合の順序 23

インストールの制限

Windows クライアント 91

インストールガイドライン

Solaris システム 37

UNIX クラスタ 38

インストールスクリプト

bp.conf ファイル 38

サーバーのインストール 38

サービスファイル 38

インストール後の作業

クラスタインストール 77

インストール要件

UNIX システムおよび Linux システム 33

Windows システム 54

オペレーティングシステム

ストレージデバイスの構成 22

オンラインホットカタログ

バックアップ 141

カタログバックアップの構成

NetBackup ウィザード 141

ガイドライン 141

ガイドライン

カタログバックアップの構成 141

クライアント

Linux クライアントのリモートインストール方式について 121

UNIX クライアントのリモートインストール方式について 121

インストール 124

サーバーのアップグレードの後のアップグレード 128

サーバーへのコピー 126

セキュリティ保護 124

ソフトウェアのプッシュインストール 126

信頼できるクライアント 124

初期インストール後の追加 126

クライアントのアップグレード

サーバーをアップグレードした後 128

クライアントのインストール

Linux の方式 106

UNIX の方式 106

Windows の方式 91

概要 89

クライアントのインストール方式

リモート Linux クライアント 121

リモート UNIX クライアント 121

クライアントソフトウェア

Windows でのローカルインストール 94

クライアントソフトウェアのインストール

セキュリティ保護されたクライアント 124

信頼できるクライアント 124

クライアントソフトウェアのプッシュインストール 126

クライアントリストの作成

bpplclients コマンド 130

クライアント形式のソフトウェア

マスターサーバーへのインストール 52

クラスタ

プライベートネットワーク 74

クラスタのインストールおよびアップグレード

要件 61

- クラスタインストール
 - インストール後の作業 77
- クラスタグループ
 - 新規インストール 73
 - 構成 75
- クラスタグループ名 74
- クラスタ化された Windows 環境でのインストール
 - サーバーソフトウェア 62
- コマンド
 - bpplclients 130
- サイレントインストール
 - Windows クライアント 94、103
- サブネットマスク 73
- サポートされているロボット形式
 - このリリースでの検索 23
- サーバー
 - Windows でのサイレントインストール 79
- サーバーのインストール
 - Red Hat Linux の要件 35
 - インストールスクリプト 38
- サーバーのインストール要件
 - Red Hat Linux 35
- サーバーの変更操作 125
- サーバーへのクライアントのコピー 126
- サーバーソフトウェア
 - Windows でのローカルインストール 62
 - クラスタでの削除 161
 - クラスタ化された Windows 環境でのインストール 62
 - リモートで Windows にインストール 62
- サーバーソフトウェアの削除
 - UNIX システムの場合 148
- サービスファイル
 - インストールスクリプト 38
- システム要件
 - Windows クライアント 91
- スクリプト
 - client_config 123
 - install_client_files 122
 - sftp を使用した install_client_files 123
 - ssh を使用した install_client_files 122
- ストレージデバイスの構成
 - オペレーティングシステム 22
 - 概要 22
- セキュリティ証明書
 - NetBackup ホスト用 25
- ソフトウェアの削除
 - NetBackup サーバー 161
- ソフトウェアインストール
 - マスターサーバー 39
 - メディアサーバー 46
- ドメインネームサービス (DNS) 35
- ネットワーク情報サービス (NIS) 35
- バックアップ
 - オンラインホットカタログ 141
- バージョン、NetApp NBUPugin の判断 173
- バージョンの混在のサポート
 - NetBackup 8.x 14
- パスワードなしの ssh
 - リモート UNIX クライアントのインストール 124
- パブリックネットワーク 74
- ファイル
 - パスワードなしの ssh 124
- ファイルの削除
 - アクセス制御 163
- プッシュインストール
 - UNIX クライアント 107
- プライベートネットワーク
 - クラスタ 74
- プラグイン
 - NetApp 173
 - NetApp からのアップグレード 177
- プリインストールチェッカー
 - 概要 24
- マスターサーバー
 - クライアント形式のソフトウェアのインストール 52
 - ソフトウェアインストール 39
- マスターサーバーへのインストール
 - クライアント形式のソフトウェア 52
- メディアサーバー
 - ソフトウェアインストール 46
- ユーザーアカウント
 - Web サーバー 11
- ユーザー主導の操作
 - ユーザー権限 91
- ユーザー権限
 - Windows クライアント 91
 - ユーザー主導の操作 91
- ライセンス
 - 要件 27
- ライセンスキー
 - よくある質問事項 29
- ライセンスキーエントリ
 - 概要 28
- リモート
 - UNIX クライアントのインストール方式について 121
- リモート UNIX クライアントのインストール
 - sftp 方式 123
 - ssh 方式 122

- パスワードなしの **ssh** 124
- リモートで **Windows** にインストール
 - サーバーソフトウェア 62
- リモートインストール
 - Linux** クライアントの方式について 121
 - UNIX** クライアント 107
 - UNIX** クライアントの方式について 121
 - Windows** クライアント 93
 - Windows** クライアントソフトウェア 94
- ロボット形式
 - サポート対象の検索 23
- ローカルインストール
 - UNIX** クライアント 106
 - Windows** のクライアントソフトウェア 94
 - Windows** クライアント 92
- 互換性
 - NetBackup-Java** 106
- 仮想 IP アドレス 73
- 仮想ホスト名 74
- 制限とガイドライン
 - 複数バージョンの **NetBackup** 管理コンソールのインストール 85
- 削除
 - Windows Java** コンソール 164
 - Windows** サーバーソフトウェア 160
 - クラスタのサーバーソフトウェア 161
- 新規インストール
 - 順序 23
- 方式
 - Linux** クライアントのインストール 106
 - UNIX** クライアントのインストール 106
 - Windows** クライアントのインストール 91
- 概要
 - Linux** クライアントのインストール方式 106
 - Linux** クライアントのリモートインストール方式 121
 - Linux**でのクライアントインストール 104
 - NetBackup** の **Linux** クライアントの削除 148
 - NetBackup** の **UNIX** クライアントの削除 148
 - NetBackup** カタログバックアップの構成 141
 - UNIX** でのクライアントインストール 104
 - UNIX** と **Linux** のインストール要件 33
 - UNIX** クライアントのインストール方式 106
 - UNIX** クライアントのリモートインストール方式 121
 - Windows** でのクライアントインストール 90
 - Windows** クライアントのインストール方式 91
 - Windows** クライアントのシステム要件 91
 - Windows** 版 **NetBackup** リモート管理コンソール 86
 - クライアントのインストール 89
 - ストレージデバイスの構成 22

- プリインストールチェッカー 24
- ライセンスキーエントリ 28
- 構成
 - NetBackup** カタログバックアップ 141
 - クラスタグループ 75
- 要件
 - クラスタのインストールおよびアップグレード 61
 - ライセンス 27
- 証明書。「セキュリティ証明書」を参照
- 認証証明書。「セキュリティ証明書」を参照
- 順序
 - インストールの 23

B

- bp.conf** ファイル
 - インストールスクリプト 38
- bpplclients** コマンド 130
 - クライアントリストの作成 130

C

- client_config** スクリプト 123

G

- gunzip** コマンド
 - UNIX** クライアントのインストール 105
- gzip** コマンド
 - UNIX** クライアントのインストール 105

H

- hosts** ファイル 35

I

- install_client_files** スクリプト 122～123
- IPv4** クラスタ 73
- IPv6** クラスタ 74

L

- Linux** でのクライアントインストール
 - 概要 104
- Linux** クライアント
 - NetBackup** の削除 149
 - PBX** の削除について 148
 - インストール方法 106
- Linux** クライアントのインストール方式
 - 概要 106
- Linux** クライアントの追加 126

Linux サーバー

NetBackup の削除 149

N

NBUPlugin

アップグレード 177

バージョンの判別 176

NetBackup

インストールする方法 23

NetBackup 8.x

バージョンの混在のサポート 14

NetBackup 8.x へのアップグレード

アップグレードポータルについて 145

NetBackup LiveUpdate

Windows システムからの削除 164

NetBackup Product Improvement Program 25

NetBackup のアップグレード 145

NetBackup の削除

Linux クライアント 149

Linux サーバー 149

UNIX クライアント 149

UNIX サーバー 149

NetBackup の削除について

UNIX システムの場合 148

NetBackup アクセス制御

ファイルの削除 159

NetBackup ウィザード

カタログバックアップの構成 141

NetBackup カatalogバックアップの構成

概要 141

NetBackup クライアントのインストール

ローカル 107

NetBackup クライアントソフトウェア

UNIX クライアントの種類の追加 126

ローカルインストール 107

NetBackup サーバー

ソフトウェアの削除 161

NetBackup サーバーソフトウェア

UNIX での削除について 148

NetBackup ソフトウェアの削除

Linux クライアントについて 148

UNIX クライアントについて 148

Windows クライアント 161

NetBackup リモート管理コンソール

インストール 87

NetBackup 管理コンソール

Windows での複数バージョンのインストール 85

Windows での複数バージョンの削除 86

インストール 84

概要 84

NetBackup 電子ソフトウェア配布 (ESD) イメージ 22

NetBackup-Java

互換性 106

NetBackup Enterprise Server

構成ガイドライン 135

NetBackup Server の構成

概要 135

NetBackup ウィザード

開始 135

デバイス構成 138

バックアップポリシーの構成 142

ボリュームの構成 140

NetBackup 管理コンソール

開始方法 136

NetBackup サーバー

構成 135

NetBackup スクリプト

UNIX 133

起動と停止 133

NetBackup のストレージデバイス

構成 138

NetBackup ボリューム

構成 140

NTFS パーティション 94

P

PBX

Linux クライアントからの削除について 148

UNIX クライアントからの削除について 148

削除 149

非 Solaris からの削除 149

S

sftp 方式

UNIX クライアントのインストール 123

リモート UNIX クライアントのインストール 123

SORT

Veritas Operations Readiness Tools 16、20

Veritas Services and Operations Readiness Tools 15

ssh 方式

UNIX クライアントのインストール 122

リモート UNIX クライアントのインストール 122

U

UNIX

NetBackup スクリプト 133

UNIX でのクライアントインストール
概要 104

UNIX と Linux のインストール要件
概要 33

UNIX クライアント
NetBackup の削除 149
PBX の削除について 148
インストール方法 106
パスワードなしの ssh 124
プッシュインストール 107
リモートインストール 107
ローカルインストール 106～107、126

UNIX クライアントのインストール
sftp 方式 123
ssh 方式 122
パスワードなしの ssh 124

UNIX クライアントのインストール方式
概要 106

UNIX クライアントの追加 126

UNIX サーバー
NetBackup の削除 149

UNIX システムおよび Linux システム
インストール要件 33

V

verify
Windows クラスタのインストールまたはアップグレード 78

Veritas Operations Readiness Tools (SORT)
推奨アップグレード手順 20
推奨インストール手順 16

Veritas Services and Operations Readiness Tools (SORT)
概要 15

W

Web サーバー
ユーザーアカウント 11

Windows
Java コンソールの削除またはアンインストール 164
クラスタインストールの検証 78
クラスタインストール 62
サイレントインストール 79
サーバーソフトウェアの削除またはアンインストール 160
ソフトウェアの削除またはアンインストール 161
リモートインストール 62
ローカルインストール 62

Windows でのクライアントインストール
概要 90

Windows でのサイレントインストール
サーバー 79

Windows でのローカルインストール
サーバーソフトウェア 62

Windows での複数バージョンの削除
NetBackup 管理コンソール 86

Windows クライアント
NetBackup ソフトウェアの削除 161
インストールの制限 91
インストール方法 91
サイレントインストール 94、103
システム要件 91
ユーザー権限 91
リモートインストール 93
ローカルインストール 92

Windows クライアントのインストール方式
概要 91

Windows クライアントのシステム要件
概要 91

Windows クライアントソフトウェア
リモートインストール 94

Windows システム
インストール要件 54
クラスタのインストールおよびアップグレード要件 61

Windows システムからの削除
NetBackup LiveUpdate 164

Windows 版 NetBackup リモート管理コンソール
概要 86

Windows クライアント
構成 103

Windows クラスタのインストールまたはアップグレードの
確認
クラスタアドミニストレータコンソール 78

あ

インストールの続行
マスターサーバーのインストール後 45
インベントリ
スタンドアロンドライブ 141
ロボット 141

か

開始
NetBackup ウィザード 135
開始方法
NetBackup 管理コンソール 136

ガイドライン

スタンドアロンドライブのインベントリ 141

デバイス構成 139

バックアップポリシーの作成 142

ロボットインベントリ 141

概要

NetBackup Server の構成 135

Veritas Services and Operations Readiness

Tools 15

起動スクリプトと停止スクリプト 133

クライアントソフトウェアのプッシュインストール 51

バックアップポリシーの構成ウィザード 142

起動スクリプトと停止スクリプト

概要 133

起動と停止

NetBackup スクリプト 133

クライアントソフトウェアのプッシュインストール

概要 51

クラスタードミニストレータコンソール

Windows クラスターのインストールまたはアップグレードの確認 78

クラスターのインストールまたはアップグレード

Windows の確認 78

クリーニングメディア

バーコード規則 141

構成

NetBackup サーバー 135

NetBackup のストレージデバイス 138

NetBackup ボリューム 140

Windows クライアント 103

マスターサーバーとメディアサーバー 135

構成ガイドライン

NetBackup Enterprise Server 135

さ

作成

バックアップポリシー 142

推奨アップグレード手順

Veritas Operations Readiness Tools 20

推奨インストール手順

Veritas Operations Readiness Tools 16

スタンドアロンドライブ

インベントリ 141

スタンドアロンドライブのインベントリ

ガイドライン 141

ストレージユニット

定義 140

た

定義

ストレージユニット 140

デバイス構成

NetBackup ウィザード 138

ガイドライン 139

な

について

NetBackup 8.x アップグレードポータル 145

は

バーコード規則

クリーニングメディア 141

バックアップ形式

バックアップポリシー 142

バックアップポリシー

作成 142

作成のガイドライン 142

バックアップ形式 142

バックアップポリシーの構成ウィザード

概要 142

ボリュームの構成

NetBackup ウィザード 140

ま

マスターサーバー

インストールの続行 45

マスターサーバーとメディアサーバー

構成 135

や

よくある質問事項

ライセンスキー 29

ら

ロボット

インベントリ 141

ロボットインベントリ

ガイドライン 141